

間ニ利益ヲ博スル場合ハ博戯ト爲ルナリ之ニ反シテ關係者ノ動作以外ノ出來事カ勝敗ノ條件ト爲ル場合假令ハ前ノ博戯ヲ傍觀スル者カ其傍觀者雙互ノ間ニ於テ或ル利益ヲ得喪スルコトヲ約スルハ賭事ナリト論セリ此說ハ專ラ所爲ノ性質ヨリ立論シ博戯ノ場合ハ關係者ヨリ出ル動作又ハ關係者ノ依頼シタル第三者ヨリ出ル動作ニ依テ勝敗決セラレ賭事ノ場合ハ關係者ノ動作以外ノ出來事ニ依テ勝敗ノ決セラルルヲ云フ

第二 主觀說 博戯ハ利益ヲ得ルコトヲ以テ目的ト爲シ賭事ハ所信ヲ強ムルヲ條件ナリトスル說ナルカ故ニ同一外形ノ行爲ニシテ場合ニ因リテ博戯ト爲リ又賭事ト爲ルナリ設例ニ就テ之ヲ云ヘハ假令ハ圍碁將棋ノ場合ニ於テ自身ハ必ス之ニ勝ツヘント云フ主張ヲ確ムル爲メ幾分ノ利益ヲ付シテ之ヲ爭ヒタルニ過キカレハ賭事ト爲リ之ニ反シテ特ニ利益ヲ得ルノ目的ヲ以テスレハ博戯ナリト云フニ在リ此說ハ關係者ノ意思ヨリ立論シ博戯ノ場

合ハ偶然ノ出來事ニ因リ利益ヲ得ルヲ目的トシ賭事ノ場合ハ自己ノ所信ヲ強ムル爲メ條件付ニ利益ヲ與フルニ過キスト云ヒ二者共ニ動作ノ外形如何ヲ問フコトナクシテ關係者ノ意思ノ内容如何ヲ以テ兩者ヲ區別スルノ標準ト爲セリ

元來動作ノ外形ヲ以テ兩者ノ區別ト爲スノ說ハ一見シテ明瞭ナルカ如キモ其實適用ノ上ニ於テ殆ント其論旨ヲ貫徹スルコト能ハサル不便ニ遭遇スヘシ主觀說モ亦決シテ適用上ノ不便ナシトセス唯タ其不便ノ程度カ客觀說ニ比シ幾分カ勝レリトノ點ニ於テ寧ロ主觀說ヲ採ルキヘモノナリト信ス

第二說 博奕ニ二種アルコト第一說ノ如シ而シテ博戯トハ二人以上ノ者カ合意ヲ以テ勝敗ヲ爭フヘキ遊戯ヲ爲シ勝者ニ一定ノ金額又ハ有價物ヲ支拂フヲ云ヒ賭事トハ或ル事物ノ判斷ニ付キ意見ヲ異ニシタル者カ勝者ニ一定ノ金額又ハ有價物ヲ支拂フコトヲ約スルヲ云フ而シテ博戯ノ中ニモ民法上訴權アルモノト否ラサルモノトアリテ訴權

アルモノハ罰セラルヘキ理由ナキヲ以テ其中ニ包含セス而シテ殘餘ノ博戲ニ付テモ專ラ偶然ノ事ニ因テ勝敗ヲ決スルモノト主トシテ偶然ノ事ニ因テ勝敗ヲ決スルモノトアリテ法律ノ罰スヘキ博戲ハ勝敗ノ最モ確實ナラサルモノ隨テ最モ危險ノ多キモノ多ラサルヘカラサル故ニ法律ノ所謂博奕トハ前者ノモノニ限ルヘク夫ノ假令民法上訴權ナキモ其將棋玉突ノ如キ多少人ノ技術ニ依リテ勝敗ヲ決セラルヘキモノハ之ヲ包含セサルモノト謂ハサルヘカラス

第三說 博戲ト賭事ノ二者カ博奕ノ内容ヲ網羅スルモノタルハ固ヨリ論ヲ待タス而シテ博戲ト賭事ノ區別ハ前者ハ多少娛樂ト爲ルヘキ遊戯從テ或ル有形ノ能力即チ技術ヲ關スニ依テ勝敗ヲ決スルヲ云ヒ賭事ハ自己有形ノ技能ニ依ルニアラス專ラ自己ニ關セサル偶然ノ出來事ノ上ニ無形ノ能力即チ意見ヲ關スニ依テ勝敗ヲ決スルヲ云ヒ其間僅ニ勝敗ヲ決スヘキ手段ヲ異ニスルニ過キス

以上三說ハ各其理由ヲ異ニスト雖モ博戲ト賭事ノ二者カ博奕ヲ形成スル

ノ一事ニ至テハ一致セリ舊刑法ノ博奕ナル語ハ何レノ學說ヲ採用シタルモノナル乎ハ各々見ル所ヲ異ニス蓋シ數ノ免レサル所ナリ本法ハ茲ニ見ル所アリ斯ル汎博ノ辭句ヲ避ケ明ニ偶然ノ輸贏ニ關シ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ト規定シ此等ノ議論ヲ杜絶セリ蓋シ偶然ノ輸贏ト云ヘハ賭博ノ原因ハ其賭シタル結果カ何人モ明カニ知ルコトヲ得サル未來ノ出來事ヲ基礎トシ財物ヲ賭シテ勝敗ヲ決スルノ謂タルコト一見明瞭ニシテ其博戲ト賭事ヲ區別スルノ標準ハ以上掲クル三說ヲ參酌シ偶然ノ輸贏ヲ爭フコトニ關シ目的ノ如何ニ因リ判定スヘキ事實問題タルコト疑ヲ容レヌ

### 第二ニ就テ

舊刑法ハ現ニ博奕ヲ爲シ云々ト規定セリ前段已ニ詳説スル如ク博奕ノ意義ニ付キ種々ノ解釋ヲ生スルト同時ニ現文字ニ付テモ種々ノ議論アリ或ハ現ニトハ手ヲ下シテ博奕ニ從事シタル者即實行ヲ指スモノナリトシ總則第四百條ノ實行正犯ニ付テ二人以上現ニ罪ヲ犯シタルト云ヘルト同一趣旨ナリト解スル者アリ今日マテニ一致セル學說ハ現行犯罪ノ意義ナリ

ト謂フニ在リテ發覺ノ當時現ニ博奕ヲ爲スニ非サレハ罪ト爲ラストノ解釋一般ニ行ハル畢竟此法制ハ清律ニ則リ其之ヲ要シタル所以ハ彼ノ清律ノ註釋ニ所謂蓋非見發即無憑據恐有指攀誣陷之弊也ト云フニ在ルモノノ如ク專ラ罪證ノ檢舉ヨリ着眼シタルモノナルヘント雖モ罪證ノ消滅シ易キハ特リ此犯罪ノミニ限ラサルカ故ニ特ニ賭博犯ノミ現行犯罪ヲ處罰スルニ止ムヘキ理由ナキヲ以テ本法ニ於テハ之ヲ削除シタルモノノ如シ

第三ニ就テ

舊刑法ハ第二百六十一條但書ニ於テ飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラスト規定シタル爲メ狡猾ノ徒ハ飲食物ヲ以テ金錢ニ代用スルコト行ハルルニ至レリ是ヲ以テ本法ハ一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラスト規定シ飲食物ト雖モ金錢ニ代用シタル場合ノ如キハ之ヲ處罰シ飲食物ニアラスト雖モ單ニ一時ノ娛樂ニ供スルモノナルトキハ之ヲ處罰セサルコトトセリ唯一時ノ樂娛ニ供スル物トハ如何ナル物ヲ指稱スル乎ニ付テハ多少疑ヒナキ能ハスト雖モ要スルニ其賭物カ真ニ一時的娛樂ノ用ニ

供セラルヘキモノニシテ何レヨリ見ルモ金錢ニ代用セラレタル物ニアラサルトキハ之ヲ處罰セサルノ意義ナルヘキヲ以テ其認定ハ全然裁判所ニ一任シタルモノノ如シ

第八十六條第一項モ亦舊刑法第二百六十一條ノ趣旨ヲ修正シ新タニ設ケタル規定ニシテ舊刑法ハ何人ト雖モ博奕ヲ爲シタル者ニハ自由刑ヲ科スト雖モ賭博ヲ嚴禁スル趣旨ハ畢竟一時ノ射倖心ヲ制止シ産ヲ傾ケ身ヲ誤マルノ動機ヲ防遏セムトスルニ在レハ必スシモ科刑ノ程度ヲ自由刑ノ一種ニ限ルノ要ナシ故ニ本法ニ於テハ常習トシテ賭博ヲ爲ス者ト否ラサル者ヲ區別シ本條ニ於テ常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ヲ處罰スル規定ヲ設ケタリ而シテ本項ノ罪ハ前條ト異ナリ其弊害頗ル大ナルヲ以テ重ク之ヲ處罰スルコトトセリ第二項ハ舊刑法第二百六十條ト全然同一趣旨ノ規定ナリトス

第八十七條第一項ハ舊刑法第二百六十二條ト全ク同一趣旨ノ規定ニシテ唯文字ヲ修正シタルニ止マル第二項ハ明治十五年第二十五號布告第一條ノ

富籤賣買ノ牙保ノ規定ヲ修正シ牙保ノ文字ヲ取次ニ改メ第三項ハ同布告第二條ヲ修正シタルモノナリ同條ハ賄買者及ヒ讓受人ニ限リ之ヲ處罰スル趣旨ナルモ其範圍狹キニ失スルカ故ニ廣ク授受シタル者ト改メ尙其刑ハ重キニ失スルヲ以テ科料ニ處スルコトトセリ

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第百八十八條 神祠、佛堂、墓所、其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス  
第百九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞遺

棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十一條 第百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第一 沿革

第一案 第二百七十六條 惡意ヲ以テ死屍ヲ殘毀シ又ハ消失セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ有役禁錮ニ處ス

死屍ヲ保護シ又ハ埋葬ス可キ責任アル者死屍ヲ遺棄シタルトキ亦同シ若シ殘毀シ又ハ消失セシメタルトキハ一等ヲ加フ

第二百七十七條 惡意ヲ以テ墳墓ヲ發掘シ棺槨又ハ死屍ヲ露ハシタル者ハ二月以上一年六月以下ノ有役禁錮ニ處ス

因テ死屍ヲ殘毀シ又ハ之ヲ他所ニ移轉シタル者ハ一等ヲ加フ  
第四百一條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ於テ神佛又ハ死者ニ對シ  
公然不敬ノ所爲ヲ行ヒタル者ハ二日以上十日以下ノ拘留又ハ二  
圓以上二十圓以下ノ科料ニ處ス  
若シ說教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ加フ

第二案

第二百十九條 神祠佛堂墓所其他拜禮所ニ對シ公然不敬ノ行爲  
ル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
說教禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以  
下ノ罰金ニ處ス

第二百二十條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十一條 死體遺骨又ハ棺内ニ藏置シタル物件ヲ毀損遺棄

若クハ領得シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十二條 第二百二十條ノ罪ヲ犯シ因テ死體遺骨又ハ棺内

ニ藏置シタル物件ヲ毀損遺棄若クハ領得シタル者ハ五年以下ノ

懲役ニ處ス

第二百二十三條 允許ヲ得スシテ改葬ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

檢視ヲ經スシテ變死ノ屍ヲ葬リタル者亦同シ

第三案

第二百十九條 第二案ニ同シ

第二百二十條 第二案ニ同シ

第二百二十一條 死體遺骨遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞遺

棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十二條 第二百二十條ノ罪ヲ犯シ死體遺骨遺髮又ハ棺内

ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタル者ハ五年以下ノ懲役

ニ處ス

第二百二十三條 允許ヲ得スシテ改葬ヲ爲シタル者ハ五十圓以下

ノ罰金又ハ科料ニ處ス

檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者亦同シ

第四案 第二百十八條 第二案第二百十九條ニ同シ

- 第二百十九條 第二案第二百二十條ニ同シ
- 第二百二十條 第三案第二百二十一條ニ同シ
- 第二百二十一條 第三案第二百二十二條ニ同シ
- 第二百二十二條 第三案第二百二十三條ニ同シ

第二 參照法律

佛蘭西刑法

第二百六十條 暴行脅迫ヲ以テ一人又ハ數人ヲシテ政府ノ允許アル禮拜ヲ強テ行ハシメ或ハ其禮拜ニ出席セシメ或ハ祭禮ヲ行ハシメ或ハ休業ヲ爲サシメ又ハ此等ノ事ヲ爲スヲ阻害シ其一人又ハ數人ノ工作場商舖或ハ倉庫ヲ強テ開閉セシメ且或種ノ工業ヲ強テ爲サシメ或ハ止メシメタル者ハ其所行ノミヲ以テ十六フランクヨリ少カラス二百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且六日ヨリ少カラス二月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラルヘシ

第二百六十一條 寺院又ハ其他ノ禮拜ヲ行ハント爲ス場所或ハ現ニ之ヲ

行フ場所ニ於テ騒動混亂ヲ起シ其禮拜ヲ行フノ妨ケヲ爲シ或ハ之ヲ遅延セシメ或ハ停止セシムル者ハ十六フランクヨリ少カラス三百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ六日ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百六十二條 禮拜ヲ行ハント爲ス場所或ハ現ニ禮拜ヲ行フ場所ニ於テ言詞或ハ體様ヲ以テ禮拜ヲ爲ス諸物ニ不敬ヲ加ヘシ者又ハ禮拜ニ管スル僧徒ノ其職務ヲ行フニ當リ其僧徒ニ不敬ヲ加ヘシ者ハ十六フランクヨリ少カラス五百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且十五日ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百六十三條 禮拜ニ管スル僧徒ノ其職務ヲ行フニ當リ其僧徒ヲ毆撃セシ者ハ公權剝奪ノ刑ニ處セラル可シ

第二百六十四條 此一節ニ記スル所ノ規則ハ他ノ條ノ規則ニ循ヒ更ニ重キ刑ニ處スヘキ景狀ナキ障礙不敬暴行ノミニ通シテ用フ可シ

第二百六十條 墳墓ニ暴行ヲ加ヘシ者ハ三月ヨリ少カラス一年ヨリ多カ

ラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ此規則ト其犯人ノ此暴行ニ附加シテ犯シタル輕重罪ニ付キ受ク可キ刑ト相觸ルルコトナカル可シ

白耳義刑法

第四百十二條 凡ソ強暴脅迫ニ依テ一人若クハ衆人ニ宗教ノ信奉ヲ妨ケ其教祭ヲ行フヲ害シ之カ爲メニ安息ヲ得セシメス數々製作所或ハ舗店ヲ開閉セシメ其營ム所ノ職業ニ舉作ノ度ヲ誤ラシムル者ハ八日ヨリ二月迄ノ獄ニ處シ且ツ二十六「フランク」ヨリ一百「フランク」迄ノ罰金ヲ科ス可シ

第四百十三條 凡ソ宗教祭事説教等ノ場所若クハ常ニ祭典ヲ行フノ場所ニ於テ混雜ヲ醸シ宗教ヲ妨ケ或ハ止メ或ハ延滞セシムル者ハ八日ヨリ三月マテノ獄ニ處シ且ツ二十六「フランク」ヨリ五百「フランク」迄ノ罰金ヲ科スヘシ

第四百十四條 凡ソ罵詈暴動ノ如キ或ハ言或ハ行ヲ以テ常ニ宗教ノ儀式ヲ行フ場所若クハ寺宇等ヲ凌辱スル者ハ十五日ヨリ六月マテノ獄ニ處シ且ツ二十五「フランク」ヨリ五百「フランク」マテノ罰金ヲ科スヘシ

第四百十五條 凡ソ言或ハ行或ハ舉動或ハ恐喝シ宗教ヲ行フノ際僧徒ヲ凌辱スル者モ同罪

其僧徒ヲ毆ツ者ハ二月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ且ツ五十「フランク」ヨリ五百「フランク」マテノ罰金ヲ科スヘシ

第四百十六條 凡ソ僧徒ヲ毆テ流血傷痍疾病ノ原由ヲ醸ス者ハ六月ヨリ五年マテノ獄ニ處シ且ツ百「フランク」ヨリ五百「フランク」マテノ罰金ヲ科スヘシ

第四百五十三條 墓或ハ棺ヲ侵スハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處シ二十六「フランク」ヨリ二百「フランク」マテノ罰金ヲ科スヘシ

獨乙刑法

第六十六條 公然ト暴言ヲ以テ神ヲ罵リ又公然ト耶穌宗徒又ハ連邦領

地ニ置カレ且宗徒社トシテ許可シタル宗徒又其宗徒ノ編制(其規則等)又其禮式ヲ誹ル者又寺内及ヒ宗徒衆會ノ爲メニ設ケタル場所ニテ亂暴シタル者ハ三年ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ

第百六十七條 國內ニ置カレタル宗徒社ノ教法ヲ行フ時暴行恐嚇ヲ以テ之ヲ妨ケ又寺内又宗徒集會ノ爲メニ設ケタル場所ニテ高聲ヲナシ又騷擾ヲ爲シ故ラニ國內ニ置カレタル宗徒社ノ教法又ハ其教法ノ禮式ヲ妨ケ又亂暴シタル者ハ三年ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ

第百六十八條 其權利アル者死體ヲ看守スル時其覺サルヨウ之レヲ盜ミ又濫ニ墳墓ヲ毀テ又之レヲ損壞シ又其墳墓ヲ穢シタル者ハ十年ヨリ長カラサル禁獄ニ處シ仍ホ公權ヲ剝奪スヘシ

英吉利刑法典

一 故意ヲ以テ政府ノ允許アル教徒ノ集會ヲ妨害シ又ハ說法者ヲ輕蔑スル者ハ二十封度ノ罰金ヲ科ス

一 拜神所及墓地ニ於テ騷擾亂暴無禮淫褻ノ所行ヲ爲ス者及ヒ說法者又

ハ僧徒ヲ煩惱妨害スル者ハ五封度以下ノ罰金或ハ之ヲ出ス能ハサレハ二月以下ノ入獄ニ處ス

一 耶蘇教ノ宗徒ニアリテ天神ハ一ニアラス若クハ耶蘇宗門ニ信誠ニアラス發言傳説スル者初犯ハ寺門官府等ノ官職ニ就クコトヲ得サラシメ再犯ハ縱ヒ其人他人ニ侵犯セラルレトモ官司ニ訟告スルコトヲ得サラシメ及ヒ三年ノ入獄ニ處シ保釋スルコトヲ許サス

若シ初犯四月内ニ自ラ官司ニ首出シ其過ヲ悔ヒ改心スル者ハ其罪ヲ免ス

一 神道若クハ宗門ニ違反シテ誓詞ヲ爲シ或ハ盟咀スル者ハ五シルリングノ罰金ヲ出サシメ下等ノ人ハ二シルリングノ罰金ヲ出サシム竝ニ貧民ノ爲メノ養贍料ト爲ス再犯スル者ハ之ヲ倍進シ三犯以上ノ者ハ三倍ノ罰金及ヒ裁判所ノ冗費ヲ追徴ス若シ之ヲ出ササル者ハ十日ノ入獄ニ處ス竝ニ治安裁判所ニ於テ八日内ニ推問處斷ス

若シ治安裁判所ノ過テ推問セサル者ハ五封度ノ罰金ヲ出サシメ捕吏ノ



過テ捕ヘサル者ハ四十シリングノ罰金ヲ出サシム

- 一 發塚シテ死屍ヲ盜ミ因テ解剖ヲ爲サントシ又ハ之ヲ賣テ利益ヲ得ントスル者ハ輕罪ト爲シ贖金及ヒ入獄ニ處斷ス
- 一 墓石ノ記文ヲ消滅スル者ハ習慣法ニ依リ入獄及ヒ贖金ニ處ス

埃太利刑法

第二百二十二條 左ノ各件ヲ犯セシ者ハ教法ヲ妨害セシ重罪ヲ以テ之ヲ論スヘシ

- 第一項 言語所業者クハ印本或ハ筆記ヲ廣布シテ天主ヲ褻瀆セシ者
- 第二項 國許ニ係ル教法ノ施行ヲ妨碍セシ者或ハ天主ノ祠祭ニ供セシ物件ニ不敬ノ暴行ヲ加フルカ又ハ言語所業者ハ印本筆記等ヲ廣布シ以テ公然ニ教法ヲ罵辱セシ者
- 第三項 基督教徒ヲ其教徒ヨリ反離セシメシコトヲ誑誘セントセシ者
- 第四項 教法ヲ信ス可ラスト爲ス説若クハ基督教ヲ排ス可キ邪説ヲ流布セントセシ者

註ニ曰ク法律ヲ以テ國許セシ教法ハ即羅馬加特力教希臘加特力教亞爾米加特力教特派希臘教兩派ノ新教一體一神基督教及ヒ猶太教是ナリ

本條第三項及ヒ第四項ノ規則ハ廢止セラレタリ  
第二百二十三條 教法ノ妨害ニ由リ世人ヲシテ嫌惡ヲ發セシメシ者或ハ教法ヲ支離セシメシ者若クハ一般ノ危險ヲ發セシメシ者ハ一年乃至五年ノ重徒刑ニ處シ其奸惡及ヒ危險ノ著大ナル時ハ其刑期ヲ十年迄ニ至ラシムヘシ

第二百二十四條 前條ニ記セシ情狀ノ全ク存セサル時ハ教法妨害ノ重罪犯ハ之ヲ六月乃至一年ノ徒刑ニ處ス可シ

第二百三條 公然衆人ノ目前ニ於テスルカ或ハ印刷書類暗擬ノ圖書文書ヲ用ヒ依テ國內成憲ヲ以テ創立セル寺院若クハ宗教仲間ノ教戒作法施設ヲ嘲弄或ハ蔑如シ或ハ其僧侶事神ノ務メニ服スルヲ凌辱シ又ハ其公然法教修行ヲ爲スノ席中ニ於テ衆人ヲ憤起セシメシ爲メ無禮ノ舉動ヲ爲セル者凡ソ其所業第二百二十二條ニ掲載スル如ク法教妨害ノ重罪ト爲

スニ至ラサルニ於テハ之ヲ輕罪トシ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス可シ

第三百四條 竝ニ又行政官已ニ禁止セル宗派ヲ或ハ設立或ハ播傳シ又ハ爲メニ集會演說公布等ヲ爲シ歸依人ヲ募リ爾他凡ソ此目的ヲ達ス可キ爲メ或所業ヲ企ツル者モ亦齊シク輕罪トシ一月以上六月以下ノ禁獄ニ處スヘシ

第三百六條 人ノ死體ヲ埋葬スヘキ墓地ヲ暴惡若クハ放肆ニ任セテ毀壞シ擅ニ墳墓ヲ發掘シ人體ノ若干部分ヲ取出シ或ハ死體ニ對シ暴辱ノ所業ヲ爲セシ者ハ之ヲ輕罪トシ一月以上六月以下ノ重禁獄ニ處スヘシ但シ貪慾ヲ以テ墓地墳墓及ヒ死體ニ需用セシ物品ヲ掠奪セル罪ハ第七十二條及ヒ第四百六十條ニ據リ竊盜罪ヲ以テ論ス可シ  
第三百七十五條 死體檢査ノ時死亡ノ時刻ヲ偽リ因テ假埋葬ノ律ニ觸レスシテ成規ノ時間ヨリ早ク之ヲ埋メ身體支離セシメ得ント欲スル者ハ之ヲ違式罪トシ一月以上六月以下ノ重禁獄ニ處セラル可シ

魯西亞刑法

第八十二條 故ラニ寺中ニ於テ公然三位一體神(即チ天帝)及ヒ神母(マリヤ)其他神聖ノ十字架諸聖靈或ハ其肖像ニ對シ暴辱ノ罪ヲ犯ス者ハ重刑ノ第二類第三等刑ニ處セラルヘシ  
又本罪ヲ寺外公然ノ場所或ハ群集ノ地ニ於テ犯ストキハ重刑ノ第二類第六等刑ニ處セラルヘシ

第八十三條 第八十二條ニ記載セル重罪ヲ公然或ハ群集ノ地ニ於テスルニ非ス然レトモ他人ノ面前ニ於テ之ヲ犯シ以テ其信仰ヲ薄クシ或ハ侮辱ヲ生セシムル爲メニ之ヲ爲ストキハ重刑ノ第三類第一等刑ニ處セラルヘシ

第八十四條 故ラニ公然ノ地群集ノ面前ニ於テ救世主ナル耶穌ノ信仰正教(キリシヤ)ノ寺院聖書聖約ヲ侮辱スル者ハ重刑ノ第二類第六等刑ニ處セラルヘシ若シ此犯罪群集ノ面前ニ於テスルニ非ス然レトモ證人ノ面前或ハ他人ノ信仰ヲ薄クシ或ハ憤懣ヲ生セシムル爲メニ犯爲スルト

キハ重刑ノ第三類第一等刑ニ處セラルヘシ

第百八十五條 故ラニ公然ノ場所ニ於テ天帝或ハ諸聖靈ヲ瀆蔑シ或ハ耶蘇宗教正教ノ寺院聖書聖約ヲ辱シムル者有ルトキ該地ニ在リナカラ之ヲ官ニ告發セサル者ハ情狀ニ從ヒ六月以上一年以下禁獄或ハ三週間以上三月以下禁錮ノ刑ニ處セラルヘシ

第百八十六條 瀆神ノ言詞或ハ諸聖靈正教ノ寺院ニ對スル侮辱ノ語ヲ公然ノ場所ニ於テ演フルトキハ之ヲ蔑如スルノ意ニ出テス唯不知不覺或ハ醉狂ニ出ツルト雖トモ情狀ニ從ヒ一年以上二年以下第五十三條ニ掲クル公權ヲ剝奪シテ懲治監ニ入レ或ハ六月以上一年以下諸權利ヲ剝カスシテ懲治監ニ入レ或ハ六月以上二年以下ノ刑ニ處セラルヘシ

第百八十七條 印刷或ハ手書ヲ以テ天帝諸聖靈耶蘇教或ハ正教ノ寺院聖書聖約ヲ侮辱スル言ヲ陳ヘ之ヲ播衍スル者ハ重刑ノ第三類第一等刑ニ處セラルヘシ又情ヲ知テ該書ヲ販賣或ハ取次ヲ爲セシ者モ皆同刑トス

第百八十八條 暴辱ノ言語ヲ以テ耶蘇正教或ハ其寺院ノ法令戒則ニ對ス

ル侮辱ヲ爲セシ者ハ六月以上一年以下禁獄ノ刑ニ處セラルヘシ正教ヲ侮辱スルノ目的ニ出テス唯タ人ニ蔑視ノ語ヲ演フル者ハ三週以上三月以下禁錮ノ刑ニ處セラルヘシ

第百八十九條 聖靈ヲ侮辱スヘキ目的ヲ以テ圖書銅刻木鏤鑄器等ヲ以テ諸人ノ憤懣ヲ生スヘキ肖像ヲ造リ或ハ販賣或ハ播衍スル者ハ重刑ノ第三類第一等刑ニ處セラル可シ又惡意無ク唯タ不覺不知ヲ以テ同上ノ罪ヲ犯ス者ハ情狀ニ從ヒ三月以上六月以下入獄或ハ三日以上三週間以下禁錮ノ刑ニ處セラレ而シテ其肖像ハ皆之ヲ破碎スヘシ

第百二十三條 宗教ノ本トセル天帝ヲ恭敬尊信セス故ラニ寺院中ニ於テ神器或ハ神事ニ用ユル物件ヲ蔑如スル者ハ重刑ノ第二類第三等刑ニ處セラル可シ又晚餐或ハ他ノ靈物ヲ故ラニ穢瀆セル者ハ重刑ノ第二類第二等刑ニ處セラル可シ

第百二十四條 寺内或ハ寺外ニ於テ僧徒ノ其職務ヲ奉シ神事ヲ勤ムル者ニ對シ故ラニ暴辱ノ所業ヲ爲シ禮拜ヲ爲サシメサル者ハ重刑ノ第三

類第一等刑ニ處セラル可シ又該人若シ本罪ヲ唯タ醉狂ヲ以テ犯爲スル  
カ或ハ其他總テ該所業故意ニ出サル事ノ判然セルトキハ本刑ニ一等ヲ  
減シ即チ重刑ノ第三類第三等刑ニ處セラル可シ其他犯人若シ耶蘇宗ニ  
屬スル者ナルトキハ必ス其宗教事務局ノ法ヲ以テ之ニ懲戒ヲ加フヘ  
シ

第二百二十五條 僧徒ノ神事ヲ勤メ或ハ教導ニ從事スル時ニ方リ該人ヲ  
殺害セントスルノ故意ナク唯タ該人ヲ毀傷セント欲スルノ意思ヲ以テ  
死ニ致ストキハ重刑ノ第二類第三等刑ニ處セラル可シ又僧徒ノ神事ヲ  
勤ムルトキ故ラニ其身體ヲ毀傷セン者ハ重刑ノ第二類第五等刑ニ處セ  
ラル可シ

或ハ又同上毀損ノ罪ヲ一定ノ故意無クシテ犯ストキハ重刑ノ第二類第  
七等刑ニ處セラル可シ

第二百二十六條 僧徒ノ禮拜ニ當リ之ヲ侮辱スル爲メ神靈ニ對スル非禮  
ノ言語所業動措ヲ爲ス者ハ情狀ニ從ヒ第五十三條ニ掲ケシ權利ノ剝奪

或ハ二年以上三年以下懲治監或ハ六月以上一年以下禁獄ノ刑ニ處セラ  
ル可シ

第二百二十七條 僧徒禮拜ヲ勤ムルトキ之ヲ非禮侮辱ノ言語ヲ以テ辱  
カシメ其禮拜ヲ中止セシメシ者ハ其侮辱ノ輕重ニ從ヒ六月以上一年以  
下懲治監或ハ三月以上六月以下禁獄ノ刑ニ處セラル可シ

第二百二十八條 第二百二十六條及ヒ第二百二十七條ニ記載セル重罪ノ  
一ヲ故意無ク或ハ不覺酩酊ヲ以テ犯爲セルトキハ三週以上三月以下禁  
錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百二十九條 外國ノ宗教ヲ尊信スル者魯國正教ノ僧侶ニ對シ其寺院  
ヲ蔑如ス可キ爲メ言語或ハ所業ヲ以テ侮辱ヲ爲ス者ハ假令其僧侶ノ禮  
拜ノ際ニ非スト雖モ六月以上一年以下禁獄再犯ニ於テハ一年以上二年  
以下禁獄ノ刑ニ處セラル可シ

第二百三十條 耶蘇法教ニ對シ非禮ヲ表スヘキ爲メ公然ノ場所ニ設立セ  
ル十字架及ヒ救世主耶蘇神母マリア及ヒ天使ノ肖像ヲ破却或ハ毀傷セ

シ者ハ六月以上一年以下懲治監ノ刑ニ處セラル可シ且ツ該人耶蘇宗門ニ屬スルトキハ寺罰ヲ加フ可シ

或ハ唯々不覺若クハ沈靜ノ餘同上ノ罪ヲ犯ストキハ三週以上三月以下禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百三十一條 寺院中或ハ其他神靈ニ供奉セル場所ニ於テ禮拜ノ式ヲ行フニ當リ其調整ヲ妨ケ或ハ酩酊無狀ノ態ヲ爲シ或ハ號叫或ハ大笑其他騷動強暴等ノ所業ヲ爲シ諸人ヲ妨害スル者ハ情狀ニ從ヒ五十「ヨベ」ケン以上「ル」ベル以下ノ罰金或ハ三月以上七月以下禁錮ノ刑ニ處セラル可シ然レトモ以上ノ動措ヲ以テ禮拜ヲ妨ケシカ或ハ之ヲ中止セシメシトキハ該人三週以上三月以下禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百三十二條 教導職或ハ僧侶ノ輩寺中或ハ禮拜ノ時ニ方リ其禮式或ハ調整方ヲ紊リシ者ハ宗教事務局ニ於テ寺院法ニ從テ之ヲ罰スヘシ又寺院用達人寺中ニ於テ祠神ノ時他人ヲ手擲或ハ器具ヲ以テ毆擲スルトキハ其職ヲ剝キ第二十條ノ規則ニ從テ之ヲ罰ス可シ

第二百三十三條 寺院中禮拜ノ時ニ方リ正ニ其式ヲ行フヘキ場所ヘ席ヲ取リ或ハ神檯ニ直接セシ寺内辨務者注意ストイヘトモ直チニ該席ヲ去ラサル者ハ五十「ヨベ」ケン以上「ル」ベル以下ノ罰金又再犯ニ於テハ三日以上七日以下ノ禁錮ニ處ス可シ

第二百三十四條 禮拜ノ時ニ差圖ヲ聽カス敢テ皇族ノ爲メニ設ケシ位席或ハ其他一般ノ規則或ハ特ニ本寺ノ慣例ニ於テ他人ノ坐スヘカラサル席ニ着スル者ハ亦同上ノ刑ニ處セラル可シ

第二百三十五條 寺院中禮拜ノ式有ルトキニ方リ僧官或ハ官吏ニ懇願書ヲ進呈セシ者ハ一日以上三日以下ノ禁錮ニ處セラル可シ

第二百五十六條 死體ヲ奪フ爲メ或ハ之ニ侮辱ヲ加フヘキ爲メ墳墓ヲ發ク者ハ重刑ノ第二類第四等刑ニ處セラル可シ又死體ニ對シ或ル昏迷ノ所業ヲ爲ス爲メニ墳墓ヲ發ク者ハ重刑ノ第三類第二等刑ニ處セラル可シ若シ輕卒或ハ醉狂ヲ以テ墳墓ヲ發ク者ハ六月以上一年以下懲治監ノ刑ニ處セラル可シ

第二百五十七條 亡人或其家族ニ對スル仇怨ヲ挾ミ其墓標或ハ墓地ヲ損傷スル者ハ六月以上一年以下禁獄ノ刑ニ處セラル可シ或ハ又同上ノ罪ヲ唯タ醉狂ヲ以テ犯爲スルトキハ十ル<sup>ル</sup>以上五十ル<sup>ル</sup>以下ノ罰金ニ處セラル可シ凡ソ右ノ場合ニ於テハ犯人必ラス其墓標ヲ修覆スルヲ要ス犯人又墓標ノ外面ニ供セシ文飾或ハ全墓標ヲ奪掠セシトキハ第二千五百五十九條中竊盜罪ニ對スル刑例ノ尤モ重キモノヲ以テ處セラル可シ

印度刑法

第二百九十五條 宗教ヲ侮慢スルノ意ヲ以テ一宗派ノ拜禮所ヲ毀損汚瀆スル者ハ二年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ併科ス

第二百九十六條 法ニ循ヒ禮拜或ハ其他宗教上ノ式ヲ行フ爲メニ集リタル集會ヲ妨クル者ハ一年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ併科ス

第二百九十七條 拜禮所墓地又ハ葬式ヲ行フ所ニ侵入シ人ノ死體ヲ凌辱シ又ハ葬禮ニ會スル人ヲ煩擾スル者ハ一年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ併科ス

埃及刑法

第二百十條 何人ニ限ラス殺害ニ逢シ人ノ屍ヲ隱匿シ又ハ相當ノ官吏ニ其殺害ノ由ヲ報告シテ檢屍ヲ受ケサル前ニ其屍ヲ埋葬シタル者ハ一月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百<sup>ピ</sup>アストル<sup>ル</sup>ヨリ少カラス五百<sup>ピ</sup>アストル<sup>ル</sup>ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ但シ其犯人殺害ノ罪ヲ犯セシ本人又ハ其同犯人タル時ハ此限ニ在ラス

土耳其刑法

第三百二十二條 何人ニ限ラス土耳其帝國臣民ノ官許アル宗教ノ禮拜及ヒ儀式ヲ行フニ當リ之ヲ騷擾シ或ハ暴行脅迫ヲ以テ之レヲ阻害シタル者ハ一週間ヨリ少ナカラス三ヶ月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラ

和蘭刑法

第四百十七條 左ニ記スル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ百二十フロラン以下ノ罰金ニ處ス

第一 僧侶カ其職務ヲ行フニ當リテ之ヲ嘲弄シタル者

第二 或ル宗教ヲ行フコトヲ許ス場所ニ於テ且之ヲ許ス時間ニ其宗教ノ用ニ供スル物件ヲ凌辱シタル者

第四百十八條 墓地ノ出入ヲ許シ又ハ墓地ニ死體ヲ運送スルコトヲ許シタル場合ニ於テ故意ヲ以テ其出入又ハ運送ヲ妨害シタル者ハ一月以下ノ禁錮又ハ百二十フロラン以下ノ罰金ニ處ス

(原註)千八百六十九年ノ法律第三十九條乃至第四十四條

第四百十九條 故意ヲ以テ墳墓ヲ犯シ又ハ故意ニ且不法ニ墓地ニ建設アル紀念碑ヲ毀壞損傷シタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第四百五十條 故意ニ且不法ニ死體ヲ發掘シ又ハ之ヲ取去リタル者又ハ發掘シ若クハ取去リタル死體ヲ轉置シ又ハ之ヲ他所ニ運送シタル者ハ一

年以下ノ禁錮又ハ三百フロラン以下ノ罰金ニ處ス

第四百一十一條 死亡又ハ出産ヲ隱蔽スルノ意ヲ以テ死體ヲ埋葬シ隱匿シ持去リ又ハ消失セシメタル者ハ六年以下ノ禁錮又ハ三百フロラン以下ノ罰金ニ處ス

那威刑法

第四百十二條 王國ニ於テ布教ヲ許可シタル信仰的信條ヲ公然嘲罵又ハ侮蔑シタル者又ハ其協力者ニハ金刑又ハ六月以下ノ拘留又ハ禁錮ヲ科刑ス

第四百十三條 死體ヲ虐遇シ又ハ他人ノ勢力内ニ在ル死體ヲ權限ナクシテ奪取シ又ハ埋葬セル死體ヲ法律上ノ權利ナクシテ發掘又ハ遷移シタル者又ハ其協力者ニハ二年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

特別ノ減輕事由アルトキハ重刑ヲ裁定スルコトヲ得

ハ其協力者ハ第二十四條ニ依テ處刑シ其死體又ハ物件ハ人ノ所有ナルト否トヲ論セス

埃太利刑法草案

第七十二條 何人タリトモ國內ニ現存スル教會ノ信徒ニ暴力ヲ使用シ又ハ之ヲ以テ威迫シ又ハ不法ニ損害ヲ加フ可キコトヲ脅迫シテ神ノ禮拜ヲ妨ケタル者竝ニ何人タリトモ這般ノ教會ノ禮拜又ハ禮拜式又ハ祈念ヲ行フコトヲ妨ケ又ハ遮リタル者ハ三年以下ノ禁錮ヲ以テ處刑セラ

ル、モノトス  
第七十三條 何人タリトモ公然第九十條第二號神ヲ凌辱シ信神ヲ妨ケント試ミ又ハ宗教ニ不遜ナル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ヲ以テ處刑セラルルモノトス

第七十四條 左ノ者ハ二年以下ノ禁錮ヲ以テ處刑セラルルモノトス  
第一 何人タリトモ公然第九十條第二號法律上認メラレタル教會ノ制度教理又ハ習慣又ハ其宗教上尊敬ス可キ物件ヲ嘲罵シタル者

第二 何人タリトモ神ノ禮拜ニ捧ケタル若クハ神聖ニ保ラレタル物件又ハ寺院又ハ他ノ許サレタル宗教上ノ會合ニ定メラレタル場所ニ於テ神ヲ汚辱スル不禮ノ行爲ヲ爲シタル者

第七十五條 何人タリトモ神ノ禮拜式ヲ行フノ際法律上認メラレタル教會ノ牧師ヲ侮辱シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五百フラン以下ノ罰金ヲ以テ處刑セラルルモノトス

第七十六條 何人タリトモ神ノ禮拜式ヲ行フノ際法律上認メラレタル教會ノ牧師ニ暴行ヲ行ヘタル者ハ一年以下ノ禁錮ヲ以テ處刑セラルルモノトス

第七十七條 何人タリトモ死體ヲ葬ル爲メ之ヲ保藏ス可ク定メラレタル場所又ハ墓碑ニ汚辱ヲ加フルノ舉動ヲ爲シ又ハ這般ノ場所ヨリ死體又ハ其一部ヲ奪取シ又ハ死體ニ殘行ヲ加ヘ又ハ墳墓ヲ破碎シ又ハ毀損シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五百フラン以下ノ罰金ヲ以テ處刑セラルルモノトス



第七十八條 何人タリトモ帝國法典第四百十二號達千八百六十七年十月二十一日付國憲第十六條ヲ以テ禁止セラレタル宗教ヲ廣メント試ミタル者ハ六月以下ノ禁錮ヲ以テ處刑セララルモノトス

瑞西刑法典案

第一百條 故ラニ祈禱又ハ祈禱的行爲ヲ妨礙シ又ハ障礙シタル者祈禱又ハ祈禱的行爲ニ供セントスル物體ヲ其際又ハ其場所ニ於テ汚瀆シタル者ニハ五千フランク以下ノ罰金又ハ禁錮ヲ科刑ス  
第一百二條 死者ノ墳墓ノ平和ヲ傷害シタル者葬儀ノ行列ヲ妨礙シタル者ニハ一千フランク以下ノ罰金又ハ禁錮ヲ科刑ス

唐律

諸盜毀天尊像佛像者徒三年即道士女冠盜毀天尊像僧尼盜毀佛像者加役流  
真人菩薩各減一等盜而供卷者杖一百相毀不  
諸殘害死屍及棄屍水中者各減聞殺罪一等總麻尊長乘而不失及髡若傷者各又減一等即子孫於祖父母父母部曲奴婢於主者各不減

諸穿地得死人不更埋及於冢墓熾狐狸而燒棺槨者徒二年燒屍者徒三年總麻以上尊長各遞加一等卑幼各依凡人遞減一等  
若子孫於祖父母父母部曲奴婢於主冢墓熾狐狸者徒二年燒棺槨者流三千里燒屍者絞

諸祭冢者加役流發微即也招魂而葬亦非已開棺槨者絞發而未徹者徒三年  
其冢先穿及未殯而盜屍柩者徒二年半盜衣服者減一等器物甄版者以凡盜論

明律

凡發掘墳塚見棺槨者杖一百流三千里已開棺槨見屍者絞發而未至棺槨杖一百徒三年掘魂而葬亦非若塚先穿陷及未殯埋而盜屍柩者杖九十徒二年半開棺槨見屍者亦絞其盜取器物磚石者計贓准凡盜論免刺  
若卑幼發尊長墳塚者同凡人論開棺槨見屍者斬若棄屍賣墳地者罪亦如之買地人牙保知情者各杖八十追價入官地歸同宗親屬不知者不坐若尊長發卑幼墳塚開棺槨見屍者總麻杖一百徒三年小功以上各遞減一等發子孫墳塚

開棺槨見屍者杖八十其有故而依禮遷葬者俱不坐

若殘毀他人死屍及棄屍水中者各杖一百流三千里謂死屍立家或在野未殯

槨是屍律從重論槨若毀棄總麻以上尊長死屍者斬棄而不失及髡髮若傷者

各減一等總麻以上卑幼各依凡人遞減一等毀棄子孫死屍者杖八十其子孫

毀棄祖父母父母及婢雇工人毀棄家長死屍者斬

若穿地得死屍不即掩埋者杖八十若於他人墳墓燻狐狸因而燒棺槨者杖八十

徒二年燒屍者杖一百徒三年若總麻以上尊長各遞加一等卑幼各依凡人遞

減一等若子孫於祖父母父母及奴婢雇工人於家長墳墓燻狐狸者杖一百燒

棺槨者杖一百徒三年燒屍者絞

若平治犯入墳墓爲田園者杖一百於有主墳地內盜葬者杖八十勤限移葬

若地界內有死人里長地隣不申報官司檢驗而輒移他所及埋藏者杖八十以致

失屍者杖一百殘毀及棄屍水中者杖六十徒一年棄而不失及髡髮若傷者各

減一等因而盜取衣服者計贓准竊盜論免刺

清律

招魂而葬亦是爲從減一等

除悉與明律同

第三 釋義

本章ノ規定ハ舊刑法第二編第七章及ヒ第二百六十三條ヲ合シテ

少シク之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

本章ノ規定ニ付テハ別ニ註釋ヲ試ムヘキ必要ナキモノノ如シト雖モ各本條

ニ就テハ聊カ修正ノ點ヲ指示スルノ要ナキニアラサレハ聊カ説明スル所ア

ラントス

第百八十八條ハ舊刑法第二百六十三條ト趣旨ニ於テ異ナル所ナジ唯舊刑法

ハ刑期輕キニ失スルヲ以テ之ヲ重クシタルニ過キス且第二項ニ說教及ヒ禮

拜ノ外葬式ノ妨害ヲ加ヘタルハ近時屢々起リタル實例ナルヲ以テ之ヲ補充

シタルモノナルヘシ

第百八十九條ハ舊刑法第二百六十五條ト其趣旨ヲ同フシ唯墳墓ヲ發掘シタ

ル行爲ノミヲ罰シ死體等ヲ露出遺棄若クハ毀損シタル場合ヲ他ノ條ニ讓リ

刑法釋義 第二節 罪

第九十條ハ舊刑法第二百六十四條ヲ修正シタルモノニシテ舊刑法ハ唯死屍ニ付テノミ規定ヲ設クト雖モ本法ハ之ニ遺骨遺髮其他棺内ニ藏置シタル物ヲ加ヘ毀棄ヲ損壞遺棄又ハ領得ト爲セリ死屍ノミナレハ毀棄ニテ充分ナレトモ遺骨遺髮棺内藏置物品ヲ加フルトキハ毀棄ノ文字ニテハ其意義ヲ表ハスコトヲ得サレハナリ又是等ノ物ヲ加フル所以ハ近時其實例ヲ生セシヲ以テナルヘシ人智ノ進ムニ從ヒ種々ノ犯罪ヲ生スル結果トシテハ適當ノ改正ナリト謂ハサルヘカラス又舊刑法ニハ埋葬スヘキ死屍トアレトモ死體若シハ遺骨ハ埋葬スヘキ物タルト否トヲ區別スル必要ナキヲ以テ之ヲ削除セラレタリ

第九十一條ハ第九十條ト同一ノ理由ニ依リ墳墓ヲ發掘シテ死體遺骨遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタル場合ノ規定ニシテ第九十條ト關聯セル行爲ニ關スルモノナリ

第九十二條ハ新ニ設ケタル規定ニシテ檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬ルコトヲ禁スル規定ナリトス本條ニ付テハ特別法ニ讓ルヘキモノナリトノ議論ナ

キニアラサレトモ本條ニ掲グル行爲ハ其結果或ル犯罪ヲ發見スルノ動機ト爲ルコトアルヲ以テ之ヲ刑法罰トスルモ敢テ不當ニアラサルヘシトノ議論多キヲ占メ遂ニ挿入スルコトトナリタリト聞ク其何レニ決スルモ立法ノ上ニ於テハ格別ノ問題ト爲ルコトナカルヘシ

### 第二十五章 瀆職ノ罪

第九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ職務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第九十四條 裁判檢察警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第九十五條 裁判檢察警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル

者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキモ亦同シ

第九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部

又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價格ヲ追徴ス

第九十八條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其罪ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第一 沿革

第一案 第九十二條 官吏公吏其職權ヲ濫用シ人ヲシテ其職務ナキコトヲ行ハシメ又ハ其權利ノ執行ヲ妨害シタル者ハ十一日以上六月以下ノ無役禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第九十三條 官吏公吏法律ニ定メタル條件若クハ程式ヲ遵守セスシテ人ノ家宅ニ侵入シ又ハ其身體財產ニ付キ搜索ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ無役禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十四條 判事、檢事及ヒ司法行政警察ノ官吏、公吏其職權ヲ濫用シ法律ニ定メタル場合ノ外ニ於テ信書ノ秘密ヲ侵シタル者ハ一月以上一年以下ノ無役禁錮ニ處ス

第九十五條 判事、檢事及ヒ司法行政警察ノ官吏、公吏法律ニ定メタル條件若クハ程式ヲ遵守セスシテ人ヲ逮捕、監禁セシメ若クハ逮捕、監禁シタル者ハ一月以上一年以下ノ無役禁錮ニ處ス

第九十六條 司獄官、吏裁判、宣告書令狀若クハ其他正式ノ逮捕命令書ヲ提出セシメスシテ囚人ヲ領收拘留シタル者ハ一月以上一年以下ノ無役禁錮ニ處ス

司獄官吏懈怠ニ因リ出獄セシム可キ時期ヲ經過シテ囚人ヲ出獄セシメサル者亦同シ

第九十七條 司法行政警察ノ官吏、公吏獄舎又ハ私家ニ不法ノ監禁アルコトヲ知テ之ヲ検査セサル者又ハ検査スト雖モ之ヲ停止セシメス若クハ管轄官吏ニ報告セサル者ハ十一日以上三月以下

ノ無役禁錮ニ處ス

第九十八條 判事、檢事及ヒ司法行政警察ノ官吏、公吏拘留ヲ受ク可カラサル人ナルコトヲ知テ之ヲ逮捕、監禁セシメ若クハ逮捕、監禁シタル者ハ二月以上二年以下ノ有役禁錮ニ處ス

司獄官吏解放セラル可キ囚人ヲ故ラニ解放セサル者亦同シ

第九十九條 司法警察ノ官吏、公吏、司獄官吏及囚人ノ護送者囚人ニ對シ必需ノ飲食衣服ヲ屏去シ又ハ暴行ヲ加ヘ若クハ凌虐ノ所遇ヲ爲シタルモノハ三月以上三年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第二百條 判事、檢事及ヒ司法行政警察ノ官吏、公吏被告人ニ對シ強テ自白ヲ爲サシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ凌虐ノ所遇ヲ爲シタル者ハ四月以上四年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第二百一條 前二條ノ罪ヲ犯シテ囚人又ハ被告人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ毆打、創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百二條 判事訴訟事件ヲ審理判決セサルニ因リ監督官ノ督促

ヲ受ケ其定メタル期間内ニ正當ノ事由ナクシテ判決ヲ與フルコトヲ拒ミタル者ハ十一日以上三月以下ノ無役禁錮ニ處ス

第二百三條 官吏、公吏、議員、仲裁人其職務ニ關シ又ハ其所屬吏員ノ職務ニ關シ賄賂ノ目的ヲ以テ贈與若クハ提供セラレタル金額、物件、約束其他ノ利益ヲ直接間接ニ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

其直接間接ニ贈賄者ヲ挑唆シテ賄賂ヲ收受、聽許シタル者ハ二月以上一年六月以下ノ有役禁錮及ヒ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

賄賂ヲ收受、聽許シ因テ不正ノ所爲ヲ行ヒ又ハ相當ノ所爲ヲ行ハサル者ハ各一等又ハ二等ヲ加フ

第二百四條 判事賄賂ヲ收受、聽許シテ不正ノ裁判ヲ爲シタル者ハ四月以上三年以下ノ有役禁錮及ヒ三十圓以上三百圓以下ノ罰金

ニ處ス

若シ刑事ノ本案ニ付キ被告人ニ不利益ナル不正ノ裁判ヲ爲シタルトキハ二年以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ四十圓以上四百圓以下ノ罰金ニ處シ被告人ノ受ケタル刑此刑ヨリ重キトキハ三等有期懲役ニ處シ被告人死刑ニ處セラレタルトキハ第六十九條ノ例ニ從フ

第二百五條 賄賂ヲ贈與提供シ因テ官吏、公吏、議員若クハ仲裁人ヲシテ不正ノ所爲ヲ行ハシメ若クハ相當ノ所爲ヲ行ハシメス又ハ不正ノ裁判ヲ爲サシメタル者ハ其官吏、公吏、議員、仲裁人ト同一ノ刑ニ處ス

第二百六條 前數條ニ記載シタル賄賂ヲ已ニ收受シタルモノハ之ヲ沒收シ消費シタルモノハ其價ヲ追徴ス

第二百七條 官吏、公吏、議員、仲裁人賄賂ヲ收受、聽許セスト雖モ情ニ徇ヒ又ハ怨ヲ挾ミ不正ノ所爲ヲ行ヒ若クハ相當ノ所爲ヲ行ハス

又ハ不正ノ裁判ヲ爲シタル者ハ第二百三條及ヒ第二百四條ノ例ニ從フ

第二案

第二百二十四條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ禁錮ニ處ス

第二百二十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ若クハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百二十六條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ若クハ之ヲ補助スル者又ハ囚人、監置人、留置人、懲治人ノ看守若クハ護送ノ職ニ在ル者刑事被告人、囚人、監置人、留置人又ハ懲治人ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百二十七條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百二十八條 水火風震其他非常ノ事變ニ際シ刑事被告人、囚人、監置人、留置人、懲治人ノ看守若クハ護送ノ職ニ在ル者避難ノ爲メ必要ノ處分ヲ爲サス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ照シテ處斷ス

第二百二十九條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス  
因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス

第二百三十條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ贈與、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ヲ犯シタル者事未タ發覺セサル前自首シタルトキハ其刑ヲ免除ス裁判確定前自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

ルコトヲ得

第二百三十一條 公務員又ハ仲裁人情ニ徇ヒ怨ヲ挾サミ其職務ニ關シ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三十二條 公務員又ハ仲裁人自己ニ利益ヲ得又ハ犯人ヲシテ利益ヲ得セシムル爲メ其職務ニ關スル祕事ヲ漏泄シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十三條 第二百二十九條乃至第二百三十二條ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第三案 第二百二十四條 公務員其職務ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百二十五條 裁判檢察警察ノ職務ヲ行ヒ若クハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ五年以下ノ懲

役又ハ禁錮ニ處ス

第二百二十六條 裁判檢察警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者刑事被告人囚人監置人留置人又ハ懲治人ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者拘禁者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

第二百二十七條 第二案ニ同シ

第二百二十八條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者水火風震其他非常ノ事變ニ際シ避難ノ爲メ必要ノ處分ヲ爲スコトヲ怠リ因テ被拘禁者ヲ死傷ニ致シタルトキハ傷害ノ罪ニ照シテ處斷ス

第二百二十九條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十



年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス

第二百三十條 第二案ニ同シ

第二百三十一條 第二案ニ同シ

第二百三十二條 第二案ニ同シ

第二百三十三條 前四條ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第四案 第三案ニ同シ

第二 參照法律

佛蘭西刑法

第一百十四條 官吏又ハ政府ヨリ委任ヲ受ケシ者各人ノ自由ニ對シ又ハ一人及ヒ數人ノ公權ニ對シ又ハ憲兵ニ對シテ阻撓ノ所爲又ハ其妨害トナル可キ所爲ヲ害シ或ハ行ヒシ時ハ公權剝奪ノ刑ニ處セラル可シ

然レドモ命ヲ奉ス可キ長官ノ管轄タル條件ニ付キ其長官ノ命ニ因リ前項ノ罪ヲ犯シタル確證アル時ハ其犯人ノ刑ヲ免シテ命ヲ下シタル長官ヲ其刑ニ處ス可シ

第一百十五條 若シ宰相前條ニ記シタル所爲ノ一箇又ハ數箇ヲ命シ或ハ行フタル時其宰相佛蘭西共和政治立國第十二年「プロレアル」月二十八日ノ元老院決定書ノ第六十三條及ヒ第六十七條ニ定メタル訓誡ヲ受ケタル後猶其決定書中ニ記スル所ノ定期内ニ其所爲ヲ改ムルコトヲ肯セス又ハ之ヲ怠リタルニ於テハ追放ノ刑ニ處セラル可シ

第一百十六條 憲法ニ反シタル所爲ヲ命シ又ハ許シタルノ罪ヲ犯セシト告ラレタル宰相其書上ノ調印他人ノ詭僞ニ出ルト述フル時ハ其所爲ヲ止メシメ且其詭僞ヲ爲シタル者ノ罪ヲ訴フ可シ若シ然ラサレハ其宰相自ラ犯罪ノ訴訟ヲ受ク可シ

第一百十七條 第一百十四條ニ記シタル暴行ニ付キ言渡ス可キ損害ノ償ハ刑事ノ訴又ハ民事ノ訴ヲ以テ之ヲ得ント求メ其損害ヲ受ケタル人ノ身分

ト其時ノ景況及ヒ損害ノ多寡トニ准シテ之ヲ定ム可シ但其償額ハ損害ヲ受ケタル人ノ身分ヲ問ハス何レノ場合ニ於テモ枉ニ禁錮ヲ受ケシ日毎ニ二十五フランクヨリ少ナキコトナカル可シ

第百十八條 宰相及ヒ其他ノ官吏ノ姓名ヲ僞署シテ憲法ニ反シタル所行ヲ爲セシトキハ其僞署シタル者及ヒ其僞署タルヲ知テ其書ヲ用ヒタル者至重ノ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第百十九條 行政又ハ司法警察ノ任ヲ受ケシ官吏犯人ヲ禁錮スル廠舎又ハ其他ノ場所ニ於テ法律ニ背キ枉ニ人ヲ禁錮セシコトヲ證スル告訴ヲ受ケ其告訴ニ從テ處置スルコトヲ肯セス又ハ之ヲ怠リ且其告訴ノ旨ヲ其長官ニ報告シタルノ證ナキトキハ公權剝奪ノ刑ニ處セラレ且第百十七條ニ記シタル所ノ償額ヲ言渡サル可シ

第百二十條 獄舎及ヒ留置場ノ監守人及ヒ其門監禁錮狀收監狀又ハ裁判言渡書又ハ政府ノ假ノ命令書ナクシテ囚人ヲ收受シタル時又ハ檢事或ハ裁判役ノ禁制アルコトヲ證セスシテ囚人ヲ警察官吏或ハ其官吏ノ命

令書ヲ携ヘ來リシ者ニ示スコトヲ承諾セサル時又ハ獄舎或ハ留置場中ニ在ル犯人ノ姓名簿ヲ警察官吏ニ示スコトヲ肯セサル時ハ人ヲ枉ニ禁錮セシ罪アル者ト爲シ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六フランクヨリ少カラス二百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第百二十一條 司法警察ノ官吏又ハ檢事及ヒ其代役或ハ裁判役法律上ニ定メタル允許ナクシテ宰相或ハ上下議院或ハ參議院ノ官員ノ罪ヲ告訴セントスル言渡書命令禁錮狀收監狀ヲ記シ或ハ之ヲ渡シ或ハ之ニ姓名ヲ手署シタル時又ハ現行ノ罪犯或ハ衆人呼喚ノ場合ノ外法律上ニ定メタル允許ナクシテ宰相或ハ上下議院及ヒ參議院ノ官員ノ一人又ハ數人ヲ逮捕ス可キ命令書或ハ禁錮狀收監狀ヲ渡シ或ハ其書ニ姓名ヲ手署シタル時ハ職務冒濫ノ罪アリト爲シ公權剝奪ノ刑ニ處セラル可シ

第百二十二條 檢事長檢事及ヒ其代役或ハ裁判役及ヒ其他ノ官吏政府又ハ行政官署ニテ定メタル場所ノ外ニ於テ人ヲ禁錮シ或ハ禁錮セシメタ

ル時又ハ重罪取調局ニテ重罪ヲ告訴スルコトヲ言渡スコトナク直チニ  
犯人ヲ重罪裁判所ニ呼出セシ時モ亦公權剝奪ノ刑ニ處セラル可シ

第七十七條(千八百六十三年五月十三日如左改ム) 行政及ヒ司法ノ官吏  
又ハ行法ノ屬吏縱令正當ノ事ナリト雖モ報金ヲ受ク可ラサル職務上ノ  
所行ヲ爲ス爲メ贈遺ヲ受ケ又ハ約束ヲ承諾セシ時ハ公權剝奪ノ刑ニ處  
セラレ且其贈遺ノ高或ハ其約束ノ高ニ二倍シタル罰金ノ言渡ヲ受ク可  
シ但シ其罰金ハ如何ナル時ト雖モ二百フランクヨリ少ナキ事ナカル可シ  
又前ニ記スル者約束ヲ承諾シ又ハ贈遺ヲ受ケ當然行フ可キ職務ヲ行フ  
事ヲ停止シタル時モ亦同上ノ刑ニ處セラル可シ

裁判所ノ選ニ因リ又ハ原告或ハ被告ノ選ニ因リ任セラレタル訴訟ノ判  
斷人又ハ評價人約束ヲ承諾シ又ハ贈遺ヲ受ケ偏頗ノ判斷ヲ爲シ又ハ論  
說ヲ述ヘタル時モ亦同上ノ刑ニ處セラル可シ

第七十八條 官吏收賄ノ罪ヲ犯シタル眼目タル罪若シ公權剝奪以上ノ  
刑ニ處ス可キモノタル時ハ其犯人公權剝奪以上ノ刑ニ處セラル可シ

第八十條 贈遺ノ品物又ハ其價高ハ其贈遺ヲ爲シタル者ニ決シテ還與  
ス可カラヌ之ヲ其犯罪ノ地ノ貧院ノ爲メ官ニ沒收ス可シ

第八十一條 若シ重罪ヲ審判スル裁判役又ハ陪審賄賂ヲ受ケテ被告人  
ノ爲メ利害ヲ構成セン時ハ第七十七條ニ記セン罰金ノ外徒刑場内ニ  
於テ使役スル刑ニ處セララル可シ

第八十二條 裁判役又ハ陪審贈遺ヲ受ケテ被告人ヲ枉ニ徒刑場内ニ於  
テ使役スルヨリ以上ノ刑ニ處シタル時ハ其裁判役又ハ陪審ヲ之ト同一  
ノ刑ニ處ス可シ

第八十三條 裁判役又ハ行政官吏一方ヲ曲庇シ或ハ一方ヲ疾惡シテ決  
定ヲ爲シタルトキハ之ヲ瀆職ノ罪アリト爲シ公權剝奪ノ刑ニ處ス可シ  
第八十五條 裁判役又ハ行政官吏裁判ヲ爲スノ求メヲ受ケタル後法律  
ノ不備或ハ法律ノ不委ヲ以テ口實トナシ又ハ其他ノ事ヲ口實ト爲シテ  
其裁判ヲ爲スヲ肯セス且其長官ノ譴責或ハ其命令ヲ受ケタル後猶ホ固  
執シテ其裁判ヲ爲サハルトキハ犯罪ノ訴追ヲ受ケ二百フランクヨリ少

カラス五百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且五年ヨリ少カ  
ラス二十年ヨリ多カラサル時間公務ヲ行フノ禁ヲ受ク可シ

第八十六條 上等官吏及ヒ其他ノ官吏行政官吏政府ヨリ委任ヲ受ケタ  
ル者警察ノ吏裁判言渡ヲ執行スルノ命ヲ受ケシ者兵ノ指揮官及ヒ其所  
屬ノ士官其職務ヲ行フニ方リ正シキ原由ナク人ノ身體ニ對シテ暴行ヲ  
加ヘ又ハ加ヘシメタルトキハ其暴行ノ性質ト輕重トニ準シテ其刑ヲ受  
ク可シ但シ其刑ノ次第ハ第九十八條ニ記スル所ノ規則ニ從フ可シ

白耳義刑法

第四十七條 凡内外文武諸官吏法ニ背キ擅ニ人ヲ捕縛シ或ハ捕縛セシ  
メ繫獄シ或ハ繫獄セシムル者ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ  
若シ其不正ノ繫獄ヲ行ヒ十日ヲ過ル者ハ六月ヨリ三年マテノ獄ニ處ス  
ヘシ

若シ其繫獄ヲ行フ一月ヲ過ル者ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處スヘシ  
此等ノ犯罪人ハ本刑ノ外五百フランクヨリ一千フランクマテノ罰金ヲ

科シ仍ホ第三十一條第一第二第三ノ權利剝奪ニ處スヘシ

第五十一條 凡擅恣ノ所業ヲ以テ建國法ニ定ムル人民ノ自由ト權利ト  
ヲ害シ或ハ害セシムル内外警察官吏士卒ハ十五日ヨリ一年マテノ獄ニ  
處スヘシ

第五十五條 凡行政警察或ハ司法警察ニ任スル官吏該官ニアリナカラ  
實ヲ知テ囚人ヲ放還スルヲ怠リ或ハ之ヲ拒ム者ハ一月ヨリ一年マテノ  
獄ニ處ス可シ

第五十六條 凡行政警察或ハ司法警察ニ附スル官吏該官ニ非スト雖モ  
實ヲ知テ冤囚ヲ其該官ニ告クルヲ怠リ或ハ之ヲ拒ム者ハ八日ヨリ六月  
マテノ獄ニ處ス可シ

第五十七條 凡各種獄舎ノ監主獄卒門衛定法ノ繫獄狀若クハ罪按書ナ  
キ者ヲ受領スル者

若クハ裁判官檢事ノ命ヲ證セス妄リニ警察士官若クハ其遣差人ニ獄囚  
ヲ示スコトヲ背セサル者

録四簿ヲ警察士官ニ示スヲ背セサル者

以上並ニ十五日ヨリ二年マテノ獄ニ處シ二十六「フランク」ヨリ二百「フランク」迄ノ罰金ヲ科スヘシ

第二百四十六條 凡内外官吏財ヲ受ケ或ハ受ク可キヲ聽シ或ハ餽贈ヲ受ケ或ハ賄ル可キヲ許諾シ其官職ヲ頼テ事ヲ行フ者ハ其行フ處ノ者理ニ戻ラサルモ職分ヲ越ル事タレハ八日ヨリ六月マテノ獄ニ處シ二十六「フランク」ヨリ五百「フランク」マテノ罰金ヲ科ス可シ

若シ官吏財物餽贈ヲ受ケ若クハ賄ル可キヲ許諾シ人ノ不正ヲ爲スニ便スル者及ヒ其本分ヲ通レシムル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處シ五十「フランク」ヨリ一千「フランク」マテノ罰金ヲ科シ仍ホ第三十三條ノ奪權ニ處スルコトアリ

第二百四十七條 凡内外官吏財物餽贈ヲ受ケ若クハ賄ル可キヲ許諾シ不正ヲ爲シ及ヒ其本分ヲ充サ、ル者ハ三月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ百「フランク」ヨリ三千「フランク」マテノ罰金ヲ科シ仍ホ第三十三條奪權ニ處スルコトアリ

ルコトアリ

第二百四十八條 凡内外官吏財物餽贈ヲ受ケ若クハ賄ルヘキヲ許諾シ承行ノ事務ニ於テ重輕罪ヲ犯サシムルニ便スル者ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處シ二百「フランク」ヨリ五千「フランク」マテノ罰金ヲ科シ仍ホ第三十三條ノ奪權ニ處スル事アリ

第二百四十九條 凡裁判官情ニ因テ放出入スル者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ仲人若クハ工職裁判人ノ情ニ因テ枉ル所アル者ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ處シ仍ホ第三十三條ノ奪權ニ處スルコトアリ

第二百五十條 再陪審情ニ因テ枉ル所アル者ハ監役ニ處ス可シ  
第二百五十一條 凡裁判官仲人工職裁判人陪審財物餽贈ヲ受ケ若クハ賄ル可キヲ許諾シ枉ル所アル者ハ本刑ノ外二百「フランク」ヨリ五千「フランク」迄ノ罰金ヲ科ス可シ

第二百五十三條 凡是等ノ賄賂ハ下附セスシテ皆其犯罪ノ地ノ邑應ニ收メ邑ノ病院若クハ救恤院費用ニ充ツ可シ

第二百五十七條 凡内外官吏裁判官地方官吏若クハ將校等其職務上ニ於テ漫リニ威權ヲ擅ニシ人ニ強暴ヲ加フル者ハ第二百六十六條ニ依テ論シ重キニ從テ罪ヲ科ス

第二百五十八條 凡裁判官及行政官吏口實ヲ逞フシ事ニ當テ故ラニ知ラサルヲ爲シ或ハ法ノ曖昧ヲ稱シ至當ノ職分ヲ怠リ審判ヲ忽セニスル者ハ二百フランクヨリ五百フランク迄ノ罰金ヲ科シ仍ホ官吏タル可キノ權ヲ奪フコトアルヘシ

獨乙刑法

第三百三十一條 官吏當務ノ事ヲ行フニ贈物及ヒ其他ノ利益ヲ受ケ又ハ之レヲ求索シ又ハ之レヲ約束セシメシ者假令之レニ因テ枉法ノ事ヲ爲サスト雖モ其官吏ハ五百「ターレル」ヨリ多カラサル罰金又ハ六月ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ

第三百三十二條 官吏其職務ニ反シテ枉法ノ事ヲ行フニ贈物又ハ其他ノ利益ヲ受ケ又ハ之レヲ求索シ又ハ之ヲ約束シタル者ハ賄賂ノ罪ト爲シ  
五年ヨリ長カラサル徒刑ニ處ス可シ  
若シ酌量輕減アルトキハ禁獄ニ處ス可シ

第三百三十三條 贈物又ハ其他ノ利益ヲ贈リ又ハ其約束書ヲ以テ官吏又ハ陸軍官吏ヲシテ其職務ニ反シタル事ヲ爲サシメント決心セシメタル者ハ賄賂ノ罪ト爲シ禁獄ニ處シ仍ホ公權ヲ行フコトヲ禁ス可シ  
若シ酌量輕減アルトキハ五百「ターレル」ヨリ多カラサル罰金ニ處スルコトヲ得可シ

第三百三十四條 裁判官勸解吏(裁判官ニアラヌ證人カ撰ンテ協議裁  
判ヲ把スル人ニシテ即チ公証人ナラズ)陪審或ハ里正自ラ鞠問又ハ決行スヘク委任セラレタル訴訟ヲ其關係者ノ一方ヲ曲庇シ又ハ一方ノ害トナルヘク指向スル爲メ又ハ決行スル爲メニ贈物又ハ其他ノ利益ヲ求索シ或ハ之レヲ受ケ或ハ之ヲ約束セシメタル者ハ徒刑ニ處ス可シ

同上ノ目的ニテ裁判官協議官陪審里正ニ贈物其他利益ヲ送呈シ又ハ之ヲ約束シタル者モ亦同刑ニ處シ若シ酌量輕減アルトキハ禁獄ニ處スヘ

第三百三十五條 第三百三十一條ヨリ第三百三十四條ニ至ル條々ニ記載シタル場合ニ於テ已ニ受納シタル物品又ハ其價值ハ官ニ沒收スルコトヲ言渡ス可シ

第三百三十六條 官吏又ハ勸解吏自ラ勸問及ヒ決行ス可キ訴訟ニ付雙方ノ者ノ一方ヲ曲庇シ又ハ之レヲ損害セシメン爲メ故ラニ枉法ノ罪ヲ犯シタルトキハ五年ヨリ長カラサル徒刑ニ處ス可シ

第三百三十九條 官吏權ヲ擅ニシ又權威ヲ以テ恐喝シ強ヒテ人ヲシテ事ヲ爲サシメント又之レヲ止メシメントシ又之レヲ肯セシメントシタル者ハ禁獄ニ處スヘシ

之レヲ犯サントセシ所業モ亦罰ス可シ  
第三百四十條 官吏職務ヲ行フトキ又ハ之ヲ行ハントスルニ當リ故ラニ他人ノ身體ヲ傷シ又ハ人ヲシテ傷セシメタル者ハ三月ヨリ短カラサル禁獄ニ處シ若シ酌量輕減アルトキハ一日ノ入牢ニ減少シ又ハ三百タ

レヨリ多カラサル罰金ニ處スルコトヲ得ヘシ

若シ重傷ナレハ二年ヨリ短カラサル徒刑ニ處シ若シ酌量輕減アルトキハ三月ヨリ短カラサル禁獄ニ處ス可シ

第三百四十一條 官吏故ラニ又ハ其權ナクシテ拿捕緝縛拘留引致ヲ爲シ又ハ人ヲシテ之ヲ取扱ハシメ又ハ故ラニ又ハ許可ナクシテ其拘留ノ時間ヲ長メタル者ハ第二百三十九條ニ掲載スル所ノ刑ニ處ス然レトモ三月ノ禁獄ヨリ減少スヘカラス

第三百四十三條 勸問中強テ招服又ハ陳述ヲ爲サシムル爲メ強逼ノ方法ヲ用ヒ或ハ之レヲ用ヒシメタル官吏ハ五年ヨリ長カラサル徒刑ニ處ス可シ

第三百四十四條 官吏人ノ無罪ナルコトヲ知リ故ラニ其人ニ對シ勸問ヲ開キ或ハ之レヲ繼續セシムルコトヲ求メ又ハ之ヲ命シタルモノハ徒刑ニ處ス可シ

奧太利刑法

第九十三條 成法ニ從ヒ己レノ權ニ屬セス且ツ重罪犯ノ證據ナク又危險ト認ム可キ原因ナキ人ヲ擅ニ繫囚シ其他凡人ノ自由ヲ妨害シ又ハ正當ノ理由ナリトシテ人ヲ拘留セシト雖モ直チニ之ヲ所屬ノ官署ニ告知スルコトヲ怠リシ者

第九十四條 此重罪ノ刑ハ六月乃至一年ノ輕徒刑タル可シ然レトモ若シ其拘留ノ三日以上ヲ過キシカ或ハ其拘留セラレシ人ノ損害ヲ被リシカ若クハ其他慘苦ヲ受ケシ時ハ一年乃至五年ノ重徒刑タル可シ

第一百二條 職權擅用ノ重罪ト爲スハ殊ニ左ノ場合ニ於テス

第一項 判事檢事若クハ他ノ官吏成法ニ從ハス其職務ヲ枉ケテ執行セシ者

第五項 官務或ハ職務ヲ執行スルニ際シ奸惡ノ故意ヲ以テ自由保護法ヲ犯シ人ノ自由ヲ害セシ者

第一百三條 此重罪ノ刑ハ一年乃至五年ノ重徒刑タル可シ然レトモ其奸惡及ヒ損害ノ大ナル者ニ在テハ其刑期ヲ十年迄ニ至ラシムルコトヲ得

第一百四條 吏員ニシテ法務ヲ司トリ若クハ事務ヲ施行シ或ハ公然ノ事實ヲ決定スルニ際シ其職ニ適セシ事業ヲ爲セシト雖モ之カ爲メニ他ヨリ直接若クハ間接ニ贈物ヲ受ケ或ハ他ノ利益ヲ得若クハ之ヲ行可キ利益ヲ爲サシメシ者或ハ凡ソ其職務ヲ行フニ際シ上ノ如キ方法ヲ以テ依姑ノ所行ニ至リシ者ハ之ヲ六月乃至一年ノ輕徒刑ニ處シ且ツ其受ル所ノ贈物若クハ其價值ヲ其犯罪地ノ救恤資金ニ沒收セシム可シ  
註ニ曰ク法ノ如ク裁判ヲ受ケシ後ニ至テ該犯者ノ死去セシ時ハ其沒收ノ職務ハ之ヲ其遺物ヲ受ケシ人ニ及ホサシム可キナリ

英吉利刑法典

一 諸判事官府ノ威權ヲ挾ミ人ヲ強伏シテ處斷スル者其官等ニ隨テ議事院或ハ上等裁判所ニ於テ告訴スレハ革職ニ處シ且贖罪及ヒ入獄ニ處ス  
一 吏役ノ賄賂ヲ取ル者及ヒ之ヲ與フル者各贖罪及ヒ入獄ニ處ス縱ヒ賄未タ手ニ入ラスト雖トモ罪亦同シ  
若シ判事ノ受ル者ハ其贓ニ三倍スル罰金ヲ出サシメ上裁ヲ定奪シ終身



ヲ除名ス

一 財物竊盜等ヲ以テ陪審ニ囑託シ其罪ヲ枉ケンコトヲ求ル者ハ輕罪ニ坐シ贖罪及ヒ入獄ニ處ス其囑託ヲ受ル者モ罪亦同シ  
魯西亞刑法

第三百七十四條 官吏其職務ヲ行フニ當リ拷問或ハ慘刻ヲ用ヒシトキハ情狀ニ從ヒ六月以上一年以下ノ禁獄或ハ二年以上三年以下第五十三條ノ權利ヲ剝奪シテ懲治場ノ刑式ハ懲治刑ノ第一類第三等ニ處セラルヘシ然レトモ其拷問或ハ慘刻ヲ以テ要求セシ不實ノ陳述ヲ以テ無罪ノ人ヲ民權剝奪ノ刑ニ處セシトキハ重刑ノ第二類第六等ニ處セラル可シ  
第三百七十五條 官吏其職務ヲ行フニ當リ故ラニ他人ヲ毀傷セシトキハ第九百四十八條乃至第九百五十五條及ヒ第九百六十條乃至第九百六十三條中毀傷ノ罪ニ對スル刑ノ尤モ重キモノヲ以テ論セラル可シ  
第三百七十七條 官吏若シ法律ニ依リ人ヲ拘留スルニ一定ノ規則ヲ顧ミ

サルトキハ情狀ニ從ヒ呵責或ハ履歷書等ニ登錄セラルヘキ嚴譴ヲ受ケ或ハ六月以上一年以下功勞ノ履歷ヲ削ラル可シ然レトモ若シ拘留ヲ爲スヘキ著シキ事由ナキカ或ハ法律ニ於テ其權モ無ク又特別ノ命令モナクシテ之ヲ爲ストキハ第二百二十五條乃至第二百二十九條中成法ヲ犯シ人ノ自由ヲ奪フ罪ニ科スル刑ノ尤モ重キモノヲ以テ論セラルヘシ爾他其拘留セラルヘキ事由ナキコト分明ナルトキハ人ノ榮譽ヲ害セシモノトシ(民法書第五百四十六條乃至第五百五十四條及ヒ直轄地内ノ法律第四百六十八條乃至第四百七十一條其償金ヲ出サシメ或ハ第六十一條ニ從ヒ赦免請求ヲ行ハシムヘシ)  
第四百一條 政府或ハ府廳ノ公務ニ任セラレタル官吏或ハ吏員其職務ニ關係セル事件ニ於テ金員其他物品ノ贈遺ヲ受ケ或ハ之ヲ遲クモ三日以内ニ返還セサル者ハ設ヒ公務ヲ曲ケスト雖モ罰金ノ上其贈物ノ倍價ヲ徵セラレ且ツ其官ヲ剝カル可シ若シ同上ノ贈遺ヲ仲人ヲ經テ收領スルモ其刑上ニ同シ

第四百二條 吏員其職務ニ違フコトヲ行フヘキタメ或ハ行ハシムヘキタメ金圓或ハ物品ノ贈遺ヲ受クルトキハ其價額ハ設ヒ僅瑣ノ物トイヘトモ情狀ニ從ヒ懲治刑ノ第一類第三等或ハ第四等ニ處セラル可シ

同上ノ贈遺ヲ受クルトイヘトモ其職務ヲ枉ケス且ツ其過誤ヲ悔ヒ上官ニ自首スルトキハ情狀ト悔悟ノ正常ナルニ從ヒ永ク任官ヲ禁シ或ハ免官或ハ嚴譴若クハ呵責ヲ受クヘシ但シ右各自ノ場合トモ其贓物ハ之ヲ本地ノ賑恤社ニ交付スヘシ

第四百三條 第四百二條ニ記載セル刑ハ官吏若シ自己ノ利ヲ謀ルノミニ非ス或ハ他人ノ爲メニ不正ノ利ヲ與ヘ或ハ他ノ不法ノ目的ノ爲メニ其職務ニ反スル事ヲ施行或ハ縱容セルトキニモ亦適用スヘキモノトス  
第四百四條 官吏其受取リシ賄賂ノ爲メニ不正ノ事ヲ行ヒ或ハ之ヲ縱容シ其不正ノ事件若シ第四百二條ニ記載セシ刑ヨリ重ク論セラルヘキトキハ第四百五十條ニ從ヒ其重ク論セラルヘキ罪ニ科スヘキ刑ノ尤モ重キモノニ處セラルヘシ

第四百五條 官吏親カラ贈遺ヲ受領セスト雖モ其妻子親族近親ノ者之ヲ受收シ或ハ未タ之レヲ落手セスト雖モ已ニ其約束ヲナシ或ハ賭博ノ負債買物交換其他公然商事ノ名目ヲ以テ寄贈セラルル物ヲ受クルト雖モ齊シク賄賂ノ罪ヲ以テ論セラルヘシ

第四百六十條 不審ナル人ヲ逮捕セシメ而シテ之ヲ三日以内ニ聽糺審理セス又其拘留ノ事由ヲ告知セサル者ハ嚴呵ヲ受クヘシ其再犯ニハ三月以上一年以下勤勞ノ期ヲ削ラレ又第三犯ニハ其官ヲ奪ハル可シ

第四百六十二條 糺彈裁判官若シ被告人ヲシテ白狀セシムヘキ爲メ或ハ證人ヲシテ強テ陳述セシム可キ爲メ脅迫其他非法ノ方便ヲ用ヒシトキハ情狀ニ從テ履歷簿中ニ登記セラル可キ嚴呵或ハ三月以上一年以下勤勞ノ期ヲ削ラレ或ハ剝官ノ言渡ヲ受クヘシ

糺彈中職務凌虐ヲ用ヒシ者ハ第三百七十四條ニ從テ刑セラル可シ  
第四百八十二條 司獄官吏或ハ番人等囚人ニ對シ凌虐暴行ノ所過ヲ爲セシ者ハ設ヒ其意囚徒ノ逃亡ヲ防キ或ハ之ヲ從順ナラシムルノ目的ニ出

ツルトイヘトモ情狀ニ從ヒ嚴呵或ハ免官或ハ剝官ノ刑ニ處セラル可シ  
埃及刑法

第九十五條 官吏又ハ行政及ヒ司法ノ職ニ任セシ者其正不正ヲ論セス故  
ラニ其職務上ノ事ヲ爲スタメ又ハ故ラニ其職務上ノ事ヲ制止スル爲メ  
人ヨリ贈物ヲ受ケ又ハ其約束ヲ承諾シタル時ハ之ヲ稱シテ納賄ノ罪ト  
云フ

第九十六條 動産或ハ不動産ヲ其相當ノ價ヨリ更ニ貴ク又ハ更ニ低價ニ  
賣買シ又ハ贈賄者ト契約ヲ結ヒ官吏又ハ行政及ヒ司法ノ職ニ任スル者  
ノ爲メ格別ノ利益ヲ得セシメシ時モ亦贈賄ノ罪アリトス

第九十七條 前條ノ目的ヲ以テ官吏又ハ贈賄者ヲ保護スル者ノ妻子親族  
ニ約束贈遺利益ヲナシタル時モ亦贈賄ノ罪アリトス

第九十八條 官吏又ハ行政及ヒ司法ノ職ニ任スル者ニ賄賂ヲ贈リシ者等  
級職務ノ如何ヲ問ハス賄賂ヲ納レタル官吏又ハ行政及ヒ司法ノ職ニ任  
スル者贈賄者ト官吏トノ間ニ入り其媒ヲ爲ス者ハ其期ノ緊獄ノ刑ニ處

セラレ且ツ其等級及ヒ職務ヲ奪ハル可シ

第九十九條 賄賂ト爲シタル品物又ハ其價額ハ贈賄者ヨリ之ヲ官ニ沒收  
シ納賄者ハ其價ニ當ル可キ罰金ヲ言渡サル可シ

第一百條 又約束ヲ以テ賄賂ヲ授受セシ時ハ贈賄者及ヒ納賄者共ニ其約束  
ノ高ニ當ル罰金ヲ言渡サル可シ

第一百二條 第九十七條ノ場合ニ於テ故ラニ約束ヲ承諾シ又ハ贈送ヲ受ケ  
又ハ格別ノ利益ヲ得タル者賄賂ノ媒ニ因ラサル時ハ一年間禁錮ノ刑ニ  
處セラレ且ツ前ニ記シタル如ク算計セシ罰金ヲ言渡サルヘシ

第一百三條 重罪ヲ斷定スル裁判役又ハ陪審ノ賄賂ヲ受ケシ時ハ其重罪被  
告人ニ益スル爲メノ賄賂タルト其被告人ヲ害スル爲メノ賄賂タルトヲ  
問ハス其裁判役又ハ陪審ハ罰金ノ外五年ヨリ少カラサル時間緊獄ノ刑  
ニ處セラル可シ

第一百四條 人ヨリ賄賂ヲ贈ラント欲スト雖モ官吏ノ之ヲ受ケス又暴行脅  
迫ヲ加フルト雖モ其效アラサルトキハ其犯人一年間禁錮ノ刑ニ處セラ

レ且ツ六年間諸般ノ公務等級給録及養老金等ヲ得ルノ權ヲ奪ハル可シ  
 第二百五條 何人ニ限ラス己レノ生命名譽財產權利ニ付キ不正ノ脅迫ヲ受  
 ケ之ヲ免カレンカ爲メ已ムヲ得ス官吏又ハ公務ニ任スル者ニ贈遺又ハ  
 約束ヲ爲シ其脅迫ノ原由止ミタル時直チニ右ノ旨ヲ司法官吏ニ報告セ  
 サル者ハ其贈遺又ハ約束ノ爲メ現ニ其益ヲ得タルニ於テハ之ヲ贈賄ノ  
 刑ニ處スルコトヲ得ヘシ然レトモ其者右ノ時限ニ司法官吏ニ報告シタ  
 ル時又ハ其時限ノ後ト雖モ賄賂ニ因リ現ニ其益ヲ得サル前ニ裁判所ニ  
 上告シタル時ハ其刑ヲ免ル可シ

第二百六條 前條ノ場合ニ於テ脅迫ヲ以テ賄賂ヲ己レニ納メシメ又ハ約束  
 ヲ爲サシメタル者ハ納賄ノ刑ニ處セラル可シ

第二百七條 前ニ記シタル目的ヲ以テ官吏又ハ公務ニ任スル者ハ贈遺又ハ  
 約束ヲ爲サントスル者アル時其官吏又ハ公務ニ任スル者直チニ其由ヲ  
 司法官吏ニ報告セス現ニ其贈物ヲ納レ又ハ約束ヲ承諾シタルニ於テハ  
 納賄ノ罪アルニ依リ其刑ニ處セラル可シ

第二百八條 納賄ノ罪ヨリ更ニ重劇ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ賄賂ヲ贈  
 リシ時ハ其賄賂ヲ納レテ右ノ重罪ヲ犯シタル者ハ其約シタル贈物ノ價  
 ニ當ル金高ヲ徵收セラレ且ツ贈賄者及ヒ其媒約人ト同シク其重罪ノ首  
 謀及ヒ其同罪人ノ受ク可キ刑ニ處セラル可シ

第二百九條 第二百三條ノ場合ニ於テ被告人ノ受ケタル刑納賄ノ刑ヨリ更ニ  
 重キトキハ納賄者モ亦重キ刑ニ處セラル可シ

第二百十條 一方ヲ曲庇シ又ハ一方ヲ枉害シ裁定ヲ爲シタル裁判役又ハ行  
 政官吏ハ諸般ノ等位及ヒ公務ヲ奪ハル可シ

第二百二十三條 官吏其任セラレシ威權ニ因リ裁判役一名或ハ數名ニ命令  
 ヲ爲シ又ハ裁判役一名或ハ數名ニ迫リ一方本人ヲ曲庇シ或ハ之ヲ枉害  
 スル裁判言渡ヲ得ント爲シタル時ハ一月ヨリ少ナカラス三月ヨリ多カ  
 ラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ又右ノ犯罪ニ因リ現ニ不正ノ裁判  
 言渡ヲ爲サシメ又ハ故ヲニ裁判言渡ヲ爲スヲ拒マシメタル時ハ三月ヨ  
 リ少ナカラス十八ヶ月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ六

月ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル時間追放ノ刑ニ處セラル可シ  
第二百二十四條 若シ官吏ノ裁判役一名又ハ數名ニ一方本人ヲ曲庇シ又ハ  
枉害スルヲ求メ或ハ請ヒ或ハ勸メタル時ハ一千「ピアストル」ヨリ少ナカ  
ラス五千「ピアストル」ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ

第二百二十五條 若シ前條ノ犯罪ニ因リ現ニ不正ノ裁判言渡ヲ爲サシメ又  
ハ裁判言渡ヲ爲スヲ拒マシメタル時ハ四十五日ヨリ少ナカラス三月ヨ  
リ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ三月ヨリ少ナカラス六月ヨ  
リ多カラサル時間追放ノ刑ニ處セラル可シ

第三百二十二條 裁判役又ハ評議役又ハ其他ノ官吏犯罪被告人ヲ拷問ス可  
キ命ヲ下シ又ハ自ラ拷問ヲ爲シタル時ハ有期ノ禁獄ノ刑ニ處セラレ且  
ツ日後更ニ級位ヲ得或ハ公務ニ任ス可カラサルノ禁ヲ受ク可シ若シ下  
等官吏上等官吏ノ命ニ依リ右ノ罪ヲ犯シタルトキハ其命ヲ下セシ上等  
官吏ノミヲ其刑ニ處ス可シ。又拷問ノ爲メ被告人ノ生命ヲ害シ又ハ其  
四肢ヲ用フル能ハサルニ至ラシメシ時ハ其罪アル官吏人ヲ殺シ又ハ毆

傷シタル罪アルニ因リ其相當ノ刑ニ處セラル可シ

第三百三十五條 公ケノ兵力ヲ預カル官吏警察官吏裁判所ノ命令書ヲ送達  
スル使吏其職務ヲ行フニ當リ又ハ其上等官吏ノ命ヲ執行スルニ當リ法  
律及ヒ規則ニ反キテ人ニ暴行ヲ加ヘ其名譽ヲ毀害シ又ハ其身體ヲ苦痛  
セシムルニ至ル時ハ其暴行ノ輕重ニ準シ一週ヨリ少カラス一年ヨリ多  
カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ但シ其暴行ノ更ニ重キ罪タル時  
ハ其刑ヲシテ亦更ニ重カラシム可シ

印度刑法

第六十一條 官吏及ヒ候官者其職掌ノ事ヲ行ヒ又ハ行フヲ止メ因テ一  
人ニ利ヲ與ヘ又ハ一人ニ損ヲ被ラセ若クハ一人ニ功ヲナシ一人ニ功ヲ  
ナササルノ報酬トシテ法律上ノ給料ノ外自己又ハ他人ノ爲ニ報酬ヲ取  
受シ又ハ取受セント試ムル者ハ三年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處  
シ又ハ入獄贖金ヲ併科ス

說明 候官者ニ非スシテ人ヲ欺クハ其將ニ官ニ就カントスルヲ以テシ

官ニ就クトキハ爲ニ利ヲ與ヘント僞言シ因テ贈與ヲ受クル者ハ詐欺ノ罪ニシテ此條ニ依テ論ス可キ罪ニ非ス

贈與トハ金錢又ハ金錢ヲ以テ價ヲ定ムヘキ物ニ限ラス

法律上ノ給料トハ官吏法律ニ於テ要求スルヲ得ルノ給料ニ限ラス其勤

ムル所ノ政府ヨリ取受スルヲ許サレタルノ給料ヲ含ム

入贈與ノ爲メ其爲スヲ意トセサル所ノ事ヲ爲シ又ハ其爲ササリシ所ノ事ヲ爲シ報酬ヲ受クルモ此意義中ニ在ルナリ

第六十二條 賄賂ヲ以テ官吏ヲシテ其職掌上人ニ私セシムルノ謝禮ト

シテ自己又ハ他人ノ爲メニ贈與ヲ受ケ又ハ之ヲ受ケントスル者ハ三年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ヲ以テ之ヲ罰シ又ハ贖金入獄ヲ併科ス

第六十三條 自己又ハ他人ノ爲ニ自己ノ威權ヲ行ヒ官吏ヲシテ人ニ私

セシメ又ハ私セシメントスルノ報酬ヲ受クル者ハ一年ニ止ル無苦役ノ

入獄若クハ罰金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ併科ス

第六十四條 官吏己レニ由ツテ行ハレタル上ニ二條ニ掲クル各罪ニ補助

スル者ハ三年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ併科ス

第六十五條 官吏故ナク又ハ不正ナル故ヲ以テ自己又ハ他人ノ爲ニ其

執行スル事或ハ其上官ノ執行スル事ニ干與シ其關係アル者ヨリ財ヲ取

受シ又ハ取受センコトヲ試ムル者ハ二年ニ止ル無苦役ノ入獄若クハ贖

金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ併科ス

第二百二十條 官吏拘留監禁ヲ行フノ權アル者賄賂ニ因テ又ハ惡心ヲ以

テ其法ニ背クヲ知り其權ヲ行フテ人ヲ拘留監禁スル時ハ七年ニ止ル各

種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第二百二十一條 罪犯ヲ逮捕監禁ス可キ官吏故意ヲ以テ罪犯ヲ逮捕監禁

セス或ハ脱監逃走セシメタル者ハ左ノ刑ニ處ス可シ

一千八百七十年決議第二十七條第二條ヲ見ヨ

監獄ヲ受クル人或ハ逮捕セラレ可キ人死刑ニ該ルトキハ三年ニ止ル各

種ノ入獄ニ處シ情ニ依テ贖金ヲ加フ

米國刑法

第五千四百九十九條 合衆國ノ裁判官訴訟ノ事ニ關シテ賄賂ヲ受クル者ハ裁判所ノ意見ニ依リ贖金及ヒ入獄ニ處シ合衆國ノ官吏トナルコトヲ禁ス

第五千五百條 議事院ノ議員議事院ノ事ニ關シテ賄賂ヲ索メ又ハ受クル者ハ其索メ又ハ受クル所ノ金高三倍以下ノ贖金ヲ科シ且三年以下ノ入獄ニ處ス

第五千五百一條 合衆國ノ官吏其職務ノ事ニ關シテ賄賂ヲ索メ又ハ取ル者ハ前條ノ罪ニ同シ

第五千五百二條 前二條ノ罪ヲ犯ス者ハ其官職ヲ奪ヒ合衆國ノ官職ニ任スルコトヲ禁ス

土耳其刑法

第六十七條 收賄トハ贈與要求ノ名義如何ヲ問ハス凡テ企圖スルコトヲ遂ケントシ贈リタル物品ヲ受クルヲ謂フ他人ニ報ユルノ目的ヲ以テ不

動産又ハ動産ヲ其時ノ狀態ト場所トニ關シ眞ノ價值ヨリ非常ニ低ク或ハ高ク賣渡ストキハ又賄賂ヲ以テ問フヘシ其賣渡シタル代價ト眞ノ代價トノ差ハ贈遺トナルヲ以テナリ其他「ベイアンダツ」ト唱ヘ又ハ他ノ名目口實ヲ以テ人民ノ男女ヨリ官吏ノ結婚又ハ他ノ祝儀ニ際シ贈ル所ノ多少ノ進物ヲ受クルモ亦同シ但其際家僕ニ惠與スル金額ハ此限ニアラス

左ニ記載シタルモノハ賄賂ト看做スヘカラス報酬又ハ恩施ヲ得ントシ贈與シタル事實其他食料飲料ノ如キ些少ノ物品ヲ受クルコト朋友間懇親ヲ表スル爲メ是等ノ物品ヲ贈答スルコト貧人及ヒ僕婢ニ扶助金及ヒ歳贖ヲ惠與スルコト勅許ヲ得テ公然進物ヲ受領スルコト直接又ハ間接ニ賄賂ヲ受クル者ヲ「コロンビユ」トス賄賂ヲ行フ者ヲ「コロユブトリ」ト稱シ行賄者及ヒ收賄者ノ間ニ在テ媒介スル者ヲ「アジヤンドラ」ト稱シ「コロユブション」ト云フ

第六十八條 官職位階ヲ論セス凡テ賄賂ヲ受ケシ者ハ其受ケタル金高ヲ

返還シタル後官ヨリ賄賂ヲ行ヒシ者ニ對シ罰金ノ名目ヲ以テ之レヲ沒收シ其金高ト同一ノ罰金ヲ犯人ニ科シ若シ犯人此輕罪ヲ始メテ犯セシトキハ六年間職務剝奪ノ刑ニ處スヘシ

第六十九條 官職位階ヲ論セス凡テ賄賂ヲ行ヒシ者ハ前條ノ規則ニ從ヒ返還セシメタル金額ヲ官ニテ罰金ノ名目ヲ以テ沒收シタル後犯人此輕罪ヲ初メテ犯セシトキハ有期禁獄及ヒ六年間職務剝奪ノ刑ニ處ス可シ第七十條 凡テ官職位階ヲ論セス賄賂ノ媒介ヲ爲セシ者ハ其賄賂ヲ行ヒシ者及ヒ之レヲ受ケシ者ト同シク此輕罪ヲ始メテ犯セシトキハ有期禁獄及ヒ六年間職務剝奪ノ刑ニ處スヘシ

第七十一條 若シ賄賂ヲ受ケシ者又ハ賄賂ヲ行ヒシ者或ハ賄賂ノ媒介ヲ爲セシ者官職位階ヲ帶有セサルトキハ官職又ハ公然ノ職務ヲ帶有スル者ト同一ノ刑ニ處ス可シ

第七十二條 賄賂ヲ受ケタル婦女其夫ノ之レヲ知りタルトキハ其確證ヲ得タル後其夫ト共ニ受收シタル金高ノ二倍ヲ還納スルノ言渡ヲ受ケ且

第六十八條ニ記シタル刑ニ處セララル可シ

若シ其婦女嫁婚セス又ハ其夫ノ之ヲ知ラサルニ出ルトキハ罰金及ヒ六年間禁錮ノ刑ニ處ス可シ

第七十三條 前條ニ記シタル刑ハ賄賂ノ手段ヲ施行シ又ハ其媒介ヲ爲シタル婦女ニモ適用スヘシ但シ其夫ノ之レヲ贊助セシトキハ共ニ其刑ヲ受クルモノトス

第七十四條 賄賂ヲ受ケシ者法律上ノ刑ヲ受ケシ後再犯ニ及フトキハ其受收シタル金高ノ二倍ヲ還納セシメ五年以上ノ禁獄ノ刑ニ處セラレ且爾來如何ナル官職及ヒ公然ノ職務ト雖モ之レヲ帶フル能ハサルノ言渡ヲ受ク可シ

第七十五條 賄賂ヲ行ヒシ者及ヒ其媒介ヲ爲セシ者再犯ニ及フトキハ亦五年以上ノ禁獄及ヒ畢生間官職及ヒ公然ノ職務剝奪ノ刑ニ處ス可シ

第七十六條 金額其他賄賂ニ供シタル物品ヲ渡スヘキ約束ヲ記シタル證書ノミヲ交附シ又ハ之レカ爲メ證書ヲ交附セサルモ特別ノ契約ヲ以テ



贈遺ノ約束ヲ爲ストキハ雙方ニ於テ避クヘカラサル故障ノ爲メ其約束行ハレサルモ之ヲ已遂ノ賄賂ト看做シ主謀ハ其賄賂ヲ行ヒ或ハ之ヲ受ケ又ハ其媒介ヲ爲セシ者ト同一ノ刑ニ處ス可シ前二個ノ場合ニ於テハ賄賂ヲ行ヒシ者又ハ之レヲ受ケシ者ヲシテ其賄賂ノ價ニ等シキ罰金ヲ出サシム可シ

第七十七條 若シ己レノ生命財産名譽正當ノ利益ヲ保全スル爲メ金額ヲ與フルコト止ムヲ得サリシ場合ニ於テ其賄賂ノ所行ヲ官ニ自訴スルトキハ其贈與シタル金額ノ取戻ヲ得ヘシ但シ本人ヨリ訴ヘ出スシテ官ノ知ル所トナリタルトキハ其暴行ヲ蒙リシ本人直ニ書面ヲ以テ上訴セサル時ハ賄賂ヲ行ヒシ者ノ爲メニ定メタル刑ニ處スヘシ但シ其書面ハ君士坦丁ニ於テハ大宰相又ハ總督内地ニ於テハ縣令ニ差出ス可シ

第七十八條 官吏管轄ノ事務ヲ處スルニ當リ要求スルノ理由ナクシテ金額ヲ要求セシト訴ヘラレシ者其證據判然タル上ハ其要求セシ金高ニ等シキ罰金ヲ科シ且收賄者ノ爲メニ定メタル刑ニ處ス可シ其罰金ノ半額

ハ褒賞トシテ告訴人ニ附與シ同時ニ其事務ノ結局ヲ公平ニ爲スヘシ

第七十九條 或ル事件ヲ抄取セントシ贈與シタル金額ヲ受取リシ者其受取リシ前後ヲ論セス其事ノ公開ニ達スル前遲クトモ二ヶ月以内君士坦丁ニ於テハ大宰相内地ニ於テハ地方官又ハ縣令ニ若シ金額ヲ受取リタル時ハ之ヲ添ヘ告知スルトキハ官ノ許可ヲ受ク可シ但シ賄賂ヲ行フ者ハ其金額ヲ交附セサル時ト雖トモ申入レシ金高ニ等シキ罰金ヲ科シ併セテ賄賂ヲ行ヒシ者ノ爲メニ定メタル前條ノ刑ニ處ス可シ

第九十六條 官吏威權ヲ以テ訴訟ニ干涉シ裁判ノ行ハレサルニ至ルトキハ其命ヲ下セシ官吏ハ職務ヲ免セラレ且三月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル禁錮又ハ六月以上三年以下ノ追放ニ處セラルヘシ若シ單ニ其要求又ハ囑託ニ依リ裁判ノ行ハレサルニ至リシ時ハ其要求又ハ囑託ヲ爲セシ官吏ハ一月半ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル禁錮又ハ三月以上六月以下ノ追放ノ刑ニ處セラル可シ但シ罰金ハ之ヲ附加スルモノトス

第九十八條 裁判所長又ハ判事命令要求囑託ヲ受ケ官府ニ訴ヘスシテ其命令要求囑託ニ因リ裁判ヲ爲ササルトキハ六年間職務ニ就クヲ禁止シ且三年間追放ノ刑ニ處ス可シ

和蘭刑法

第三百六十二條 官吏其職務上ノ行爲ヲ爲シ又ハ爲ササルコトノ契約タル贈物又ハ豫約ナルヲ知テ之ヲ承諾シタルトキハ之レカ爲メ其職務上ノ本分ニ背反セスト雖モ三月以下ノ禁錮又ハ三百フロラン以下ノ罰金ニ處ス

第三百六十三條 左ノ罪ヲ犯シタル官吏ハ四年以下ノ禁錮ニ處ス

- 一 官吏其職務上ノ本分ニ背反スル行爲ヲ爲シ又ハ爲ササルコトノ契約タル贈物又ハ豫約ナルヲ知テ之ヲ承諾シタルトキ
- 二 官吏其ノ職務執行中自己ノ本分ニ背反シタル行爲ヲ爲セシコト又ハ爲ササリシコトニ因リ或ハ其結果トシテ受クヘキ贈物タルヲ知テ之ヲ承諾シタルトキ

第三百六十四條 判事其ノ審理スヘキ事件ノ決定ニ影響ヲ與フルカ爲メノ贈物又ハ豫約ナルヲ知テ之ヲ承諾シタルトキハ九年以下ノ禁錮ニ處ス

判事重罪事件ノ處分ヲ爲スカ爲メニ贈物ヲ受ケ又ハ豫約ヲ結フコトヲ知テ之ヲ承諾シタルトキハ十二年以下ノ禁錮ニ處ス

第三百六十五條 官吏其ノ威權ヲ濫用シテ強テ他人ヲシテ或ル事ヲ爲サシメ爲ササラシメ又ハ許容セシメタルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第三百六十六條 官吏公務執行中或ル辨濟ニ付キ自己ノ受領スヘカラサルモノタルヲ知テ自己ノ受領スヘキモノト爲シ之ヲ他ノ官吏又ハ公ケノ金庫ニ請求シ若クハ該官吏又ハ公ケノ金庫ヨリ領收保有シタル時ハ瀆職ノ罰ヲ以テ論シ六年以下ノ禁錮ニ處ス

那威刑法

第一百十條 判事陪審又ハ鑑定官其資格ニ於テ良知ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ之ニ五年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

刑事事件ニ付キ人ニ不法ニ宣告ヲ受ケシメ又ハ過重ノ刑ノ宣告ヲ受ケシメタル者又ハ其協力者ニハ三年以上ノ禁錮ヲ科ス  
罪的行爲ノ結果死刑ヲ執行シ又ハ五年以上ノ自由刑ヲ賠償セシメタルトキハ終身禁錮ヲ科スルコトヲ得

第百十一條 自己他ノ官吏又ハ國家ヲ利益スル爲メ違法ノ租稅貢賦又ハ其職務上ノ手數料ヲ催告シタル公ノ官吏又ハ錯誤ニ依リ爲シタル前記ノ收納ヲ正當ノ歸納トシテ受領シタル公ノ官吏ニハ五年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

公ノ官吏其過誤タルコトヲ覺知スルニ拘ラス善意ニテ徵收セルモノヲ拘留シタルトキハ之ニ金刑公權喪失又ハ三年以下ノ禁錮ヲ科ス

第百十二條 公ノ官吏其職務上ノ行動ニ影響ヲ及サシムル爲メ利益ヲ附與又ハ約諾セラレタルコトヲ知了スルニ拘ハラス職務行爲ノ作爲又ハ不作爲ニ付自己又ハ他人ニ權限ナキ利益ヲ要求又ハ受領シ又ハ約諾セシメタルトキハ之ニ金刑公權喪失又ハ六月以下ノ禁錮ヲ科刑ス

第百十三條 第百十二條ニ豫見セル場合ニ於テ利益ノ受領又ハ約諾ニ因リ爲シタル作爲又ハ不作爲其職務ヲ傷害シタルトキ又ハ官吏因リテ自己又ハ他人ニ此種ノ利益ヲ強要スル爲メ職務行爲ノ實行ヲ拒絶シタルトキハ五年以下ノ禁錮ヲ科ス  
官吏職務違背ノ職務行爲ヲ實行シタルニ因リ利益ヲ附與セララルコトヲ知了スルニ拘ラス之ヲ受領シタルトキハ之ニ同一ノ刑ヲ科ス

第百十四條 判事陪審鑑定官又ハ鑑定人其資格ニ於テ刑事訴訟ニ付キ當事者ノ一方ノ利益又ハ不利益ニ行爲ヲ爲サントシ又ハ爲シタルニ因リテ自己又ハ他人ニ權限ナキ利益ヲ要求シ受領シ又ハ約諾セシメタルトキハ八年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

仲裁々斷裁判所ノ判決ノ效力ヲ有スル場合ニ於テハ前記ノ規定ハ仲裁判事ニモ亦之ヲ適用ス

第百二十二條 公ノ官吏職務行爲ノ作爲又ハ不作爲ニヨリ他人ノ權利ヲ傷害スル爲メ其地位ヲ妄用シタルトキハ之ニ金刑又ハ公職喪失又ハ一

年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

八七八

公ノ官吏權限ナキ利得ヲナシ又ハ爲サシムル意向ニ依リ行爲ヲ爲シタルトキ又ハ罪ニ依リ犯意ヲ以テ著大ノ損害又ハ重大ノ權利傷害ヲ惹起シタルトキハ之ニ五年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

第二百二十四條 公ノ官吏人ニ行爲容認又ハ不作爲ヲ強要シ又ハ之ヲ請求スル爲メ違法ニ其公ノ地位ヲ利用シタルトキハ之ニ禁錮又ハ公職喪失ヲ科刑ス

#### 奧太利刑法草案

第三百六十一條 官吏其職務上ノ職務ヲ行フニ當リ贈與又ハ其ノ得可カラサル利益ヲ受領シ要求シ又ハ約束セシメタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五百フロリン以下ノ罰金ヲ以テ處刑セラルルモノトス  
贈與若クハ利益ヲ提供約束又ハ附與シタル者ハ處刑セラレサルモノトス

第三百六十二條 官吏其官職上ノ職務違背ノ所爲又ハ不行爲ニ付キ贈與

又ハ其他ノ利益ヲ要求シ又ハ約束セシメタル者ハ懲役五年以下又ハ錮ヲ以テ處刑セラルルモノトス

第三百六十三條 何人タリトモ官吏又ハ海陸軍人(第百十八條)ヲシテ其官職上ノ職務違背ノ所爲又ハ不行爲ヲナシメシカ爲メ之ニ贈與又ハ其他ノ利益ヲ提供シ約束シ又ハ附與シタル者ハ賄賂ノ罪アルモノトシテ禁錮又ハ千フロリン以下ノ罰金ヲ以テ處刑セラルルモノトス

第三百六十四條 己レ一人又ハ犯人ト共ニ裁判官トシテ指揮又ハ裁判スルノ義務アル裁判事件ニ付キ一方ノ關係者ノ利益又ハ損失トナル指揮又ハ裁判ヲナサンカタメ贈與物又ハ他ノ利益ヲ受領シ要求シ又ハ約束セシメタル法官仲裁裁判人又ハ陪審官ハ十年以下ノ懲役ヲ以テ處罰セララルルモノトス

第三百六十五條 何人タリトモ第三百六十五條ニ列記シタル者ノ一人ニ同條ニ記載セル目的ヲ以テ贈與又ハ其他ノ利益ヲ提供シ又ハ交付シタル者ハ懲役五年以下又ハ禁錮ヲ以テ處罰セララルルモノトス

第三百六十六條 第三百六十二條乃至第三百六十六條ノ場合ニ於テハ受  
收物又ハ其價額ハ沒收ヲ言渡ス可キモノトス

第三百六十三條 乃至第三百六十六條ノ場合ニ於ケル提供物又ハ其價額  
ニ付テモ亦同シ

第三百六十七條 一方ノ當事者ノ利益又ハ損害ノ爲メ枉法ノ罪アル官吏  
又ハ仲裁々判人ハ五年以下ノ懲役ヲ以テ處刑セラルルモノトス

第三百七十條 其職權ヲ濫用シ又ハ或ル一定ノ濫用ノ脅迫ヲ以テ人ヲシ  
テ其ノ職務ニアラサル耐忍行爲又ハ不行爲ヲ爲サシメタル官吏ハ五年  
以下ノ懲役又ハ禁錮ヲ以テ處刑セラルルモノトス

第三百七十二條 官職ノ執行ニ際シ法律ノ規定ニ違背シテ人身ノ自由ヲ  
制限シタル者ハ第二百四十七條ノ規定ニ從フ但シ少クトモ三月ノ禁錮  
又ハ其過失ノ場合ニアリテハ六月以下ノ國家禁錮又ハ五百「フロリン」以  
下ノ罰金ヲ以テ處刑セラルルモノトス

第三百七十三條 其職務ノ執行ニ際シ身體傷害第二百三十條第二百三十

一條ヲ行ヒ又ハ行ハントシタル官吏ハ三月ヨリ少ナカラサル禁錮又ハ  
五百「フロリン」以下ノ罰金ヲ以テ處刑セラルルモノトス

第三百七十四條 審問ニ當リ強テ自白又ハ陳述ヲナサシメンカ爲メ不法  
ノ強制方法ヲ使用シ又ハ使用セシメタル官吏ハ懲役五年以下又ハ禁錮  
ヲ以テ處刑セラルルモノトス

第三百七十五條 人ニ損害ヲ加ヘンカ爲メ其ノ無罪ナルコトヲ知リツツ  
審問ノ開始又ハ其ノ繼續ヲ申立テ又ハ之ヲ決定シタル官吏ハ十年以下  
ノ懲役ヲ以テ處刑セラルルモノトス

第三百七十六條 全然又ハ其方法又ハ其ノ限度ニテ刑ヲ執行ス可カラサ  
ルコトヲ知リツツ其ノ刑ヲ執行シタル官吏ハ五年以下ノ懲役又ハ六月  
ヨリ少ナカラサル禁錮ヲ以テ處刑セラルルモノトス然レトモ若シ其ノ

刑カ罰金ノ刑ナルトキハ禁錮ノ刑ヲ科ス可キモノトス  
第三百九十三條 終身ノ者ナルト又ハ有期ノ者ナルト又ハ一時任セラレ  
タル者ナルト職務上ノ宣誓ヲナシタルト否トヲ問ハス職務上ノ重罪及

輕罪ニ關シテハ國家、州、町、村、公堂又ハ其ノ他内國ノ公ケノ事務ヲ命セラレタル者及ヒ公然ノ使丁ヲ凡テ官吏ト看做ス其ノ他公證人、町村長及ヒ其代理人モ亦其職務ナル公ケノ職務ヲ行フ場合ニ於テハ官吏ナリトス

瑞西刑法典案

第二百一條 官吏情ヲ知リテ信託セラレタル權力ヲ妄用シタル者ニハ一月以上ノ禁錮又ハ五年以下ノ懲役ヲ科刑ス

第二百二條 官吏自利的ニ職務上利ヲ圖リタルトキハ二月以上ノ禁錮又ハ五年以下ノ懲役ヲ科刑ス。自由刑ニハ五千フランク以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

第二百三條 官吏分與又ハ約諾セラレタル贈與又ハ其他ノ利益ヲ取得シ又ハ約諾セシメ因リテ其職務ヲ傷害シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ一月以下ノ禁錮ヲ科刑ス。自由刑ニハ五千フランク以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

判事、仲裁判事、陪審又ハ參審、贈與又ハ其他ノ利益ヲ取得シ又ハ約諾セシ

メタルトキハ一月以上ノ禁錮ヲ科刑ス。若シ分與又ハ約諾セラレタル贈與又ハ其他ノ利益ヲ取得シ又ハ約諾セシメ因リテ偏私ノ判決ヲ爲シタルトキハ其刑ハ五年以下ノ懲役トス

唐律

諸受人財而爲請求者坐贓論加二等。監臨勢要准枉法論與財者坐贓論減三等。若官人以所受之財分求餘官元受者併贓論餘名依已分法

諸有事以財行求得枉法者坐贓論不枉法者減二等。即同事共與者首則併贓論從者各依已分法

諸監臨主司受財而枉法者一尺杖一百、一匹加一等、十五匹絞

不枉法者一尺杖九十、二匹加一等、三十匹加役流

無祿者各減一等。枉法者二十四絞、不枉法者四十四加役流

諸有事先不許財事過之後而受財者事若枉準法論事不枉者以受所監臨財物論

諸官司入人罪者若人全罪以全罪論

從輕入重以所剩論刑名易者從笞入杖從徒入流亦以所剩論從笞杖入徒流從徒流入死罪亦以全罪論其出罪者各加之  
即斷罪失於入者各減三等失於出者各減五等笞未決放及放而還護若自死各聽減一等  
諸官人使於使所受送饋及乞取者與監臨同經過處取者減一等料不選之即強乞取者各與監臨罪同

明律

凡獄囚應禁而不禁應枷鎖杻而不枷鎖杻及脫去者若因該杖罪笞三十徒罪笞五十死罪杖六十苦應枷而銷應鎖而枷者各減一等若因自脫去及司獄官典獄卒私與囚脫去枷鎖杻者罪亦如之提牢官知而不舉者與同罪不知者不坐其不應禁而禁及不應枷鎖杻枷鎖杻者各杖六十  
若受財者並計賍以枉法從重論  
凡官吏懷挾私讎故禁平人者杖八十因而致死者絞提牢官及司獄官典獄卒知而不舉首者與同罪至死者減一等不知者不坐若因公事等運平人在官無招

誤禁致死者杖八十有文案應禁者勿論若故勘平人者杖八十折傷以上依凡鬪傷論因而致死者斬同僚官及獄卒知情共勘者與同罪至死者減一等不知情及依法拷訊者不坐若因公事干連平人在官事須鞫問及罪人贓狀證佐明白不服招承立文案依法拷訊邂逅致死者勿論  
凡獄囚情犯已完監察御史提刑按察司審錄無冤別無追勘事理應斷決者限三日內斷決應起發者限一十日內起發若限外不斷決不起發者當該官吏三日笞二十每三日加一等罪止杖六十因而淹禁致死者若因該死罪杖六十流罪杖八十徒罪杖一百杖罪以下杖六十徒一年  
凡獄卒非理在禁凌虐毆傷罪囚者依凡鬪傷論尅減衣糧者計賍以監守自盜論因而致死者絞司獄官典及提牢官知而不舉者與同罪至死者減一等  
凡獄囚應請給衣糧醫藥而不請給患病應脫去枷鎖杻而不脫去應保管出外而不保管應聽家人入視而不聽司獄官典獄卒笞五十因而致死者若因該死罪杖六十流罪杖八十徒罪杖一百杖罪以下六十徒一年提牢官知而不舉者與同罪

若已申稟上司不即施行者一日笞一十每一日加一等罪止笞四十因而致死

者苦囚該死罪杖六十流罪杖八十徒罪杖一百杖罪以下杖六十徒一年

凡告謀反逆叛官司不即受理掩捕者杖一百徒三年以致聚眾作亂攻陷城池及劫掠人民者斬苦告惡逆不受理者杖一百告殺人及強善不受理者杖八十關

毆婚姻田宅等事不受理者各減犯人罪二等竝罪止杖八十受財者計贓以杖

法從重論

凡官吏受財者計贓科斷無祿人各減一等官追奪除名吏罷役俱不叙

說事過錢者有祿人減受錢人一等無祿者減二等罪止杖一百各遷徒有贓者

計贓從重論

杖法贓各主者通算全科

一貫以下杖七十，一貫之上至五貫杖八十一，十貫杖九十，一十五貫杖一百，二十貫杖六十，徒一年，二十五貫杖七十，徒一年半，三十貫杖八十，徒二年，三十五貫杖九十，徒二年半，四十貫杖一百，徒三年，四十五貫杖一百，流二千里，五十貫杖一百，流二千五百里，十五貫杖一百，流三千里，八十貫絞

不枉法贓各主者通算折半科罪

一貫以下杖六十，一貫之上至十貫杖七十(以上每十貫加一等一百二十)

無祿人

枉法一百二十貫絞

不枉法一百二十貫之上罪止杖一百流三千里

凡有事先不許財事過之後而受財事若枉斷者准枉法論事不枉斷者准不枉法論

凡諸人有事以財行求得枉法者計所與財坐贓論若有避難就易所枉重者從重者從重論其官吏刁蹬用強生事逼抑取受者出錢人不坐

凡官吏聽許財物金未接受事若枉者准枉法論事不枉者准不枉法論各減一等所枉重者各從重論

凡官司故出入人罪全出全入者以全罪論

若增輕作重減重作輕以所增減論至死者坐以死罪若斷罪失於入者各減三等失於出者各減五等竝以吏典為首首領官減吏典一等佐貳官減首領官一



等長官減佐次官一等科之

若囚未決於及族而還獲若囚自死各就減一等

凡監臨官吏挾勢及豪強之人求索借貸所部內財物者竝計贓准不枉法論強者

准枉法論財物給主

若將自己物貨散與部民及低價買物多取價利者竝計餘利准不枉法論強者

准枉法論物貨價錢竝入官給主

若於所部內買物不即支價及借衣服器玩之屬各經一月不還者竝坐贓論

若私借用所部內馬牛駝羸驢及車船碾磨店舍之類各驗日計雇賃錢亦坐贓

論追錢給主

若接受所部內饋送士宜禮物受者笞四十與者減一等若因事而受財者計贓

以不枉法論其輕過去處供饋飲食及親故饋送者不在此限

其出使人於所差去處求索借貸買賣多取價利及受饋送者竝與監臨官吏罪

同若去官而受舊部內財物及求索借貸之屬各減在官時三等

凡監臨官吏家人於所部內取受求索借貸物及役使部民若買賣多取價利之

清律 類各減本官罪二等若本官知情與同罪不知者不坐

與明律同但第二項杖一百徒二年明律作杖一百

枉法贓各主者通算全科之項與明律異如左

有祿人

枉法贓各主者通算全科

一兩以下杖七十、一兩至五兩杖八十一兩杖九十、一十五兩杖一百、二十兩杖

六十徒一年、二十五兩杖七十徒一年半、三十兩杖八十徒二年、三十五兩杖九十

徒二年半、四十兩杖一百徒三年、四十五兩杖一百流二千里、五十兩杖一百流二

千五百里、五十五兩杖一百流三千里、八十兩絞

不枉法贓各主者通算折半科罪

一兩以下杖六十、一兩之上至一十兩杖七十、二十兩杖八十、三十兩杖九十、四十

兩杖一百、五十兩杖六十徒一年、六十兩杖七十徒一年半、七十兩杖八十徒二年

八十兩杖九十徒二年半、九十兩杖一百徒三年、一百兩杖一百流二千里、一百一

十兩杖一百流二千五百里、一百二十兩杖一百流三千里、一百二十兩以上絞  
無祿人

枉法一百二十兩絞

不枉法一百二十兩以上罪止杖一百流三千里餘與明律同

第三 釋義

本章ハ舊刑法第二編第九章官吏瀆職罪ノ中其第二節官吏人民ニ

對スル罪ノ規定ヲ加ヘタルモノナリ

今其修正ノ主要ナル點ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 舊刑法ハ唯官吏ノ職務ニ關シテノミ規定ヲ設ケタルヲ以テ其範圍  
極メテ狹ク爲メニ等シク公務ニ從事スル者ノ犯罪ニシテ甲ハ罰セラレ  
乙ハ不問ニ付セラルル結果ヲ生シ頗ル權衡ヲ失スルノ嫌アリ況ンヤ今  
日ノ如ク公務員ノ種類増加シタル場合ニ在テハ單ニ官吏ノ瀆職ヲ罰ス  
ルノミニテハ綱紀ヲ肅振スルコト能ハス故ニ從來單行法律ヲ以テ此等  
ノ缺點ヲ補綴セリト雖モ彼此參照不便少ナカラス本法ハ之ヲ改メ廣ク  
公務員ノ瀆職ニ關スル規定ヲ設ケ以テ本章適用ノ範圍ヲ廣クセリ

第二 舊刑法第二百七十七條、第二百七十九條及ヒ第二百八十三條ニ掲ク

ル犯罪ハ共ニ他ノ特別法規ニ讓ルヲ便トシ本法ヨリ之ヲ除外セリ

第三 舊刑法第二百八十一條ノ罪ハ其性質ハ過失罪ニ外ナラス之ヲ毆打

創傷ノ各本條ニ照シテ一等ヲ加フルハ不當ナルカ故ニ之ヲ削除シタル  
モノノ如シ

第四 舊刑法ニハ賄賂ヲ聽許シ又ハ之ヲ受クル者ヲ處罰スルノ規定アレ

トモ贈與者ヲ處罰スルノ規定ナシ賄賂ノ授受ハ雙對的行爲ニシテ贈ル  
者アリテ受クル者ヲ生スルハ自然ノ理ニシテ根本ナクシテ枝末アルノ  
理ナシ殊ニ實際ノ狀況ニ徴スレハ其犯情ノ多クハ贈與者ニ重キモノア  
リ之ヲ不問ニ付スヘカラサルモノアルヲ以テ本法ニハ新ニ規定ヲ設ケ  
舊刑法ノ缺點ヲ補充セリ

以下各本條ニ付キ説明スヘシ

第九十三條ハ舊刑法第二百七十六條ト同一趣旨ノ規定ニシテ本法ハ官吏

ノ外廣ク公務員ニ關スル規定ト爲シタルノミナリ

公務員トハ總則第七條ニ掲クル者ヲ總稱ス本罪ハ實ニ左ノ要素ニ依リ成立スヘキモノトス

- 第一 公務員ノ資格ヲ有スルコト
- 第二 職權ヲ踰越スルコト
- 第三 職權ヲ濫用シテ義務ナキコトヲ行ハシメタルコト
- 第四 人ノ權利ヲ妨害スルコト

第一要素ニ就テ

公務員タル資格ハ各法令ノ規定ニ依リ定マルヘキモノニシテ或ハ任命ノ形式ニ依ルモノアリ或ハ選舉ニ依ルモノアリ各其種類ニ依リ形式ヲ異ニスト雖モ共ニ附與セラレタル職權ナルモノナカラサルヘカラス從テ其職權ヲ濫用シテ爲シタル行爲ハ其自己ノ爲メニスルト人ノ爲メニスルトヲ問ハス等シク犯罪ナリ

本條ノ罪ハ公務員タル資格アル者カ之ヲ犯スニ因テ成立ス舊刑法時代ニ於テ一私人カ加功シタルトキハ共犯ナルヤ否ヤニ付テハ議論アリ或ハ本

章ノ罪ハ官吏タル資格アル者カ之ヲ犯スニアラサレハ發生スルコトナシ從テ官吏タル身分ナキ者ハ共犯タルヲ得スト論スルモノアリ或ハ凡ソ犯罪ヲ發生セシメタル者ハ必ス犯罪者ノ一人トシテ責任ヲ負ハサルヘカラスト云フ總則共犯ノ原則ニ對シ特別ノ明文アラサル以上ハ等シク共犯ナリト説クモノアリ一定セスト雖モ本法ニ於テハ此問題ハ總則第六十五條ノ規定ニ依リ明カニ解決セラレタリ

第二要素ニ就テ

公務員ノ職權ハ法令ノ規定ニ依リ定マルヘキモノニシテ之ヲ踰越スルトキハ公務員カ正當ニ執行シタル公務ナリト云フコトヲ得ス故ニ納稅ヲ命スル職權ナキ公務員カ營業者ニ税金ノ納入ヲ命スルカ如キハ固ヨリ正當ノ職務執行ニアラス

第三要素ニ就テ

私人ニ對シ義務アル行爲ヲ命スルハ職權ヲ有スル公務員ノ正當ニ有スル權利ナリ然レトモ此命令ハ必ス其職權ニ基因スルモノナラサルヘカラス

職權ニ基カサル公務員ノ命令ハ固ヨリ遵奉ノ義務ナシ唯タ其命令カ職權ニ基クモノナルヤ否ヤヲ私人ニ於テ審査スルノ權アルヤ否ヤハ自ラ別問題ナリトス

#### 第四要素ニ就テ

行フヘキ權利ノ妨害トハ正當ニ私權ノ行使ヲ妨害スルノ謂ニシテ法文ノ文字ニ拘泥スルトキハ義務ナキコトヲ行ハシムルノ行爲ニ其反對解釋ニ於テ權利ノ妨害タルヲ失ハスト雖モ本條ニ所謂權利ノ妨害ハ積極的ノ行爲ニシテ職權ヲ濫用シテ正當ニ行フコトヲ得ヘキ私權ノ行使ヲ阻止スルノ謂ナリ

第九十四條ハ舊刑法第二百七十八條ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ舊刑法ハ逮捕官吏カ不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル場合ヲ規定スルヲ以テ其範圍稍狹キニ失ス故ニ本條ハ其趣旨ヲ擴張シ廣ク裁判檢察又ハ警察ノ職務ヲ行フ者若クハ其補助者カ職權ヲ濫用シ不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル場合ヲ規定セリ又舊刑法ハ監禁日數十日ヲ加フル毎ニ一等ヲ加フル主義ヲ採ルト

雖モ本法ニ於テハ之ヲ削除セリ蓋シ監禁日數ヲ以テ加等ノ割合ヲ定ムルハ舊刑法ノ如ク刑ノ範圍狹キ法制ニ在テハ一理ナシト雖モ本法ニ於テハ自ラ決定ヲ異ニスルモノアリ故ニ本條ハ刑ノ範圍ヲ擴張スルノミナラス懲役及ヒ禁錮ノ兩刑ヲ設ケ情狀ニ因リ裁判官ヲシテ適當ノ刑ヲ科セシムルコトト爲シ斯ル細密ナル規定ヲ削除シ罪刑宜キニ適セシムルコトヲ得セシメタリ」  
 第九十五條ハ舊刑法第二百八十條及ヒ第二百八十二條ヲ合シ少シク之ヲ修正シタルモノニシテ第二百八十條中「飲食衣服ヲ屏去シ」云々ノ例示の規定ヲ削除シタルハ凌虐ノ文字ニテ充分其意義ヲ表ハスニ足り又第二百八十二條ノ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ「ヲ削リタルハ暴行凌虐ノ原因ハ必スシモ罪狀ヲ陳述セシムル爲メノミニ限ラス憎惡ノ私情ヨリ暴行凌虐ヲ加フルモノアルヘク其他百般ノ原因アルヘキニ依リ之ヲ必要條件ト爲スノ理由ナキヲ以テ凡テ削除シ第一項ニ於テハ汎ク裁判檢察警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者ニ付キ規定シ第二項ニ於テハ法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守若クハ護送スル者ニ付キ規定セラレタリ

第九十六條ハ舊刑法第二百八十條第二項及ヒ第二百八十二條第二項ト同一趣旨ノ規定ナリ

第九十七條ハ舊刑法第二百八十四條ノ趣旨ヲ擴張シタル規定ニシテ舊刑法ハ唯官吏收賄ノ場合ノミヲ規定スト雖モ前已ニ述フル如ク其範圍狹キニ失スルヲ以テ廣ク公務員又ハ仲裁人ニ關スル規定トセリ其仲裁人ヲ入レタルハ仲裁人ノ職務ハ就中私人ノ權利ニ消長ノ關係アルモノニシテ專ラ公平ヲ旨トセサルヘカラス公務員ノ職務執行ト必要ノ程度ニ於テ軒輊スル所ナキヲ以テナルヘク又舊刑法ニハ賄賂ヲ聽許シトアリ聽許トハ賄賂ヲ受クルコトヲ承諾スルノ意義ニシテ其實約束ト異ナル所ナキヲ以テ本法ハ其實質ニ從ヒ之ヲ約束ト修正シ況ク總テノ場合ヲ包含セシメタリ  
舊刑法ニハ賄賂ヲ收受シ因テ不正ノ處分ヲ爲シタルトキハ刑一等等ヲ加フルコトヲ規定スレトモ本法ニ於テハ別ニ其刑ヲ定メタリ畢竟立法上ノ便宜ニ過キサルヘク又本條第二項ハ舊刑法第二百八十八條ト類似シタル規定ニシテ既ニ收受シタル賄賂ノ全部又ハ一部ハ之ヲ沒收スルモ若シ之ヲ沒收スル

コトヲ得ナルトキハ其價格ヲ追徴シ以テ犯人ヲシテ不法ノ利得ヲ爲サザラシムルコトヲ目的ト爲セリ

第九十八條ハ新ニ設ケタル規定ナリ前已ニ述フル如ク舊刑法ハ賄賂ヲ贈與提供又ハ約束シタル者ヲ處罰スル規定ナキカ爲メ公務員又ハ仲裁人ノ收賄ヲ防遏スルコト極メテ困難ナルヲ以テ本法ハ本條ニ於テ更ニ此等賄賂ヲ贈與提供又ハ約束シタル者ヲモ處罰スル規定ヲ設ケ以テ努メテ收賄ノ弊ヲ矯正セムコトヲ計リタルモノノ如シ第二項ハ自首者ニ減輕若クハ免刑ノ特典ヲ與フルノ規定ニシテ賄賂收受ノ弊害ヲ滅殺セムコトヲ期スルノ結果自首ヲ獎勵スルノ趣旨タルコト蓋シ疑ヲ容レズ

前草案ニハ公務員又ハ仲裁人ノ秘密漏泄ニ關スル特別ノ規定アリシモ此等ハ懲戒規定ニ讓ルヘキ趣旨ヲ以テ削除シタルモノノ如シ

第四 疑問及說明

第一 公務員カ職權ヲ濫用スルモ被害者カ承諾シテ或ル行爲ヲ爲シタルトキハ如何ニ之ヲ處分スルヤ

質問ノ場合ハ舊刑法第二百七十六條ニ付テモ同一ニシテ此場合ハ職權濫用ト云フコトヲ得サルヘシ

第二 坊間屢々傳フル彼ノ警察官ノ承諾同行ナルモノハ職權濫用ノ中ニ包含スルヤ

此問題ハ専ラ事實ニ依リ決定スヘキモノニシテ職權濫用ノ結果第百九十三條等ニ記載シタル所爲アルトキハ固ヨリ處罰スルヲ妨ケスト雖モ承諾同行カ常ニ職權濫用ト云フコトヲ得サルヘシ

第三 第百九十三條ノ刑ト第百九十四條ノ刑トニハ著シキ等差アリ立法者ハ第百九十三條ノ場合ハ第百九十四條ノ場合ニ比シ情狀輕キモノト見タルモノナルヘキ乎

本問ハ全ク見ル所ニ依リ異ナルヘキ問題ナリトス公務員ノ職權濫用ハ屢屢起ル實例ナルヲ以テ嚴ニ之ヲ處罰セサルヘカラスト云フ一點ヨリ見ルトキハ其刑ヲ重クスル必要アルヘシト雖モ他ノ一面ヨリ考フルトキハ職權ナキ者カ濫ニ人ヲ逮捕監禁スルコトト職權ヲ有スルモ少シク其範圍外

ニ出テタルモノトヲ比較スルトキハ必スシモ職權濫用ノ刑ヲ重クセサルヘカラサルノ理由ナキヲ以テ立法者ハ此等ノ事理ヲ考覈シテ刑ヲ定メタルモノナルヘシ

第四 補助者トシテ如何ナル者ヲ云フヤ  
主トシテ巡查憲兵ヲ云フ

第五 巡查憲兵ハ警察ノ職務ヲ行フ者トアル中ニ包含セサルヤ  
巡查憲兵ハ其職務ノ性質ヨリ云フトキハ警察ノ職務ヲ行フ者トアル中ニ包含スルモノノ如キモ警察ノ職務ヲ行フ者ト云フトキハ多クノ場合ニ於テハ警察官吏ト解スルノ虞アルニ依リ特ニ此等ノ疑問ヲ避クル爲メ特ニ補助者ナル語ヲ用テ其趣旨ヲ明ニシタルモノナルヘシ

第六 第百九十七條第二項ノ場合ニ於テ一部ノ沒收トハ如何ナル意義ナリヤ

收賄ハ犯罪行為ナレハ常ニ全部ノ沒收ヲ爲スヘキニアラサルヤ  
總則ノ規定ニ依レハ沒收ハ裁判官ノ自由裁量ニ任スヘキモノナレハ常ニ

没収ヲ爲スト云フコトヲ得ス故ニ第九十七條第二項ニ於テハ法律ニ依  
リ常ニ没収スルコトヲ規定セリ然レトモ收賄シタル全部又ハ一部カ既ニ  
正當ニ他ノ所有ニ歸シタルトキハ没収スルコトヲ得サルニ依リ其額ヲ追  
徴スルコトヲ示シタルニ過キス

第七 假令ハ百圓ヲ追徴スト云フ場合ニ於テ一錢不足スレハ全部ノ追徴ヲ  
了シタリト云フコトヲ得サルヘシ果シテ然ラハ法文其價額ヲ追徴スト云  
ヘハ其一錢ヲ追徴スルコトハ明瞭ニシテ特ニ一部ノ文字ヲ入ルルノ必要  
ナキニアラスヤ

第九十七條第二項ノ趣旨ハ全部ノ没収ヲ爲スコト能ハサルトキハ全部  
ノ追徴ヲ爲シ一部没収ヲ爲スコト能ハサルトキハ一部ノ價格ヲ追徴スト  
云フニ過キス

第八 第九十七條第一項ニ所謂仲裁人トハ何事ニ限ラス紛議ノ仲裁ヲ爲  
ス者ヲ總稱スルヤ

第九十七條第一項ノ仲裁人ハ法律ニ據ツテ定メタル仲裁人ヲ云フ趣旨

ナレハ現今ニ於テハ民事訴訟法ニ定メタル仲裁人ヲ云フモノナルヘシ  
第九 商議會議所ニ於ケル仲裁人ハ如何  
本法制定ノ當時ニ在テハ専ラ民事訴訟法ニ定メタル仲裁人ヲ見タルモノ  
ニシテ商議會議所ノ仲裁人ハ認メサルモノノ如シ

第十 賄賂カ金錢ナルトキハ如何ニシテ之ヲ追徴スルヤ又收賄シタル金額  
カ銀行又ハ他人ニ預ケアル場合ハ如何ニ之ヲ處分スルヤ  
金錢ノ場合ニ付テハ法文別ニ明示スル所ナシト雖モ金錢ナル故ニ絶對ニ  
追徴スルコトヲ得サルノ理ナク又他ニ預ケ入レタル場合ニ於テハ第九  
十七條第二項ノ所謂没収スルコト能ハサル場合ニ該當スヘキニ依リ其額  
ニ相當スル金錢ヲ追徴スレハ足ルヘシ

### 第二十六章 殺人ノ罪

第九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以  
上ノ懲役ニ處ス

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其罪ヲ免除スルコトヲ得

第二百二條 人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三條 第九十九條第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一 沿革

第一案 第二百八十二條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲シ死刑

ニ處ス

第二百八十三條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ無期懲役ニ處ス

第二百八十四條 性質、用法又ハ時會ニ因リ人ヲ死ニ致シ得ヘキ罪ナルコトヲ知リ之ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ豫メ謀ルニ非スト雖モ死刑ニ處ス

第二百八十五條 支解、折割其他慘刻ノ所爲ヲ施シ人ヲ殺シタル者ハ豫メ謀ルニ非スト雖モ死刑ニ處ス

第二百八十六條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナルがメ又ハ已ニ犯シテ逃走ヲ便ニシ若クハ刑ヲ免カルル爲メ其犯罪ノ當時人ヲ殺シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス死刑ニ處ス

第二百八十七條 人ヲ殺スノ意ヲ以テ詐稱誘導シテ危害ニ陥レ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ豫メ謀ルト否トニ從ヒ謀殺故殺ヲ以テ論ス



其危害ニ陷レタルモ死ニ致ササル者ハ未遂犯ヲ以テ論ス

第三百條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺入ノ爲

メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第三百一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ三等有期懲役ニ處ス

第三百二條 教唆者又ハ幫助者ノ意外ノ舛錯障礙ニ因リ自殺者自殺ヲ遂ケサルトキハ前二條ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第三百四十五條 子孫其父母祖父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二案 第二百三十四條 人ヲ殺シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處

ス

第二百三十五條 人ヲ殺シタル者左ニ記載シタル情狀アルトキハ

死刑又ハ無期懲役ニ處ス

一 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキ

二 豫メ謀テ犯シタルトキ

三 二人以上ヲ殺シタルトキ

四 支解打割其他慘刻ノ行爲ヲ以テ殺シタルトキ

五 重罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ逮捕ヲ免レ若ク

ハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ犯シタルトキ

第二百三十六條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百三十七條 謀殺ノ目的ヲ以テ其準備ヲ爲シタル者ハ一年以

下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ本刑ヲ免除シテ監視ニ付スルコトヲ得

第二百三十八條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受

ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ニハ七年以下ノ懲役又ハ

禁錮ニ處ス

第二百三十九條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スル

コトヲ得

本節ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第三案 第二百三十四條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第二百三十五條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百三十六條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百三十七條 人ヲ殺ス目的ヲ以テ其準備ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ本刑ヲ免除シテ監視ニ付スルコトヲ得

第二百三十八條 第二案ニ同シ

第二百三十九條 第二案ニ同シ

第四案 第三案ニ同シ

第二 參照法律

佛蘭西刑法

第十三條 尊屬ノ親ヲ殺セシニヨリ死刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ結紮ノママ

跣足ニナシテ頭ニ皂被ヲ蒙ラシメ刑場ニ連レ行ク可シ

此犯人ハ裁判所使吏ノ罪案ヲ衆庶ニ讀ミ聞カスル時間刑壇ノ上ニ肆シ

置キ罪案ヲ讀ミ終リシ後直チニ之ヲ刑ニ處ス可シ

第二百九十五條 故意ヲ以テ人ヲ殺スヲ故殺ノ罪ト云フ

第二百九十六條 豫メ人ニ害ヲ加ヘント謀リ又ハ人ノ來ルヲ待チ害ヲ加ヘント爲シ之ヲ殺シタル罪ヲ謀殺ノ罪ト云フ

第二百九十七條 豫メ人ニ害ヲ加ヘント謀リタルトハ害ヲ加フル前ニ其害ヲ加フ可キ事ヲ豫言セシ人又ハ相會ス可キ人ノ身體ニ對シ害ヲ加ヘント謀ルヲ云フ但シ其謀意或ル景況ニ管シ又ハ或約定ニ管シタル時ト雖モ亦同上ナリトス

第二百九十八條 人ノ來ルヲ待チ害ヲ加ヘント爲ストハ一箇又ハ數箇ノ犯ニ於テ多少ノ時間人ノ來ルヲ待チ之ヲ殺サント爲シ又ハ暴行ヲ加ヘ

ント爲スヲ云フ

第二百九十九條 尊屬ノ親ヲ殺ス罪トハ法ニ適シタル父母又ハ法ニ適セ

サル父母又ハ養父母又ハ其他法ニ適シタル尊屬ノ親ヲ殺スヲ云フ

第三百一條 毒殺ノ罪トハ毒物ヲ用ヒタル方法及ヒ效驗ノ如何ヲ問ハス

遅速ヲ論セス人ヲ殺ス可キ物ヲ用ヒ入ノ生命ヲ害スルヲ云フ

第三百二條 謀殺ノ罪、尊屬ノ親ヲ殺ス罪、毒殺ノ罪ヲ犯セシ者ハ死刑ニ處

セラル可シ但シ此規則ト尊屬ノ親ヲ殺ス罪ニ付キ第十三條ニ記スル規

則ト相觸ルル事ナカル可シ

第三百三條 名稱ノ如何ヲ問ハス重罪犯ヲ行フ爲メ人ヲ痛苦セシメ又ハ

殘忍ノ所行ヲ爲シタル兇徒ハ謀殺ノ罪アリトシテ刑ス可シ

第三百四條 故殺ノ罪ヲ他ノ重罪ノ前ニ犯シ又ハ之ト同時ニ犯シ又ハ其

後ニ犯ス時ハ犯人ヲ死刑ニ處ス可シ

輕罪ヲ犯ス設備ヲ爲シ又ハ其罪犯ヲ容易ナラシメ又ハ其罪犯ヲ行フヲ

以テ目的ト爲シ或ハ其罪犯ノ首謀及ヒ附從ノ逃亡ヲ助ケ又ハ其刑ヲ免

レシムルヲ以テ目的ト爲シ故殺ノ罪ヲ犯シタル時モ亦其犯人ヲ死刑ニ處ス可シ

(末項) 凡テ其他ノ場合ニ於テハ故殺ノ犯人ヲ無期ノ徒刑ニ處ス可シ

第三百二十一條 甲者ヨリ乙者ニ對シ至重ノ毆撃又ハ暴行ヲ爲スニ當リ

乙者甲者ヲ殺シ又ハ創傷或ハ毆撃シタル時ハ乙者ノ罪ヲ宥恕ス可キ者

トス

第三百二十二條 晝間ニ牆扉又ハ家屋ノ門戸又ハ人ノ住スル房室ノ入口

或ハ家屋房室ニ屬スル物ノ入口ニ攀援シ又ハ之ヲ破壞セント爲スヲ防

止シテ前條ニ記セシ輕重罪ヲ犯シタル者モ亦其罪ヲ宥恕ス可キ者トス

若シ夜間ニ此事ヲ爲ストキハ第三百二十九條ノ規則ニ循フ可シ

第三百二十三條 尊屬ノ親ヲ殺ス罪ハ決シテ宥恕ス可カラス

第三百二十四條 夫ノ其婦ヲ故殺シ又ハ婦ノ其夫ヲ故殺スル罪ハ其罪ヲ

犯セシ夫又ハ婦ノ當時其生命ノ危迫ニ及ヒ止ムヲ得スシテ之ヲ犯シタ

ル時ノ外宥恕ス可カラス

然レトモ第三百三十六條ニ記シタル姦通ノ場合ニ於テ夫其家ニテ其婦  
及ヒ姦夫ノ現ニ其罪犯ヲ行フニ當リ之ヲ殺シタル時ハ其罪ヲ宥恕ス可  
シ

白耳義刑法

第三百九十三條 凡故意人ヲ殺ス者ヲ故殺ト云フ即チ終身懲役トス

第三百九十四條 凡豫謀人ヲ殺ス者ヲ謀殺ト云フ即チ死刑ニ處ス

第三百九十五條 父母尊屬ノ親及庶ヒ火母ヲ故殺スルヲ弑親ト云フ即チ

死刑トス

第三百九十七條 凡物質原品重品等諸種ノ方劑ヲ用ヒ飲食セシメ殺ス者

ハ其即死ト時ヲ經テ死スルトヲ論セス毒殺ト云フ即チ死刑ニ處ス

第四百十條 第三百九十八條ヨリ第四百五條ニ至ル犯罪若シ其父母庶父

母養父母或ハ其他尊屬ノ嫡親ニ於ケル者ハ第二百六十六條ニ從ヒ加等

ス

第四百十一條 強暴ノ所行ニ逢ヒ人命危キニ至リ已ムヲ得ス人命若クハ

毆傷ヲ犯ス者ハ宥恕ス可シ

第四百十二條 白日ニ墻壁ヲ越ヘ或ハ住屋居室及ヒ其附屬所ノ戸ヲ破壊

シ侵入スル者ヲ其主人毆殺傷シ其狀ヲ檢スルニ侵入者面ノアタリ其主

人ヲ害セントスル勢アルカ或ハ防禦ニ抗拒セントスル勢アルノ證ヲ得

ル者ハ宥恕ス可シ

第四百十三條 姦婦姦夫若クハ姦夫姦婦ヲ其犯姦所ニ殺傷スル者ハ宥恕

ス

第四百十五條 尊屬ノ嫡親及ヒ庶父母ヲ殺傷スル者ハ本章中ノ宥恕律ニ

依テ論スルヲ得ス

獨逸刑法

第五十三條 危迫自護ニ出ツル所業ハ無罪トス

身ヲ正當ニ防禦スルトハ自己ノ爲メ又ハ他人ノ爲メ目前非理ノ強暴ヲ

防クヲ云フ

假令ヒ身ヲ正當ニ防禦スルニ其度ヲ過シタリトモ困怕恐怖等ニ出レハ

無罪トス

第二百一十一條 故意ニテ人ヲ殺スニ豫メ謀リテ之ヲ犯シタル時ハ謀殺トシ死刑ニ處ス可シ

第二百一十二條 故意ニ依ルト雖モ豫メ謀ルコトナク人ヲ殺シタルヲ故殺トシ五年ヨリ短カラサル徒刑ニ處ス可シ

第二百一十三條 甲ノ人(ル人ナ殺シタ)自己ノ過失ナクシテ乙ノ者(殺サレタル)ヨリ己レニ對シ或ハ其親族ノ一人ニ對シ暴行又ハ至大ノ不敬ヲ爲スニ依リ怒リヲ發シ直ニ其所業ニ及ヒ若シ酌量輕減スルコトアルトキハ其刑六月ノ禁獄ヨリ短カラサル可シ

第二百一十四條 罪ス可キノ所業ヲ謀リ其事ヲ施行セントスルヲ抵抗スル邪魔ヲ除カン爲メ又現行犯罪ニ於テ捕縛ヲ逃レン爲メ故ラニ人ヲ殺シタル者ハ十年ヨリ短カラサル徒刑又ハ無期ノ徒刑ニ處ス可シ

第二百一十五條 尊屬ノ親ヲ故殺シタル者ハ十年ヨリ短カラサル徒刑又ハ無期ノ徒刑ニ處ス可シ

第二百十六條 己レヲ殺ス可シト切實ナル囑託ヲ受ケ故殺シタル者ハ三年ヨリ短カラサル禁獄ニ處ス可シ

第二百二十八條 末項

若シ尊屬ノ親ニ對シ此暴行ヲ爲シタルトキハ其刑ヲ輕減スルコトヲ得ス(酌量輕減ノ場合ヲ云フ)

英吉利刑法典

一 先ツ人ヲ殺サント謀ルコト明白ニシテ後殺ス者ヲ謀殺ト爲シ重罪ニ坐シ絞ニ處シ若シ先ツ自ラ人ヲ殺サント謀ラス或ハ自ラ手ヲ下シテ人ヲ殺サスト雖モ理ニ於テ人ノ必ラス死ス可キコトヲ行ヒ因テ人ヲ死ニ致ス者モ仍ホ謀殺ヲ以テ論ス例ハ殊更ニ曾テ人ヲ傷害スル所ノ熊犬等ヲ放チ因テ人ヲ咬殺シ或ハ不孝ナル子カ老親ノ意ニ逆ヒ之ヲ田野無人ノ地ニ遺棄シ又ハ嬰兒ヲ庭樹ノ下ニ置キ爲ノ來テ蹴殺シタルカ如キ皆之ヲ謀殺罪トス

其幼稚瘋癲愚人等ノ犯ス者ハ此律ヲ用ヒス

- 一 卒然ノ忿激ニ出ツルト雖モ匪法酷暴ニ事ヲ行ヒテ人ヲ死ニ致ス者ハ豫メ殺サント謀ラスト雖モ其心已ニ極惡ナレハ仍ホ謀殺ヲ以テ論ス假令ハ家長奴婢ノ法ニ違ヒ因テ決罰スルニ鐵杖ヲ把テ毆撃シ或ハ師匠ノ弟子ヲ決闘スルニ胸腹ヲ踏踏シ因テ死ニ致ス如キヲ云フ
- 一 人ヲ謀殺セントシ罪狀已ニ明白ナル者ハ其已ニ人ヲ傷シ及ヒ未タ傷セサルヲ問ハス竝ニ重罪ニ坐シ五年ヨリ終身ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過キサル入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ隘牢ヲ加フ
- 一 人ヲ傷害セント欲シテ故ラニ馬脚ヲシテ蹴踢セシメ或ハ羣聚スル地ヘ發砲シ因テ人ヲ殺ス者ハ豫メ殺サント謀ル意ナシト雖モ害ヲ衆庶ニ及ホサントスルハ亦同ク謀殺罪ヲ以テ論ス
- 一 凡捕吏ノ己レヲ追撃スルコトヲ聞知シテ之レヲ拒防シ因テ死ニ致シタル者ハ謀殺ヲ以テ論ス
- 一 人ヲ毒殺セント謀リ藥ヲ設クルニ其人ノレヲ取ラス餘人ノ誤テ飲ミ死スル者モ亦謀殺ヲ以テ論ス

- 一 謀殺強盜若クハ夜中人ノ房屋ヲ破壞セントスル者ヲ事主或ハ奴婢擅ニ之ヲ殺シ及ヒ他人ノ偶然ト其場ニ在リ傍ヨリ事主ヲ救護シテ之レヲ殺ス者ハ竝ニ其罪ヲ論セス
- 其強逼及ヒ兇惡ヲ爲スニ非スシテ輒ク殺ス者ハ其罪ヲ免サス假令ハ人ノ衣服内ノ金銀ヲ掏摸セントシ或ハ白晝ニ人ノ房屋ヲ破ラントスル者ヲ殺セハ仍ホ其殺罪ニ坐ス
- 一 強姦ヲ以テ人ニ逼迫セラレ婦女拒防シテ之ヲ殺ス者若クハ親夫其女妻ノ強姦セラレントスルヲ見テ殺ス者ハ竝ニ其罪ヲ免ス
- 其婦女ノ和姦ナルコトヲ知テ殺ス者ハ免サス
- 若シ鷄姦ヲ以テ強逼セラレ拒防シテ之ヲ殺ス者モ亦其罪ヲ免ス
- 一 自ラ其生命ヲ殺害スル者ヲ重罪殺犯トシ前條ノ免スヘキ者ト別異ス其自殺スル者ハ元ト自ラ人事ノ艱苦ニ堪ユヘキ精力ナクシテ之レヲ脱避セン爲メニ其生命ヲ殘害スル者ナレハ勇アルニ似テ却テ其實ハ怯ナル者ナリ希臘國ノ法律ニテハ之レヲ罰スルニ其手ヲ斬ス英律ニテハ人

各造物者ヨリ稟ル所ノ生命ニアレハ天命ニ非ラスシテ私ニ之ヲ滅亡スルントヲ得ス故ニ若シ自殺ヲ犯ス者アレハ之レヲ二項ノ犯罪ト爲シ一ハ法門ニテ天命ヲ犯シ及ヒ造物者ノ意ニ戾ル者ト爲シ一ハ俗間ニテ國君ノ其臣下ヲ保護スル所ノ義ニ反スル者ト爲シ因テ之レヲ大罪ト爲ス若シ人ヲ教唆シテ自殺ヲ犯サシムル者ハ謀殺ノ前徒ナル者ト爲シテ論ス

一 人ヲ殺サント謀リ却テ其身ヲ誤殺スル者ハ仍ホ自殺ノ罪ヲ以テ論ス假令ハ人ヲ砲殺セント欲スルニ其銃破裂シテ身自ラ死スル者ノ如キヲ云フ若シ人ニ懇求シテ其身ヲ殺サシムル者ハ自殺ノ罪ヲ以テ論スルコトヲ得ス其許諾ヲ受テ之ヲ行フ者ヲ以テ謀殺ノ罪ニ坐ス若シ二人共ニ同死ヲ謀リ其一人已ニ死シテ餘ノ一人未タ死セサル者モ亦謀殺ノ罪ニ坐ス

一 瘋癲人ノ自殺ヲ犯ス者ハ固ヨリ情恩ヲ知ラサル者ニアレハ自殺ノ罪ヲ以テ論スルコトヲ得スト雖モ其罪ヲ犯ス時瘋癲ニ非ラス全ク常人ト

異ナラサル者ハ前後縦ヒ瘋癲ト雖モ仍ホ常人ノ自殺ヲ以テ論ス

一 自殺ヲ犯ス者ハ之ヲ罰スルニ身後ニ遺ス可キノ産業及ヒ存スヘキノ聲譽ヲ以テ其罪ヲ罪ス乃チ其財産ヲ官府ニ藉沒シ及ヒ祭門ノ式禮ヲ以テ之レヲ葬埋スルコトヲ許サス且ツ官吏ノ查檢ヲ經ル後二十四時間内ノ夜更九時ヨリ十二時ニ至ル間ニ於テ其餘骸ヲ埋メジム

一 凡父母及ヒ夫若クハ家長ヲ殺ス者ト雖モ竝ニ常人ノ殺罪ニ依テ論シ其罪別異トナル

一 事卒然ト發リ互ニ鬪毆シ一時ノ忿激ニ堪ヘス因テ人ヲ死ニ致ス者ハ有心鬪毆殺トナシ重罪ニ坐シ鬪毆殺ノ罪トス若シ即時ニ非ラス怒氣過ルノ後殺ス者ハ仍ホ謀殺罪ヲ以テ論ス

一 鬪毆殺ヲ犯ス者ノ處刑ハ判事ノ適當トスル所ニ依テ五年ヨリ終身ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過キサル所ノ入獄ニ處シ情ニ依リ苦役ヲ加ヘ若クハ止タ贖罪ニ處シ或ハ贖罪ヲ本刑ニ加ヘテ處斷ス

一 二人共ニ鬪毆スルニ傍ラニ人アリ爲メニ和解セントシ説諭スルヲ用

ヒス却テ之レヲ毆テ死ニ致ス者ハ謀殺ヲ以テ論ス  
一 保率限内ニ其罪犯人ヲ殘傷セシムル日ヨリ通計シ一年一日即チ三百六十六日ヲ以テ期限ト爲シ若シ限内ニ於テ死ニ至ル者ハ其殺罪ニ坐ス  
埃太利刑法

第三百三十四條 人ヲ殺ス可キ趣意ヲ以テ該人若クハ他人ヲ死ニ致セシ者ハ縱令專ラ其被殺者ニ存セシ身體性質ノ爲メ若クハ全ク犯時不意ノ事情意外ノ事故ニ依テ其死ヲ繼發セシメント雖モ謀殺ノ重罪ヲ以テ論ス可シ

第三百三十七條 謀殺犯ニ現ニ關係スルコトナク又之レヲ幫助セシニ非スシテ第五條ニ記セシヨリ他ノ方法ヲ以テ間接ニ其犯事ニ協力セシ者ハ通常ノ謀殺ニ於テハ之ヲ五年乃至十年ノ重徒刑ニ處ス可シ然レトモ尊卑ノ親族ニ對セシ謀殺及ヒ共犯者中ノ一人ノ配偶タルヲ知テ之ニ對セシ謀殺陰謀殺強盜殺或ハ囑付ヲ受ケシ謀殺ニ於テハ其刑期ハ十年乃至二十年タル可シ

第四百二十二條 前條ノ如クナラサル他ノ故殺ハ五年以上十年以下ノ重徒刑ニ處ス可シ然レトモ其死ニ至リシ者該犯者ノ近親若クハ特別ノ交誼有ル者ニ係ルトキハ本刑ヲ十年以上二十年以下ノ重徒刑トス  
魯西亞刑法

第一千九百二十條 凡ソ父或ハ母ヲ謀殺スル者ハ重刑ノ第二類第一等刑ニ處セラル可シ此重罪犯ハ其謫所ニ於テ何等ノ事由アリト雖モ決シテ他ノ犯罪者ト混居スヘカラス又全ク其身體虛弱ナル者ニ非サレハ苦役ヲ免ス可カラス但シ之ヲ免セラレシ者ト雖モ仍ホ閉關外ニ出ツルヲ禁ス  
第一千九百二十一條 已ニ謀殺罪ヲ犯シ更ラニ同罪ヲ犯ス者ハ重刑ノ第二類第一等刑ニ處セラル可シ

第一千九百二十二條 妻ヲ謀殺スル男、夫ヲ謀殺スル妻、或ハ尊屬ノ親、卑屬ノ親、兄弟姉妹、叔父母、伯父母ヲ謀殺スル者竝ニ又其部長或ハ主人、或ハ主人ノ家族ヲ謀殺スル者、或ハ奴僕、傭工人ニシテ其家長ヲ謀殺シ、或ハ家育ヲ受ケシ人ヲ謀殺スル者モ亦第一千九百二十一條ノ刑ニ處セラル可シ未婚



ノ婦私生ノ子ヲ殺害スルノ罪ヲ犯ス者ハ三等ヲ減セラル可シ又豫メ思慮ナクシテ同罪ヲ犯ス者ハ重刑ノ第三類第一等或ハ二等ニ處セラル可シ

第千九百二十三條 孕婦ヲ謀殺スル者ハ重刑ノ第二類第二等ニ處セラルヘシ

第千九百二十四條 左ノ場合ニ於ケル謀殺モ亦重刑ノ第二類第二等ノ刑ニ處セラル可シ

- (一) 他人ノ生命ヲ奪フヘキ爲メ其建築ニ火ヲ放チ或ハ破裂物若クハ他ノ方法ヲ用ヒ之ヲ崩壞スル者堤堰ヲ割キ或ハ他ノ方法ヲ以テ汎濫ヲ爲ス者橋梁鐵道ヲ損害スル者衆中ニ敵對スル者其他凡ソ衆人ノ生命ヲ危クシ或ハ一地方ヲ擧ケテ其害ニ觸レシムル者
- (二) 殘酷ノ殺害ヲ爲シ或ハ豫メ暴辱ヲ加ヘ後チ謀殺スル者
- (三) 謀殺者自ラ陰伏シ或ハ其殺罪ヲ自在ニ爲シ得ヘキ地ヘ被害者ヲ誘導シテ殺害スルトキ

- (四) 強盜或ハ他人ノ財産ヲ奪掠ス可キ目的ヲ以テ殺害スル時
- (五) 毒劑ヲ以テ殺害ヲ爲ス者

第千九百二十五條 謀殺ハ第千九百二十四條乃至第千九百二十四條ニ記載スル加重ノ情狀ノ一モ無キトキハ重刑ノ第二類第三等刑ニ處セラル可シ然レトモ數人相謀テ共ニ謀殺ノ罪ヲ犯ストキハ別ニ加重ノ情狀ナシト雖モ重刑ノ第二類第二等ニ處セラルヘシ

第千九百二十六條 豫謀無ク唯々憤怒ノ餘他人ヲ殺害ス可キ意ヲ決シ之ヲ犯ス者ハ重刑ノ第二類第四等ニ處セラル可シ然レトモ被害者若シ其故殺者ト第千九百二十二條ニ記載セル緣故親族夫婦主長家育者等アルトキハ其刑一等ヲ加フ

第千九百三十八條 凡ソ許サレタル危迫自護ノ境界ヲ越ヘ或ハ其危險已ニ經過セシ後已ムヲ得サルニ非スシテ暴行者ヲ殺ス者ハ情狀ニ從テ六月以上一年以下ノ禁獄或ハ三日以上七日以下ノ禁錮若クハ唯々裁判所ニ於テ嚴呵ヲ受クル事アル可シ

第一千九百四十三條 故ラニ自殺スル者ハ死後ノ處分ヲ遺囑シ得ヘキ權無キ人ト看做サル可シ故ニ自殺人ノ遺囑書ハ其力無キモノトシ之ヲ施行ス可カラス竝ニ其臨終ニ其子後見人奴僕財產等ニ係ル遺言モ凡テ其效ナキモノトス

自殺者ハ耶蘇宗ノ葬禮ヲ受クルヲ得ス

第一千九百四十四條 自殺ヲ謀試シ唯々意外ノ障礙ヲ以テ之ヲ果シ得サリシ者ハ若シ耶蘇宗ニ屬スル者ナルトキハ寺門ノ懲戒ヲ受ク可シ

第一千九百四十五條 愛國心或ハ忠義心ヨリ危險ヲ冒シ生命ヲ抛テシ者ハ第一千九百四十三條及ヒ第一千九百四十四條ニ據テ論ス可カラス竝ニ婦人抑襲ヲ受ケ他ニ避クヘキ方法アラサルトキ其真烈及ヒ榮譽ヲ全フスヘキタメ自殺シ或ハ自殺ヲ試ムル者モ亦同

第一千九百四十六條 他人ニ自殺ヲ慫慂シ或ハ其方便ヲ與ヘ或ハ或方法ヲ以テ其補助ヲ爲ス者ハ謀殺ノ加功トシ第二百二十七條ニ從テ刑セラル可シ  
第一千九百四十七條 父母後見人及ヒ他ノ支配人其威ヲ妄用シテ配下ノ者

ニ自殺ヲ誘導スルトキハ第五十三條ニ記載セル權利ヲ剝奪シテ一年以上二年以下懲治場ノ刑ニ處セラレ而シテ該人若シ耶蘇宗ニ屬スル時ハ寺門ノ懲戒ヲ受ケシム可シ

第一千九百二十五條 二項

然レトモ豫謀無ク唯々憤怒ノ餘害傷セント欲スルノ意ヲ以テ打傷シ遂ニ死亡ヲ致ス時ハ犯人懲治刑ノ第一類第二等ニ處セラル可シ

第一千九百六十三條 第一千九百四十八條乃至第一千九百六十二條ニ記載シタル重罪ヲ若シ其父母ニ對シテ犯爲セシ者ハ本刑ニ三等ヲ加ヘラル可シ又其被害者第一千九百二十二條ニ記載セル諸人ニ係ルトキハ二等ヲ加ヘラル可シ

第一千九百二十四條 自己ノ後見人教師支配長職業長ヲ譏謗シ或ハ其榮譽ヲ害ス可キ書類若クハ肖像ヲ造爲或ハ播傳セシ者ハ第一千九百四十七條乃至第一千九百六十二條ノ刑ニ一等ヲ加ヘラルヘシ若シ又同上ノ罪ヲ其父母或ハ其他尊屬ノ親ニ對シテ犯爲セシ者ハ三等ヲ加ヘラル可シ

第二千二十九條 第二千二十五條乃至第二千二十八條ニ記載シタル重罪ヲ骨肉ノ親屬或ハ近キ縁屬ノ者或ハ其支配長保護人等ニ對シテ犯爲セシ者ハ其刑二等ヲ加ヘラルヘシ若シ又其非法ノ拘留ヲ受ヘシ者夫婦間父母舅姑ニ係ルトキハ其刑三等ヲ加ヘラル可シ

埃及刑法

第二百四條 豫メ人ニ害ヲ加ヘント謀リシ確證アリテ人ヲ謀殺セシ者ハ死刑ニ處セラル可シ

第二百五條 豫メ人ニ害ヲ加ヘント謀ルトハ其兇行ヲ爲ス前ニ豫メ特定セシ人又ハ其場所ニ居合ハセ或ハ出逢フ可キ人ノ生命ヲ害セント謀リシヲ云フ但シ其謀計ノ縱令偶然ニ生シタル時ト雖モ亦同一ナリトス  
第二百六條 遲速ヲ問ハス人ヲシテ死ニ至ラシム可キ毒藥ヲ用ヒ或ハ人ノ來ルヲ待チ害ヲ加ヘント爲ス時ハ豫メ人ニ害ヲ加ヘント謀リシモノト爲ス可シ

第二百七條 從來ノ行狀ニ因リ兇行ヲ以テ其職業ト爲ス者一箇ノ重罪ヲ

犯サンカ爲メ人ヲ痛苦セシメ又ハ殘忍ノ所爲ヲ行フタル時ハ其犯人ヲ死刑ニ處ス可シ

第二百八條 豫メ人ニ害ヲ加ヘント謀ルコトナク人ヲ故殺シタル者ハ十五年間徒刑ニ處セラル可シ

第二百九條 然レトモ前條ニ記スル故殺ノ罪ヲ犯ス前後或ハ之ト同時ニ他ノ重罪ヲ犯シタルトキ又ハ輕罪ノ設備ヲ爲シ或ハ輕罪犯ヲ容易ナラシメ或ハ輕罪ヲ行フ爲メ或ハ輕罪ノ犯人又ハ其同罪人ノ遁亡或ハ其罰ヲ免ルルヲ助クル爲メ前條ニ記スル故殺ノ罪ヲ犯シタルトキハ其犯人ヲ死刑ニ處ス可シ

第二百二十三條 又夜間家屋店舖房屋ニ攀援スル者ヲ防キ又ハ鎖鑰ヲ以テ閉チタル所ヲ破壞シ或ハ牆壁及ヒ人ノ住居スル家屋或ハ其入口ヲ破壞スル者ヲ防ク爲ニ人ヲ殺シ又ハ創傷毆撃シタル者ハ其刑ヲ受クルコトナカル可シ

若シ晝間前項ニ記セシ事ヲ行フタル時ハ人ヲ殺シ又ハ創傷毆撃セシ所

爲テ全ク無罪ト爲ス可カラス其刑ノ宥恕ヲ受ケシ者ヲ第二百二十六條ニ從ヒ處置ス可シ

第二百二十四條 婦ノ現ニ姦通ノ罪ヲ犯スヲ見テ其場ニ於テ婦及ヒ姦夫ヲ殺セシ者モ亦其刑ノ宥恕ヲ受ク可シ

第二百二十五條 官ノ兵士或ハ公ノ兵力ヲ預カル者其特別ノ規定ヲ遵守シテ職務ヲ行フニ方リ之カ襲撃ヲ防ク爲メ人ヲ殺シ又ハ創傷毆撃ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ノ宥恕ヲ受ク可カラス

第二百二十六條 人ヲ殺シ又ハ創傷毆撃ノ罪ヲ犯セシ者其刑ノ宥恕ヲ得タル時ハ輕罪ニ付テハ三月ヨリ少ナカラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ重罪ニ就テハ六月ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ但シ法律上ニハ輕罪ニ付キ其刑ヲ宥恕スルコトナシト雖トモ三月以上六月以下ヨリ更ニ輕キ刑ヲ定ムル時ハ此例ニアラス

重罪ニ付テハ右刑ノ宥恕ヲ得シ者ヲシテ其罪ノ輕重ニ准シ五年ヨリ少

印度刑法

カラス十年ヨリ少カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルコトヲ得ヘシ

第百條 自ラ其身體ヲ保護スルノ權ハ左ニ掲クル所ノ一罪アレハ襲撃者ヲ死ニ致シ又ハ其他ノ害ヲ蒙ラシムルコトアルモ罪ナシ

第一 彼ヲ殺ササレハ我死ヲ致スノ恐レヲ生スル襲撃

第二 彼レヲ殺ササレハ我ニ大害ヲ蒙ラサルノ恐ヲ生スル襲撃

第三 強姦ノ意ニ因ル襲撃

第四 略誘ノ意ニ因ル襲撃

第五 公權ニ依頼シテ身ヲ救フ能ハサルノ恐レヲ生スルニ至ルノ事情ヲ以テ不正ニ人ヲ監禁スルノ意ニ因ル襲撃

第百一條 犯罪前條ニ記スル所ノモノニアラサレハ身體ニ係ル私防ノ權ハ襲撃者ヲ殺スコトヲ得ス

第百三條 財物ニ係ル私防ノ權ハ左ニ掲クル所ノ罪ナレハ犯罪者ヲ死ニ致シ又ハ其他ノ害ヲ蒙ラサルコトアルモ罪ナシ

第一 強盜

第二 夜門戸ヲ破ル

第三 人ノ住居スル所又ハ財物ヲ藏ムル所ノ建物帳幕若クハ船ニ火ヲ放ツ

第四 盜損害若クハ人屋ニ侵入スル罪ノ私防ノ權ヲ行ハサレハ因テ死又ハ大害ヲ生スルヲ恐ルヘキノ事情アルモノ

第四百四條 犯罪前條ニ掲クル所ニ非サル盜損害又ハ侵入罪ナレハ私防ノ權ハ犯人ヲ死ニ致スコトヲ得ス

第四百六條 死ノ懼アル襲撃ニ對シ私防ノ權ヲ行フニ無辜ノ人ヲ傷害スルニ非サレハ能ハサルトキハ其權ハ無辜人ヲ傷害スルコトヲ得ヘシ

第三百三條 死ヲ生スル意ヲ以テ或ハ其以テ死ヲ生スルノ恐アルヲ知リ或ハ其以テ死ヲ生スルニ足ルノ傷ヲ蒙ラヌルノ意ヲ以テ或ハ之ヲ知テ一  
所爲ヲ行ヒ因テ人ヲ死ニ致スヲ謀殺トス

第三百一一條 人ヲ死ニ致スヲ謀リ又ハ死ニ致スノ恐アルヲ知テ事ヲ爲シ

却テ他人ヲ殺スト雖トモ仍ホ其人ヲ殺シタルト同シ

第三百二條 謀殺ヲ犯ス者ハ死刑若クハ終身流刑ニ處シ更ニ贖金ヲ科ス可シ

第三百三條 終身流刑ノ裁斷ヲ經タル者更ニ謀殺ヲ犯ストキハ死刑ニ處ス可シ

第三百四條 謀殺ニ至ラサル殺罪ヲ犯ス者ハ終身流若クハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス可シ其所爲死ヲ生スルノ恐アルヲ知ルト雖モ死ニ致スノ意又ハ死ニ至ルヘキ傷ヲ蒙ラヌルノ意ナクシテ罪ヲ犯ス者ハ十年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處ス又ハ入獄贖金ヲ併科ス  
(一千八百七十年決議第二十七條第十二條及第十三條ヲ見ヨ)

第三百五條 人ノ自殺ニ加功スル者ハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス可シ

第三百七條 謀殺ヲ行フテ遂ケサル者ハ十年ニ止ル各種ノ入獄及ヒ贖金ニ處ス可シ因テ傷スル者ハ終身流刑若クハ上文ノ刑ニ處ス可シ

第三百八條 謀殺ニ至ラサル殺罪ヲ行テ遂ケサル者ハ三年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ併科ス因テ傷ル者ハ七年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ贖金入獄ヲ併科ス

第三百九條 自殺ヲ行フテ遂ケサル者ハ一年ニ止ル無苦役入獄ニ處シ且贖金ヲ科スヘシ

米國刑法

第五千三百三十九條 寨壁武庫置船所其他合衆國特轄内ノ地又ハ大海其他合衆國海管内ノ海口河川港澳ニ於テ人ヲ謀殺スル者ハ死刑ニ處ス可シ

第五千三百七十條 謀殺ヲ犯ス者ヲ死刑ニ斷スル所ノ裁判所ハ解剖ノ爲メ其屍ヲ醫ニ與フルコトヲ裁斷宣告書ニ附陳スルヲ得ヘシ而シテ其裁判ヲ執行スル所ノ官吏ハ裁判所ヨリ指示スル所ノ醫ニ其屍ヲ與フ可シ  
第五千三百四十一條 第五千三百三十九條ニ記載シタル陸地又ハ水上ニ在テ惡意ナク非法人ヲ射彈毆打刺擊傷創シ因テ死ニ致ス者ハ圖毆殺ト

第五千三百四十二條 第五千三百三十九條ニ記載シタル陸地又ハ水上ニ在テ謀殺若クハ圖毆殺ヲ行テ成ラサル者ハ三年以下ノ入獄ニ處シ情ニ依テ苦役ヲ加ヘ且一千弗以下ノ贖金ヲ科ス

第五千三百四十三條 圖毆殺ハ三年以下ノ入獄ニ處シ情ニ依テ苦役ヲ加ヘ且一千弗以下ノ贖金ヲ科ス但シ法律ニ別段ノ罰ヲ定ムルトキハ此限ニ在ラス

土耳其刑法

第六十八條 兇器毒藥其他ノ手段ヲ用テ人ヲ死ニ致スコトヲ殺害ノ罪ト云フ

第六十九條 豫メ謀リタル殺害ノ罪トハ人ニ害ヲ加フル前ニ害ヲ加ヘント企テタルヲ云フ

第七十條 豫メ謀リテ人ヲ殺害スル者ノ罪狀判然タルニ於テハ死刑ニ處ス可シ

第七十三條 至重ナル犯罪ヲ行フニ當リ人ヲ痛苦セシメ又ハ殘忍ノ所業ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處スヘシ

第七十四條 何人ニ限ラス豫メ謀ラス人ヲ殺害シタル者ハ十五年ノ徒刑ニ處スヘシ但シ其前後同時ニ他ノ重罪ヲ犯シ又ハ輕罪ヲ行ハント謀リテ其殺害ノ罪ヲ犯シタルトキハ死刑ニ處スヘシ

第七十五條 故意ヲ以テ人ヲ殺スヲ助ケシ者ハ有期ノ徒刑ニ處ス可シ

第七十四條 己レノ意思ヲ行ハシムル爲メ強制ノ手段ヲ有スル長官ノ命ニ依リ人ヲ殺スノ罪ヲ犯シタル時ハ其長官ヲ以テ故殺ノ罪ヲ犯シタル者ト看做シ之レヲ刑ニ處ス可シ

強制ノ手段ヲ有スルトノ字義ハ己レノ命令ニ從フヲ拒ム者ヲ殺スノ權アルヲ云フ此場合ニ非スシテ同上ノ命ヲ行ヒシ者ハ其罪ヲ宥恕スルコトナク故殺ノ罪ヲ犯シタル者ト看做シ之レヲ罰スヘシ且強制ノ手段ヲ用ヒスシテ人ヲ殺スコトヲ命シタル長官ハ有期ノ徒刑ニ處ス可シ

第七十七條 夜間ニ家屋店舗房屋ノ入口ニ攀援シ又ハ鎖鑰ヲ以テ閉チタル場所牆壁人ノ住居スル家屋或ハ家屋ニ屬スル物ノ入口ヲ破壞セント爲スヲ防止シテ人ヲ殺シ又ハ創傷毆擊シタル者モ亦之レヲ刑ニ處ス可カラス

若シ晝間ニ此事ヲ爲ス時ハ其殺傷毆擊シタル者ノ罪ヲ全ク宥恕セスシテ第九十條ノ規則ニ據リ之レヲ處分ス可シ

第八十八條 本妻又ハ自家ノ婦女ノ中其一人ノ現ニ姦通ノ罪ヲ犯スニ當リ之ヲ殺シタル者及ヒ附從ハ其刑ヲ宥恕ス可シ

第八十九條 右ニ類スル所行ニ付故意ヲ以テ人ヲ殺シ又ハ創傷毆擊シタル者モ亦其罪ヲ宥恕ス可シ又公ケノ權力ヲ預ル者其職務ニ於テ止ムヲ得ス人ヲ殺シ又ハ創傷毆擊シタル時其職務ニ管スル規則ノ制限ヲ超ヘサルニ於テハ之レヲ犯罪ト看做スヘカラサルヲ以テ其公ケノ權力ヲ預ル者ニ對シ報酬ヲ謀リシ者ハ如何ナル場合ト雖モ其罪ヲ宥恕スルコトナカル可シ

第九十條 故意ヲ以テ人ヲ殺シ又ハ創傷毆擊シタル者ノ罪ヲ宥恕ス可

キノ置アルトキハ犯人ヲ三月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル禁錮ニ處シ且其罪ノ輕重ニ從ヒ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシム可シ

和蘭刑法

第二百八十七條 故意ヲ以テ人ノ生命ヲ絶ツ者ハ故殺犯ヲ以テ論シ十五年以下ノ禁錮ニ處ス

第二百八十八條 罰スヘキ所爲ヨリ繼續隨伴又ハ先行サレタル故殺罪ニシテ本罪ノ實行ヲ準備又ハ容易ナラシムルノ目的ヲ以テ犯シタルトキ又ハ現行犯ノ急襲ニ際シ自己又ハ從犯ノ爲メニ無罪若クハ不法ニ捕獲シタル物件ノ占有ヲ確ムルノ目的ヲ以テ故殺罪ヲ犯シタルトキハ終身禁錮又ハ二十年以下ノ有期禁錮ニ處ス

第二百八十九條 故意ヲ以テ且豫メ謀リ人ノ生命ヲ絶テタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ終身禁錮又ハ二十年以下ノ有期禁錮ニ處ス  
(附言)和蘭刑法ハ「ブレメデタシヨ」(限メ限)ヲ解釋セス又「アンボス」

マ「ラ」特種ノ重罪ト爲ササルコトニ注意ス可シ

第二百九十條 母其ノ分娩ノ發覺セシコトヲ恐レ其子ノ出生ノ時又ハ其後幾許ナラスシテ故意ヲ以テ其子ノ生命ヲ絶テタルトキハ殺子罪ヲ以テ論シ六年以下ノ禁錮ニ處ス

第二百九十一條 母其ノ接近ノ分娩ノ發覺センコトヲ恐レテ子ヲ殺サンコト決意シ其ノ子ノ出生ノトキ又ハ出生後幾時ヲ經スシテ故テニ其ノ子ノ生命ヲ絶テタルトキハ子ヲ謀殺スルノ罪ヲ以テ論シ九年以下ノ禁錮ニ處ス

第二百九十二條 第二百九十條及ヒ第二百九十一條ニ特示シタル犯罪ノ從犯ハ故殺又ハ謀殺罪ヲ犯シタル者ト看做ス

第二百九十三條 人ノ明白誠實ナル希望ヲ満足セシムルカ爲メ其ノ生命ヲ絶ツ者ハ十二年以下ノ禁錮ニ處ス

第二百九十四條 故意ヲ以テ他人ノ自殺ヲ勸誘シ又ハ補助シ或ハ自殺ノ方法ヲ與ヘテ其自殺ヲ遂ケシメタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス



那威刑法

第二百三十三條 違法ニ他人ヲ死去ニ致シタル者又ハ其協力者ニハ致死  
 的毆打ノ爲メ六年以上ノ禁錮ヲ科刑ス而メ熟慮シテ行爲ヲ爲シタル限  
 リハ謀殺トナシテ終身禁錮又ハ十年以上ノ禁錮ヲ科刑ス  
 累犯ノ場合又ハ罪責者他ノ罪ヲ容易ニシテ又ハ之ヲ隠蔽スル爲メ又ハ  
 他ノ罪ニ對スル刑ヲ免ルル爲メ犯シタル場合又ハ否ラスト雖モ特ニ加  
 重スヘキ事由ノ存在スル場合ニ於テハ何ノ場合ト雖モ終身禁錮ヲ裁定  
 スルコトヲ得

第二百三十四條 母其私生兒ニ對シ

- 一 出生中又ハ出生後即時ニ
  - 二 懐胎ヲ隠蔽スル意向ニ依リ出生後五日內ニ
- 第二百三十三條ノ罪ヲ犯シタルトキハ一年乃至六年ノ禁錮ヲ科刑ス  
 累犯ノ場合又ハ否ラスト雖モ特ニ加重ス可キ事由存在スル場合ニハ十  
 二年以下ノ禁錮ヲ科スルコトヲ得

兒子ニ對シ何等重大ノ身體傷害又ハ健康損害ヲ加ヘサリシ限リハ計畫  
 ハ之ヲ刑セサルコトヲ得

第二百三十五條 同意シタル者ニ對シ行爲ヲ爲シタルトキハ第二百二十  
 八條及ヒ第二百二十九條ノ刑ハ其適用ヲ有セス  
 人ノ同意ヲ得テ之ヲ殺死シ又ハ重大ノ身體傷害又ハ健康損害ヲ加ヘタ  
 ル者又ハ憐愍ノ餘快復ノ希望ナキ病者ノ生命ヲ褫奪シタル者又ハ其協  
 力者ニ對シテノ刑ハ爾餘ノ場合ニ付キ規定シタル最低刑及ヒ輕キ刑種  
 ニ之ヲ論スルコトヲ得

第二百三十六條 他人ノ自殺ニ協力シタル者又ハ他人自身重大ノ身體傷  
 害又ハ健康損害ヲ加フルコトニ協力シタル者ニハ同意者ニ對スル致死  
 的毆打又ハ甚大ノ身體損害ニ協力シタル者ト同一ニ科刑ス  
 死去又ハ重大ノ身體傷害又ハ健康損害ヲ現出セサリシトキハ刑ハ消失  
 ス

埃太利刑法草案

第二百十八條 何人タリトモ故意ニ人ヲ殺ス者ハ若シ其故意カ同一ナル  
烈シキ感動ニ依テ決定セラレ且實行セラレタルモノナルトキハ故殺ノ  
罪アルモノトス故殺ノ刑ハ三年以上十五年以下ノ懲役又ハ三年ヨリ少  
カラサル禁錮ナリトス

犯罪者自己ノ罪過ナク被殺者ヨリ自己又ハ其從屬者ニ加ヘラレタル殘  
行又ハ重大ノ榮譽毀損ニ依テ憤怒シ之ニ乘シ即時ニ其行爲ヲ爲スニ至  
リタルトキハ一年ヨリ少カラサル禁錮ヲ以テ處刑セララルモノトス

第二百十九條 何人タリトモ或罰ス可キ所爲ヲ企圖スルニ際シ其實行ノ  
障礙ヲ排除シ又ハ現行犯ノ逮捕ヲ免カルル爲メ故殺ヲ行フタル者ハ五  
年ヨリ少カラサル懲役ヲ以テ處刑セララルモノトス

第二百二十條 當該者ノ明言セル且正當ナル請求ニ依リ人ヲ殺シタル者  
ハ二年ヨリ少ナカラサル禁錮ヲ以テ處刑セララルモノトス

第二百二十一條 分娩中又ハ分娩後直チニ其ノ子ヲ殺シ又ハ其殺害ニ助  
カシ第五十二條及ヒ第五十三條又ハ分娩ノ際其生存ニ必要ナル補助ヲ

有意ニ怠リタル母ハ十五年以下ノ懲役又ハ一年ヨリ少ナカラサル禁錮  
ヲ以テ處刑セララルモノトス

加功者ハ謀殺及ヒ故殺ニ關スル規定ニ從テ處刑セララルモノトス

第二百二十二條 第二百十九條乃至第二百二十二條第一項ニ記載セル場  
合ニ該當セスシテ故意ニ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪アルモノトス

謀殺ノ刑ハ死トス

第二百二十三條 何人タリトモ他人ヲシテ人ヲ故意ニ殺サシメントシタ  
ル者ハ若シ其者カ罰ス可キ未遂犯罪ヲナササリシトキハ五年以下ノ懲  
役ヲ以テ處刑セララルモノトス但シ自ら其ノ實行ヲ妨ケタルトキハ此  
限リニ在ラス

己レ他人ヲ故殺センコトヲ申出タル者ニ對シテモ亦前刑ヲ言渡ス可キ  
モノトス

瑞西刑法典

第五十二條 犯意ニ依リ人ヲ殺害シタル者ニハ十年乃至十五年ノ懲役ヲ

科刑ス

行爲者殺人癖ニ依リ、慾心ニ依リ、慘虐ノ犯行ニ因リ又ハ毒物爆發物又ハ火ヲ用ヒ又ハ他人ノ犯行ヲ隱蔽シ又ハ容易ニスル爲メ人ヲ殺害シタルトキハ終身懲役ヲ科刑ス

行爲者激發セル情熱ニ於テ人ヲ殺害シタルトキハ其刑ハ十年以下ノ懲役トス

第五十三條 急迫且ツ眞誠ノ請求ヲ受ケテ憫諒ス可キ遠因ヨリ請求者ヲ殺害シタル者ニハ一月乃至五年ノ禁錮ヲ科刑ス

第五十四條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ自殺ヲ計畫セシメタル者又ハ自殺ノ幫助ヲ爲シタル者ニハ三月以上ノ禁錮又ハ五年以下ノ懲役ヲ科刑ス

第五十五條 犯意ニ依リ尙分娩中ニ屬スル赤兒ヲ殺害シタル母ニハ六年以下ノ懲役ヲ科刑ス

羅馬法

豫メ謀テ人ヲ殺ス者ハ死刑  
毒殺スル者モ亦同シ

殺害總論

(殺害ニ係ル舊法)殺害トハ人ノ生命ヲ失ハシムル所ノ所業タリ古ヘハ各謀殺人ハ親屬殺シト同罪ニシテ同法廷ニ於テ罰セリ尤モ奴隸ヲ殺害スルハ一般ニ對スルノ犯罪トナス其奴隸ノ屬スル主人ニ對スル害トシテ認メタリ又殺害ハ知リツツ惡意ヲ以テ行フモノナリ只知ルノミニシテ惡意ナク行フハ罰ヲ科セス此ノ如キ罰アラサル殺害ハ(第一)奸夫ノ殺害(第二)夜中ノ竊盜強盜及ヒ強姦セントスル者ノ殺害許サレタル正當ノ防衛トシテ及ヒ邪淫者ノ殺害(第三)公敵及ヒ刑罰上ノ殺害(第四)戚會ノ決定ニ於テ許サレタル家長ノ族人ヲ殺害スル如キナリ總テ此種類ノ殺害ハ惡意ヲ以テ行フニ非サルカ爲メ罰ス可キ殺害ニ非ス又不慮ノ殺害(毆打シテ誤ツテ死ニ致セル如シ)ノ如キハ殺害者身代ハリテ供ス蓋シ此犠牲ハ神怒ヲ慰メル爲メニ神ニ對シテ殺スモノニシテ殺害セラレタル親屬ノ復讐ニ對スルノ意

ハ至テ抄ナシ

九四二

(十二版ノ殺害ニ依ル法)十二版ニ於テモ不慮ノ殺害ハ尙ホ舊時ノ如ク身代ハリトシテ供セリ情實アリテ行ヒタル殺害ハ惡意トシテ之ヲ罰シ或ハ惡意ナシトシテ之ヲ罰セス此時未タ無罪ナル殺害ト謀殺トノ中間ニ在ル故殺ノ定メナシ總別殺害者ノ刑罰ハ斧ヲ以テ殺スニアリ又此他公訴ノ刑ニ「アクイリア法」ニ從フ民事訴訟アリ之レハ疎虞懈怠ニ起因スル殺害ニ賠償ヲ爲ス爲メニシテ彼ノ犠牲ノミニテハ物件上ノ利益トナラサルヲ以テナリ

殺害ニ係ル訴ハ國民法廳ニ行ヒ此法廳ハ自ラ裁定シ或ハ委員ヲ命セリ罰スヘキ毒殺ノ事ニ付テ話説アリ即チ或貴族死セリ而シテ何人モ其原因ヲ知ル者ナシ漸クニシテ下婢ノ衆貴女毒藥ヲ調製シ之ヲ盛リタルコトヲ報知セリ依テ議官ノ許可ヲ得テ此貴女ヲ審判シ遂ニ衆貴女ノ毒藥ヲ調製セルコトヲ發露シ其中ノ二十人ハ毒藥ヲ服サシメテ殺シ他ノ者ハ無罪トシテ放免セリトノコトアリ

(コルネリア刺殺法)此法ハ其名ヲ刺殺法ト稱スルモ當時ノ暴惡ナル時態ヲ救濟シテ人民ヲ保護センカ爲メニ設クルモノタルヲ以テ此法中ニハ殺害毒殺不正ナル法官ノ枉殺偽證及ヒ放火等ノコトヲ掲ケリ予輩ハ此法ノ主意ヲ三段ニ區別セリ即チ

第一 罰スヘキ所業

此法ノ第一款ハ殺害ト刺殺ノコトヲ云ヘリ抑モ刺殺トハ「ジカ」ト稱スルヒ首ヨリ其名ヲ附シタリ此法ニ於テハ追捕人ヲ殺害スルハ通常ナル殺害ノ罰ニ因ルヘキモノニアラストシ第五款ニハ毒殺ノコトヲ云ヒ他殺ニハ長官及法官ノ惡ミ或ハ賄賂ニ依テ無罪ナルモノヲ枉ケテ罪ニ陷レ又ハ私民ノ證人トナツテ偽證ヲ陳述シ不正ノ裁判ヲ爲サシムルコトヲ云ヘリ

「コルネリア」法ハ行爲ハ惡意ヲ以テ罰スヘキモノトセシ行爲ト惡意ヲ併立セリ故ニ惡意ノ明ラカナルトキハ已遂犯モ未遂犯モ從犯モ本犯モ同一ノ罰ヲ科セリ依テ惡意ノ明カナラサルトキハ此法ノ罰ヲ科スルヲ得ス惡意ニ對シテハ不慮ノ殺害アリ此不慮ノ殺害中ニハ此時尙ホ故殺ヲ含ミシモ

ノニシテ故殺ト不慮ノ殺害トノ區別ヲナセシハ全ク帝國時代ノ事ナリ  
「コルネリア」法ハ各殺害人及ヒ被殺者ノ種屬ニ依テ區別ヲ立テス然レトモ  
奴隸ノ殺害セララルトキハ其主人「カピタル」刑或ハ民事ノ訟「アクイリア」法  
ニ從ヒテ爲セリ

第二 刑

「コルネリア」法ノ罰ハ自由民ハ水火ヲ與ヘサルノ追放奴隸ハ死罪タリ

第三 聽訟ノ規定

「コルネリア」法ニ於テ主人ヲ殺セル奴隸ヲ告訴シ或ハ捕ヘテ官ニ送ルモノ  
ハ賞與金ヲ給セリ

(セザルノ改正)「コルネリア」法ニ於テ追捕人ヲ殺スハ罰ナキノミナラス賞ス  
ヘキモノトセリ然ルヲ「セザル」ハ殺害人ト認ムヘキモノトナシ又「コルネリ  
ア」法ノ刑ニハ貨物沒收ヲ附加セリ(少ナクモ資財半額ノ沒收)

(帝國時代ニ於テ)「コルネリア」法ノ改正(帝國時代ニ於テ)「コルネリア」法ノ  
大體ハ變セスト雖モ其制度ノ異ナルニ依テ多少ノ更改ヲ爲セリ

第一 禁セラレタル所爲及ヒ犯人ノ行爲

「コルネリア」法ハ刺殺ヲ以テ主トセルモ帝國時代ニハ一般ニ殺害ト云フヲ  
以テ網羅セリ此時代ノ最要用ナル改正ノ殺害ト不慮ノ殺害トノ間ニ故殺  
ノ區別ヲ設ケシコトナク「コルネリア」法ニ於テハ總テノ殺害ハ謀殺ナルカ  
不慮ノ殺害ナルカノ區別ニ止マリ謀殺ハ罰ヲ科シ不慮ノ殺害ハ無罪トセ  
リ依テ法官ハ實況ニ從ヒ此二種ノ孰レニカ據ラサルヲ得ス然レトモ實際  
ニ於テ殺害ノ所犯全ク惡意謀殺ナラザルモ亦全ク無罪トモ爲シ難キヲ覺  
ヘ(假令憤怒或ハ爭鬪ニヨリ始メヨリ殺意アルニアラスシテ毆殺セルモノ  
ノ如シ)遂ニ所犯ノ殺意ナキカ又ハ情實ニヨリ行フタルモノヲ故殺トナシ  
特別ノ區別ヲナスニ至レリ蓋シ此區別ノ定マリ法律ヲ以テ認可セルハ、ハ  
ドリアン「帝」ノ時ニシテ犯人ハ兇器ヲ有セス依テ謀殺トナスコトヲ得ス又  
不慮ノ殺害トシテ無罪トモナスヲ得ス謀殺ヨリ輕減ノ罰ヲ科スヘキモノ  
故殺ナリ(西班牙ノ或州代ノ五ヶ年間ノ輕追放ニ處斷セルヲ認可セリ)或書  
ニハ此罰ヲ以テ故殺ノ正當ナル罰トセリ然レトモ是レ決シテ法律ニ定メ

タルニ非ス只一例ニ過キサルモ、ニシテ故殺ニ對スル罰ハ裁判官ニ於テ  
 狀情ニ從ヒ加減シ得ルナリ「バウル」其他ハ故殺ハ謀殺ヨリ輕ク罰スヘシト  
 ノ原則ヲ主唱シ而シテ憤怒爭鬪ニ於テ毆殺スル者ハ謀殺ニテモ不慮ノ殺  
 害ニテモ非ス情實ニ出ルモノタルヲ以テ故殺タリ輕追放及ヒ資財半額ノ  
 沒收貴族重キ鑛業使役(常人)ヲ以テ罰スヘキモノトセリ又姦通ノ婦ヲ本夫  
 ノ殺害スルヲ禁シタルヲ之ニ違ツテ殺ス者ハ故殺トナシ貴族ハ一時ノ輕  
 追放常人ハ地方ヲ限ル終身追放トセリ  
 藥品ノ爲メニ他人ノ死ヲ致セルハ謀殺トナサス故殺ト認メ貴族ハ島地へ  
 輕追放ヲ常人ハ死罪タリ醫師ノ他人ノ死ヲ致セルモ右ニ屬スヘシト雖モ  
 敢テ惡意アルニ非ス又輕卒ナル取扱ヒヲ爲シタルニ非サルモノハ右ノ罰  
 ヲ科セス  
 不慮ノ殺害ノ罰ヲ科セサルカ爲メニ「アクイリヤ」法ニ從フ處ノ民事要償ノ  
 訴モ共ニ消滅スルニ非ス右へハ此要償ノコトハ奴隸ノ殺害ニ限リシモ帝  
 國時代ニハ反ツテ自由民ヲ殺スニモ用エルニ至レリ

第二 刑ノ改正

帝國トナリシ初年ニ於テ犯人ノ貴族ナルト常人ナルニ從ツテ罰ノ區別ヲ  
 ナセリ又「ヨルネリア」法ノ水火ヲ與ヘサルノ追放ヲ貨財沒收ヲ附スル重追  
 放ニ更迭セリ犯人ノ種屬ニ因テ罰ノ區別アルコト左ノ如シ

- (イ) 最高貴族ハ島地へノ重追放
- (ロ) 下等貴族ハ斬罪
- (ハ) 常人ハ猛獸ニ投與シ或ハ磔罪主人ノ生命ヲ危クスル奴隸ハ火刑又  
 一時常人ニモ此火刑ヲ用ヒシコトアリ然レトモ後ニハ一般ニ斬罪ヲ  
 用ヘタリ

第三 判定法ノ改正

或主人奴隸ノ爲メニ殺サレ其奴隸ヲ知ル可ラサルトキハ其主人ニ屬スル  
 衆奴隸ヲ拷問シ尙ホ本犯ヲ知り得サルトキハ主人ヲ救援セサルトノ罰ヲ  
 以テ衆奴隸ヲ殺罪ニ處セリ  
 豫メ人ヲ殺スノ意アルニ非ス不意ノ憤怒或ハ爭鬪ニ因ルノ殺害等ヲクル

「ト」稱シ法官曾其ノ罰ヲ科ス但シ其例ハ五ケ年ノ流刑ニ處シタルモノナリ

殺害不論罪ハ左ノ如シ

姦夫姦婦ノ殺害正當ナル防衛トシテ夜中ノ竊盜強盜及ヒ強姦セントスル者ノ殺害及ヒ淫蕩者ノ殺害親族會ノ決定ニ於テ許シタル家長ノ族人ヲ殺害スル如キモノナリ

自殺

自殺ハ羅馬ニ於テ決シテ犯罪ト認メサルモ基督道德ノ主旨ニ從ヒ德義ニ對スル犯罪ノ終リトシテ則チ此處ニ掲クルナリ

「ハトリアン」帝ノトキマテハ自殺ハ犯罪タルモ其遺物竝ニ葬式ニ於テ其罰ナカリシカ「ハドリクス」及ヒ「アントニウス」ノトキ自殺ニ付キ多クノ制限ヲ設ケリ此制限ハ後代ノ帝マテ用ヒタリ尤モ自殺ヲ禁シ或ハ其犯罪者ヲ告訴セシムルニ非ス若シ犯罪ヲ以テ訴ヘラレ財産沒收ヲ科セラルヘキ所ノ人自殺スルトキハ此所業ニ於テ裁判ヲ免レントスル

ノ意思明カニ認ムヘキヲ以テ直チニ財産ヲ沒收シ親屬ハ其死ヲ弔シ本式ノ葬ムリヲ爲スヲ得ス自殺者ノ惡意アラヌ之ヲ以テ證據トナシ得サルハ財産ヲ沒收セス尤モ第一ノ場合ニ於テモ相續人ハ自殺人ノ無罪ナルコトヲ證明シ其財産ヲ官沒セシメサルヲ得

親屬殺ノ舊法

「バルリチジウム」ハ廣キ意味ニ於テハ親屬殺シ狹キ意味ニ於テハ父ヲ殺スコトヲ云フ「ロムールス」及ヒ「ヌマール」ノトキニハ一般ノ殺害ヲ之レニ引當テタリ因テ一時ハ殺害一般ノ名トナレリ

罰ハ革囊ニ入レ海中ニ投スルコトニシテ此罰ハ後父ヲ殺ス者ニ用ヒタリ

「コルネリア」及ヒ「ボンベリア」法

「ボンベリア」法ニ於テ親屬殺シトハ近親姻族養子先ノ姻族等ヲ殺ス者ヲ云ヒ古ヘノ革囊ニ入レ海中ニ投スルノ罰ハ兩親竝ニ祖父母ヲ殺セルモノニ用ヒ他ノ親屬ヲ殺スモノニハ「コルネリア」刺殺法ノ罰則チ水火ヲ與

ハナル追放ヲ用ヒシモ之ハ後チニ改正シテ重クナセリ  
革囊中ニハ尤モ賤シム所ノ動物(犬、鷄、猿、蛇)ヲモ併セ入レテ海中ニ投スル  
ナリ尤モ或時ハ犬ヲ除キ雞、猿、蛇ノミトシ又ハ蛇ノミヲ入レタルコトア  
リ

「ボンベイア」法ハ親屬殺シノ未遂犯ハ已遂犯ト均シク罰シ又幫助スルモ  
ノ及ヒ事々預カリ知リタル者ハ同罪タリ又「ボンベイア」法ハ親屬殺シノ  
訴訟期限ヲ廢シ何時ニテモ自由ニ告訴スルヲ得タリ

帝國時代ノ親屬殺

時々多少ノ改正ヲ爲セシコトアルモ先ツ「ボンベイア」法ハ帝國時代中通  
用シタリト云ヘリ「セザル」ハ已ニ親屬殺シノ罰ヲ以テ追放セラレタルモ  
ノハ其資財ヲ沒收スヘントセリ「實」ノ親屬殺シ(祖、父、母、子、孫)ハ固ヨリ從來  
ノ重刑ニ處セリト「グラウジウス」帝ハ親屬殺シヲ重ク罰シ「斐利」ハ他ノ親  
屬殺シニモ用ヒタリ「ハドリアン」帝ハ父ヲ殺ス者ヲ重刑ニ處スルトキ海  
邊ニ遠キ所ハ動物ニ投與スヘントセリ「大法官」ノトキマテハ父ヲ殺ス者

ヲ正シク重刑ヲ以テ罰セス普通火刑或ハ猛獸ニ投與シ他ノ親屬殺シハ  
單簡ニ死罪ニ處セリ「コンスタンチウス」ハ從來ノ重刑ヲ兩親ヲ殺ス者  
及ヒ兄弟姉妹ヲ殺ス者ニ用ヒタリ「ユスチニアヌ」ハ他ノ親屬ヲ殺ス  
者ハ普通ノ殺害者ノ如ク死刑ニ處セリ

唐律

諸謀殺人者徒三年已傷者絞已殺者斬從而加功者絞不加功者流三千里違意  
者雖不行仍爲首(犯人殺者亦同)

即從者不行減行者一等(余條不準此)

諸造畜蠱毒及教令者絞造畜者同居家口雖不知情若里正知而不糾者皆流三  
千里

造畜者雖會赦竝同居家口及教令人亦流三千里(八十以上歲以下及篤疾無家口同流者放免)即

以蠱毒毒同居者被毒之人父母妻妾子孫不知造蠱情者不坐

諸以毒藥藥人及賣者絞即賣買而未用者流二千里

脯肉有毒曾經病人有餘者速焚之違者杖九十若故與之食竝出賣令人病者



徒一年以故致死者絞即人自食致死者從過失殺人法

諸殺一家非死罪三人及支解人者皆斬妻子流二千里

諸夜無故入人家者笞四十主人登時殺者勿論若知非侵犯而殺傷者減鬪殺傷

二等

其已就拘執而殺傷者各以鬪殺傷論至死者加役流

諸鬪兩相毆傷者各隨輕重兩論如律後下手理直者減二等(至死者不減)

諸祖父母父母為人所毆擊子孫即毆擊之非折傷者勿論折傷者減凡鬪折傷三

等至死者依常律(謂子孫元非祖從者)

諸奴婢有罪其主不請官司而殺者杖一百無罪而殺者徒一年(期親及外祖父母殺者與主同)

諸捕罪人而罪人持杖拒捍其捕者格殺之逃各逐而若殺迫窘自殺者皆勿論

即空手拒捍而殺者徒二年已就拘執及不拒捍而殺或折傷之各以鬪殺傷論

用刃者從故殺傷法

罪人本犯應死而殺者加役流即拒毆捕者加本罪一等傷者加鬪傷二等殺者

斬

斬

諸謀殺期親尊長外祖父母夫夫之祖父母父母者皆斬

諸祖父母父母及夫為人所粹私和者流二千里期親徒二年半大功以下遞減一

等受財重者各準盜論雖不私和知殺期以上親經三十日不告者各減二等

諸詈祖父母父母者絞毆者斬過失殺者流三千里傷者徒三年若子孫違反教令

而祖父母父母毆殺者徒一年半以刃殺者徒二年故殺者各加一等即嫡繼慈

養殺者又加一等過失殺者各勿論

諸妻妾罵夫之祖父母父母者徒三年(須男姑毆者絞傷者皆斬過失殺者徒三年

傷者徒二年半

諸告祖父母父母者絞(謂非緣坐之罪謀殺以上而故告者下條準此)

諸子孫違犯教會及供養有關者徒二年(謂可從而違堪供而闕也)

諸父母死應解官詐言余喪不解者從二年半若詐稱祖父母父母及夫死以求假

及有所避者徒三年伯叔父姑兄姊徒一年余親減一等若先死詐稱姑死及患

者各減三等

諸祖父母父母在而子孫別籍異財者徒三年(別籍異財不相須下條準此)

諸居父母喪生子及兄弟別籍異財者徒一年

諸居父母及夫喪而嫁娶者徒三年妾減三等各離之知而共為婚姻者各減五等

不知者不坐

諸祖父母父母被囚禁而嫁娶者死罪徒一年半流罪減一等徒罪杖一百(父母食論者勿)

諸居父母喪與應嫁娶人主嫁杖一百

明律

凡謀殺人造意者斬而從加功者絞不加功者杖一百流三千里殺訖乃至

若傷而不死造意者絞從而加功者杖一百徒三千里不加功者杖一百從三年

若謀而已行未曾傷人者杖一百從三年為從者各杖一百但同謀者皆坐

其造意者身雖不行仍為首論從者不行減行者一等

若因而得財者同強盜不分首從論皆斬

凡造畜蠱毒堪以殺人及教令者斬造畜者財產入官妻子及同居家口雖不知情

並流二千里安置若置若以蠱毒同居人其被毒之人父母妻妻子孫不知蠱造情者不在流遠之限若里長知而不舉者各杖一百不知者不坐告獲者官給賞銀二十兩若造魘魅符書呪詛欲以殺人者各以謀殺論因而致死者各依本殺法欲令人疾苦者減二等其子孫於祖父母父母奴婢雇工人族家長者各不減若用毒藥殺人者斬買而未用者杖一百從三年知狀賣藥者與同罪不知者不坐

凡殺一家非死罪三人及支解人者凌遲處死財產斷付死者之家妻子流二千里為從者斬

凡採生折割人者凌遲處死財產斷付死者之家妻子及同居家口雖不知情並流二千里安置為從者斬若已行而未會傷人者亦斬妻子流二千里為從者杖一百流三千里長知而不舉者杖一百不知者不坐告獲者官給賞銀二十兩

凡夜無故入人家內者杖八十主家登時殺死者勿論其已就拘執而擅殺傷者減鬪殺傷罪二等至死者杖一百徒三年

凡妻妾與人姦通而於姦所親獲姦夫姦婦登時殺死者勿論若止殺死姦夫者

姦婦依律所罪從夫嫁賣

凡妻妾因毆罵夫之祖父母父母而夫擅殺死者杖一百

若夫毆罵妻妾因而自盡身死者勿論

若因毆互相毆傷者各驗其傷之輕重定罪後下手理述者減二等至死及毆兄  
姉伯叔者不減

凡祖父母父母為人所毆子孫即時救護而還毆非折傷勿論至折傷以上減凡鬪  
三等至死者依常律

若祖父母父母為人所殺而子孫擅殺行兇人者杖六十其即時殺死者勿論

若奴婢有罪其家長及家長之期親若外祖父母不告官司而毆殺者杖一百無  
罪而殺者杖六十徒一年當房人口悉放從良

若家長及家長之期親若外祖父母毆雇工人非折傷勿論至折傷以上減凡人  
三等因而致死者杖一百徒三年故殺者絞

若違犯教令而依法決罰邂逅致死及過失殺者各勿論

若罪人持仗拒捕其捕者格殺之及囚逃走捕者遂而殺之若囚宥若已就拘執

及不拒捕而殺或打傷者各以鬪殺傷論罪人本犯應死而擅殺者杖一百

凡謀殺祖父母父母及期親尊長外祖父母夫夫之祖父母父母已行者皆斬已殺  
者皆凌遲處死謀殺總麻以上尊長已行者杖一百流二千里已傷者絞已殺者  
皆斷

其尊長謀殺卑幼已行者各依故殺罪減二等已傷者減一等已殺者依故殺法  
(依故殺者謂各從鬪毆者  
內尊長故殺卑幼律論罪)

若奴婢及雇工人謀殺家長之期親外祖父母若總麻以上親者罪與子孫同

凡祖父母父母及夫若家長為人所殺而子孫妻妾奴婢雇工人私和者杖一百徒  
三年期親尊長被殺而卑幼私和者杖八十徒二年大功以下各遞減一等其卑  
幼被殺而尊長私和者各減一等若妻妾子孫及子孫之婦奴婢雇工人被殺而  
祖父母父母夫家長私和者杖八十受財者計贓准盜論徒重科斷  
凡子孫毆祖父母父母及妻妾毆夫之祖父母父母者皆斬殺者皆凌遲處死過失  
殺者杖一百流三千里傷者杖一百徒三年

其子孫毆罵祖父母父母及妻妾毆罵夫之祖父母父母而毆殺之若違犯教令

而依法決罰邂逅致死及過失殺者各勿論

凡罵祖父母父母及妻妾罵夫之祖父母父母者並絞(須親告)

凡子孫告祖父母父母妻妾告夫及夫之祖父母父母者杖一百徒三年但誣告者絞

凡子孫違犯祖父母父母教令及奉養有缺者杖一百(誣教令可從而故違家道堪

乃親告

凡祖父母父母在而子孫別立戶籍分異財產者杖一百(須祖父母父母

而兄弟別立戶籍分異財產者杖八十(須親告乃坐)

凡祖父母父母犯死罪被囚業子孫嫁聚者杖八十為妾者減二等其奉祖父母父

母命而嫁女娶妻者不坐亦不得筵宴

凡聞父母及夫之喪匿不舉哀者杖六十徒一年若喪制未終釋服從吉妄哀作樂

及參預筵宴者杖八十若聞期親尊長喪匿不舉哀者亦杖八十若喪制未終釋

服從吉者杖六十

凡祖父母父母年八十以上及篤疾別無以次侍丁而棄親之任及妄稱祖父母及

疾求踊入侍者並杖八十

若祖父母父母及夫犯死罪被囚業而筵宴作樂者罪亦如之

第三

釋義

本章ノ規定ハ舊刑法第三編第一章第一節及ヒ第五節ヲ合シ之ニ

修正ヲ加ヘタルモノニシテ其修正ノ要點ヲ列舉スレハ左ノ如シ

第一 舊刑法第二百九十三條ハ毒殺罪ヲ以テ常ニ謀殺ト爲スト雖モ是殺  
人ノ情狀ニ關スル場合ナルヲ以テ本法ニ於テハ之ヲ裁判所ノ認定ニ一  
任シ削除セリ

第二 舊刑法第二百九十八條ニ誤殺ノ規定アリ學說上種々ノ議論ヲ生シ  
之カ爲メ却テ疑義ノ基因ト爲ルヲ以テ本法ニ於テハ法理解釋ニ於テ當  
然ノ事理ナリト認メ削除セリ

第三 舊刑法第二百九十七條モ亦法文ノ規定ヲ待タスシテ明カナルモノ  
ニシテ特ニ之ヲ存スルノ價值ナキモノトシテ削除セリ

第四 第二百九十五條ハ判事ノ判斷ニ一任スヘキ性質ノモノナルヲ以テ  
削除セリ

第五 第二百九十六條モ亦第二百九十五條ト同一ノ理由ヲ以テ削除セリ

以下各本條ニ就キ説明スヘシ  
 第九十九條ハ舊刑法第二百九十二條及ヒ第二百九十四條ヲ合セ廣ク謀殺及ヒ故殺ニ共通セシメタル規定ニシテ其結果刑ノ範圍ヲ擴張セリ蓋シ殺人行為ニ付キ謀殺及ヒ故殺ノ區別ヲ爲ス法制ノ可否ニ付テハ朝野法曹ノ間ニ於テ已ニ充分研究セラレタル問題ニシテ刑法ヲ研究セラルル讀者ニ於テハ兩說ノ理論ニ付テハ已ニ熟知セラレタルヲ信スヘキニ依リ茲ニハ之ヲ掲ケサルモ實際ノ事例ニ於テハ理論トシテモ殺人行爲ニ就キ豫謀ノ有無ヲ判然區別スルハ至難ノ業ナルノミナラス之アルカ爲メ實益ナキ上訴提起ノ弊ヲ生シ煩雜ナル徒勞ヲ裁判官ニ負ハシムルコト少カラス一面實際ノ事實ニ鑑ムレハ謀殺必スシモ重シト云フヘカラス故殺必スシモ輕シト斷定スヘカラス本法ヲ通貫スル大主義ハ屢々説明スル如ク刑ノ範圍ヲ擴張シ罪刑宜キニ適セシムルニ在リ然ラハ本法トシテハ弊害アリテ實益ナキ謀故殺ノ區別ヲ全廢シ廣ク殺人行爲ニ對シ範圍廣闊ナル刑ヲ科シ其情狀ニ應シ裁判官ヲシテ相當ナル刑ヲ科セシメ從來綿密ナル區別ヲ爲セシ諸種ノ行爲ハ凡テ殺人

ノ行爲トシテ自由裁量ニ一任セシハ刑法改正ノ主義ヲ一貫シタル法制ナリト謂ハサルヘカラス

第二百條ハ舊刑法第三百六十二條第一項ヲ補修シタルモノニシテ更ニ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタル場合ニ之ヲ適用スルハ我邦ノ家族制度ニ於テ特殊ノ必要存スレハナリ

第二百一條ハ新ニ設ケタル規定ニシテ殺人ノ如キ情狀ノ重キ者ニ對シテハ管ニ其未遂ヲ罰スルノミナラス尙ホ其準備行為ヲモ處罰シ以テ危害ヲ未然ニ防止スルノ必要アリ是未タ着手ニ至ラスト雖モ準備ヲ爲シタル者ヲ處罰スル所以ナリトス然レトモ往々ニシテ情狀輕キモノナキニアラサルヲ以テ刑ハ頗ル之ヲ低下セリ

第二百二條ハ舊刑法第三百二十條及ヒ第三百二十一條ヲ合シ少シク之ヲ補正シタルモノナリ舊刑法ハ自己ノ利益ノ爲メニスルト否トヲ區別スト雖モ如此區別ハ犯罪ノ情狀ニ關スルモノニシテ裁判官ノ科刑ノ參考ト爲スハ格別法文ニ認ムルノ必要ナキヲ以テ此區別ヲ廢シタリ又舊刑法ハ自殺ノ場合

ニ於テ人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メ手ヲ下シタル者ヲ處罰スルノ規定アルモ被殺者ノ承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル場合ヲ規定セサルカ爲メ往々ニシテ議論ヲ生スルコトアリ故ニ本法ニ於テハ明文ヲ掲ケテ疑義ヲ避ケタリ

第二百三條ハ本章ノ罪ノ未遂ヲ罰スルノ規定ニシテ別ニ説明ヲ爲スノ要ヲ見ス

#### 第四 疑問及説明

第一 脅迫シテ自殺セシメタル者ハ何條ノ適用ヲ受クルヤ

一概ニ論斷スルコトヲ得サレトモ脅迫ノ模様カ若シ教唆ト見ラルヘキ場合ニ於テハ第二百二條ニ該當ス之ニ反シテ假令ヘハ脅迫ヲ受ケタル者カ極メテ小膽ナル者ニシテ自殺ヲ爲シタル場合ノ如キハ固ヨリ教唆ト云フコトヲ得サルヲ以テ單純ノ脅迫罪ヲ以テ間擬セララルヘシ

第二 果シテ然ラハ第二百二條ニ脅迫ノ文字ヲ加フルハ如何

脅迫又ハ教唆ニ付テハ種々ノ解釋ヲ生スヘキモ脅迫手段ニハ種々アルヘ

シ利ヲ以テ教唆スルコトモアラシキ自殺セサレハ名譽ヲ毀損スル行爲ヲ爲スヘシト脅迫シテ教唆スルコトモアラシキ兎モ角人ヲシテ自殺セサルヘカラサル様誘導スレハ即チ教唆ニ該當スヘシ何レニスルモ脅迫ヲ加フルノ必要アラサルヘシ

#### 第二十七章 傷害ノ罪

第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ

五百圓以下ノ罰金若クハ料料ニ處ス

第二百五條 身體傷害ニ依リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百六條 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタ

ル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

第二百八條 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス  
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第一 沿革

第一案 第二百八十八條 人ヲ毆打シテ其身體若クハ精神ニ疾病創傷ヲ生

セシメ因テ死ニ致シタル者ハ二等有期懲役ニ處ス

第二百八十九條 人ヲ毆打シテ五官ノ一ヲ失ハシメ又ハ四肢ノ一

若クハ陰陽ノ使用ヲ失ハシメ其他重大ナル不治ノ疾病創傷ヲ生セシメタル者ハ三等有期懲役ニ處ス

第二百九十條 人ヲ毆打シテ前條ニ記載シタルヨリ輕キ疾病創傷

ヲ生セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ有役禁錮ニ處ス

其疾病ノ時間二十日ニ至ラサルトキハ十一日以上二月以下ノ有役禁錮ニ處ス但被害者ノ告訴アルニ非サレハ訴追スルコトヲ得ス

第二百九十一條 豫メ謀テ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ逃走ヲ便ニシ若クハ刑ヲ免カルル爲メ其犯罪ノ當時前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲ニスルヲ分タス亦各一等ヲ加フ

第二百九十二條 二人以上互ニ毆打シテ人ヲ疾病創傷ニ致シタルトキハ其疾病創傷ノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス可シ若シ其輕重ヲ知ルコト能ハサルトキハ重病重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス共犯人謀メ通謀シテ毆打シタルトキハ各自ニ重病重傷ノ刑ヲ科ス

第二百九十三條 詐稱誘導シテ人ヲ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

第二案

第二百四十條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮若クハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

婦女ノ頭髮ヲ切斷又ハ毀損シタル者亦同シ

第二百四十一條 身體傷害ニ因リ左ノ結果ヲ生セシメタルトキハ十年以上ノ懲役ニ處ス

- 一 一目又ハ兩目ノ視能ノ喪失
- 二 一耳又ハ兩耳ノ聽能ノ喪失

三 語能ノ喪失

四 一肢以上ノ使用ノ不能

五 陰陽ノ不能

六 重大ニシテ不治ナル精神身體ノ疾病又ハ外觀ノ不具

七 流産

第二百四十二條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第二百四十三條 前三條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ら人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十四條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ其傷害ヲ生セシメタル者又ハ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

第二百四十五條 暴行ヲ加フト雖トモ人ヲ傷害スルニ至ラサル者



ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三案

第二百四十條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

婦女ノ頭髮ヲ切斷又ハ毀損シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百四十一條 身體傷害ニ因リ左ノ結果ヲ生セシメタル者ハ二年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

- 一 一目又ハ兩目ノ視能ノ喪失
- 二 一耳又ハ兩耳ノ聽能ノ喪失
- 三 語能ノ喪失
- 四 一肢以上ノ使用ノ不能
- 五 陰陽ノ不能
- 六 重大ニシテ不治ナル精神身體ノ疾病又ハ外觀ノ不具

七 流産

第二百四十二條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第二百四十三條 前三條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百四十四條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

第二百四十五條 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

第四百案 第二百三十九條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ五年以上ノ懲役又ハ

百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百四十一條乃至第二百四十四條 第三案ニ同シ

第二 參照法律

佛蘭西刑法

第三百九條(千八百六十三年五月十三日如左改ム) 故意ヲ以テ人ヲ創傷シ又ハ毆撃シ又ハ人ニ對シテ其他ノ暴行ヲ加ヘタル時其暴行ヲ受ケシ者ヲシテ之レカ爲メ二十日以上ノ時間病ニ羅リ或ハ職業ヲ營ムコト能ハルニ至ラシメタルニ於テハ其犯人ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フラン」クヨリ少カラス二千「フラン」クヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ  
又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ行フ禁ヲ受ケシムルコトヲ得ヘシ  
前ニ記シタル暴行ヲ受ケシ者ヲシア不具ニ至ラシメ療治ノ爲メ切斷ヲ

受ケシメ其他四支ヲ使用スルコト能ハサラシメ兩眼ヲ失ハシメ一眼ヲ失ハシメ或ハ他ノ痲疾ニ至ラシムル時ハ其犯人徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ

若シ殺スノ意ナク故意ヲ以テ毆傷シ其毆傷ヲ受ケシ者ノ死ニ至リシ時ハ其犯人有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第三百十條(千八百六十三年五月十三日如左改) 若シ豫メ人ニ害ヲ加ヘン

ト謀リ又ハ人ノ來ルヲ待テ人ヲ創傷或ハ毆撃シ又ハ其他ノ暴行ヲ加ヘタルニ因リ其創傷毆撃又ハ暴行ヲ受ケシ者ノ死ニ至リシ時ハ其犯人無期ノ徒刑ニ處セラル可シ若シ其暴行ヲ受ケシ者ヲシテ不具ニ至ラシメ療治ノ爲メ切斷ヲ受ケシメ其他四支ヲ使用スルコト能ハサラシメ兩眼ヲ失ハシメ一眼ヲ失ハシメ或ハ他ノ痲疾ニ至ラシムル時ハ其犯人有期ノ徒刑ニ處セラル可シ又第三百九條ノ前項ニ記シタル場合ニ於テハ其犯人徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ

第三百十一條(千八百六十三年五月十三日如左改) 人ヲ創傷毆撃シ又ハ

其他ノ暴行ヲ人ニ加フルト雖モ其暴行ヲ受ケシ者第三百九條ニ記シタル療治ノ病ニ罹ル事ナク又ハ職業ヲ營ム能ハサルニ至ルコトナキ時ハ其犯人ハ六日ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ又ハ其刑中ノ一箇ノミニ處セラル可シ

若シ豫メ人ニ害ヲ加ヘント謀リ又ハ人ノ來ルヲ待テ前ニ記シタル罪ヲ犯セシ時ハ其犯人二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第三百十六條 罽丸ヲ切リタル重罪ヲ犯セシ者ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

若シ罽丸ヲ切リシ時ヨリ四十日內ニ其者ハ死スル時ハ其犯人死刑ニ處セラル可シ

第三百十七條 四項以下

何レノ方法ヲ論セス人ヲ殺スノ質ナク人ノ健康ヲ害ス可キ質アル物品ヲ故意ヲ以テ人ニ用ヒ其人ヲシテ病ニ罹ラシメ又ハ其職業ヲ營ム能ハサルニ至ラシメシ者ハ一月ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ又其犯人ハ二年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監禁ヲ受ケシムルコトヲ得可シ

若シ其害ヲ受ケシ者二十日以上ノ時間病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ム能ハサルニ至リシ時ハ其犯人徒刑場內ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ  
若シ其犯人第三百十二條ニ記シタル父母及ヒ其他ノ尊族ノ親ニ對シ此條ノ第四項及ヒ第五項ニ記シタル輕重罪ヲ犯シタル時ハ第四項ノ犯人ハ徒刑場內ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ第五項ノ犯人ハ有期ノ徒刑ニ處セラルヘシ

第三百二十一條 甲者ヨリ乙者ニ對シ至重ノ毆撃又ハ暴行ヲ爲スニ因リ乙者甲者ヲ殺シ又ハ創傷或ハ毆撃シタル時ハ乙者ノ罪ヲ宥恕スヘキモ

ノトス

第三百二十二條 晝間ニ牆塼又ハ家屋ノ門戸又ハ人ノ住スル房室ノ入口  
或ハ家屋房室ニ屬スル物ノ入口ニ攀援シ又ハ之ヲ破壞セント爲スヲ防  
止シテ前條ニ犯セシ輕重罪ヲ記シタル者モ亦其罪ヲ宥恕ス可キ者トス  
若シ夜間ニ此事ヲ爲ス時ハ第三百二十九條ノ規則ニ循フ可シ

第三百二十三條 尊屬ノ親ヲ殺ス罪ハ決シテ宥恕ス可カラズ

第三百二十四條 夫ノ其婦ヲ故殺シ又ハ婦ノ其夫ヲ故殺スル罪ハ其罪ヲ  
犯セシ夫又ハ婦ノ當時其生命ノ危迫ニ及ヒ止ムヲ得スシテ之ヲ犯シタ  
ル時ノ外宥恕ス可カラズ

然レトモ第三百三十六條ニ記シタル姦通ノ場合ニ於テ夫其家ニテ其婦  
及ヒ姦夫ノ現ニ其罪犯ヲ行フニ當リ之ヲ殺シタル時ハ其罪ヲ宥恕ス可シ

### 白耳義刑法

第三百九十八條 構意ヲ以テ毆傷スル者ハ八日ヨリ六月マテノ獄ニ處シ  
二十六「フランク」ヨリ百「フランク」迄ノ罰金ヲ命ス可シ若クハ唯一刑ノミ

ヲ科ス可シ

其謀毆殺ニ屬スル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處シ五十「フランク」ヨリ  
二百「フランク」迄ノ罰金ヲ科ス可シ

第三百九十九條 凡ソ毆傷ニ因テ疾病若クハ動作ヲ害スルニ致ス者ハ二  
月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ五十「フランク」ヨリ二百「フランク」迄ノ罰金ヲ  
科ス可シ

其謀毆殺ニ屬スル者ハ六月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ百「フランク」ヨリ五  
百「フランク」迄ノ罰金ヲ科ス可シ

第四百條 凡ソ毆傷シ因テ命ニ關スル篤疾若クハ終身癱疾若クハ身體ノ  
一部ヲ損セシメ若クハ支體ヲ打傷スル者ハ二年ヨリ五年マテノ獄ニ處  
シ二百「フランク」ヨリ五百「フランク」マテノ罰金ヲ科ス可シ

其謀殺傷ニ屬スル者ハ監役ニ處ス可シ

第四百一條 凡ソ殺サント欲スルニ非スシテ毆傷シ因テ死ニ致ス者ハ監  
役ニ處ス可シ

其謀毆殺ニ因テ死ニ致ス者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ

第四百二條 凡ソ人ヲ殺サントスル意ニ非スシテ死去若クハ篤疾ヲ致ス可キ物質ヲ與ヘ因テ疾病若クハ大ニ健康ヲ害スルニ致ス者ハ三月ヨリ五年マテノ獄ニ處シ五十「フランク」ヨリ五百「フランク」マテノ罰金ヲ科ス可シ

第四百三條 凡其物質命ニ關スルノ疾若クハ終身瘡疾ノ原由トナリ若クハ身體ノ一部ヲ失ハシムルニ致ス者ハ監役ニ處ス可シ

第四百四條 凡ソ殺サント欲セス前條ノ物質ヲ與ヘ因テ死ニ致ス者ハ十五年ヨリ二十年マテノ懲役ニ處ス可シ

第四百五條 凡ソ殺サント欲セス第四百二條ノ物質ヲ試ムル者ハ一月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ二十六「フランク」ヨリ三百「フランク」マテノ罰金ヲ科ス可シ

第四百十一條 強暴ノ所行ニ逢ヒ人命危キニ至リ已ムヲ得ス人命若クハ毆傷ヲ犯ス者ハ宥恕ス可シ

第四百十二條 白日ニ墻壁ヲ越ヘ或ハ住屋居室及ヒ其附屬所ノ戸ヲ破壊シ侵入スル者ヲ其主人毆傷シ其狀ヲ檢スルニ侵入者面ノアタリ其主人ヲ害セントスル勢アルカ或ハ防禦ニ抗拒セントスル勢アルノ證ヲ得ル者ハ宥恕ス可シ

第四百十三條 姦婦姦夫若クハ姦夫姦婦ヲ其犯姦所ニ殺傷スル者ハ宥恕ス

第二百二十三條 故ラニ暴辱ヲ爲シ他人ノ健康ニ害ヲナルタル者ハ身體ヲ害シタル罪トナシ三年ヨリ長カラサル禁獄或ハ一千「マルク」ニ至ル罰金ニ處ス可シ

第二百二十四條 各種ノ居動ヲ受ケタル人ノ緊要ナル四肢或ハ兩目又ハ唯一目又ハ聽覺語音ノ具或ハ氣機ヲ失ハシメ又ハ其害ヲ受ケタル者篤疾癱瘓トナリ或ハ之ニ因テ痲痺精神病トナリタル時ハ五年ニ至ル徒刑或ハ一年ヨリ短カラサル禁獄ニ處ス可シ

第二百二十五條 前條ニ記シタル害ノ一ヲ爲サン爲メ豫メ謀リテ行フタ

ル者ハ二年ヨリ十年ニ至ル徒刑ニ處ス可シ

第二百二十六條 若シ其傷ヨリシテ其害ヲ受ケタル人ヲ死ニ致シタル時ハ三年ヨリ短カラサル時間ノ徒刑或ハ三年ヨリ短カラサル禁獄ニ處ス可シ

第三百二十七條 多衆ニテ人ヲ毆打シ又ハ襲撃シテ死ニ致シ又ハ重傷ヲ爲シタル時其毆打襲撃ニ與シタル者ハ止タ其與シタルノ一事ヲ以テ皆三年ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス但シ本人ノ過誤ナクシテ害ヲ被リタル時ニ限ル可シ

止タ一傷ニ非ラスシテ數傷ヲ以テ死ニ致シ又ハ重傷ヲ爲シタル時其創傷毆撃ヲ各時ニ成シタルト見做サルル者ハ皆五年ヨリ長カラサル徒刑ニ處ス可シ

第二百二十九條 人ノ健康ヲ害セントスルノ目的ニテ毒藥又ハ其健康ヲ害セントスルニ適當ナル物品ヲ用ヒタル者ハ十年ヨリ長カラサル徒刑ニ處ス可シ若シ之ニ因テ重傷ヲナシタル時ハ少クモ五年間徒刑ニ處シ

若シ之ニ因テ死ニ致シタル時ハ十年ヨリ短カラサル徒刑又ハ無期ノ徒刑ニ處ス可シ

第二百三十一條 何レノ場合ヲ論セス傷ヲナシタル時ハ本刑ノ外裁判所ニ於テ其傷害ヲ被リタル者ノ求メニヨリ其者ノ爲メニ二千ターレルニ至ル償金ヲ命スルコトヲ得ヘシ

此場合ニ於テハ傷害ヲ被リタル者其餘ノ償金ヲ取ルコトヲ得ス其償金ヲ出スヘク命セラレタル者多衆ナレハ皆連帶ス可シ

英吉利刑法典

一 事突然ト發リ互ニ鬪毆シ一時ノ忿激ニ堪ヘス因テ人ヲ死ニ致ス者ハ有心鬪毆殺ト爲シ重罪ニ坐シ鬪毆殺ノ罪トス若シ即時ニ非ラス怒氣過クルノ後殺ス者ハ仍ホ謀殺罪ヲ以テ論ス

一 鬪毆殺ヲ犯ス者ノ處刑ハ判事ノ適當トスル所ニ依テ五年ヨリ終身ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過キササル所ノ入獄ニ處シ情ニ依リ苦役ヲ加ヘ若クハ止タ贖罪ニ處シ或ハ贖罪ヲ本刑ニ加ヘテ處斷ス

- 一 二人共ニ鬪殺スルニ傍人アリ爲メニ和解セントシ説諭スルヲ用ヒス却テ之ヲ毆チ死ニ致ス者ハ謀殺ヲ以テ論ス
- 一 保辜限内ハ其罪犯人ヲ殘傷セシムル日ヨリ通計シ一年一日即チ三百六十六日ヲ以テ期限ト爲シ若シ限内ニ於テ死ニ至ル者ハ其殺罪ニ坐ス
- 一 一人ヲ癱疾篤疾ニ爲サント謀リ或ハ捕吏ノ掣獲ヲ拒防センコトヲ謀リ因テ人ヲ殘傷シ若クハ發砲スル者モ重罪ニ坐シ五年ヨリ終身ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過キササル入獄ニ處シ若クハ苦役及隘牢ヲ加フ
- 一 廢篤疾若クハ拒防等ヲ謀ルコトナクシテ止タ人ヲ傷殘スル者ハ兇器ノ有無ニ拘ハラヌ輕罪ニ坐シ五年ノ徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過キササル入獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加フ
- 一 故ラニ火藥破裂物ヲ破裂セシメ人ヲ燬傷シ及ヒ廢篤疾ニ至ラシムル者ハ重罪ニ坐シ謀殺人罪狀明白者ニ依テ論シ且ツ打背罪ヲ加フ年十六以下ノ者犯スト雖トモ判事ノ適意ニ依テ仍ホ本刑ヲ加フ
- 若シ情ヲ知テ爲メニ火藥破裂物等ヲ製造シ或ハ送與シ若クハ熱灰等ヲ

- 以テ人ニ投擲シ因テ人ヲ燬傷シ及ヒ癱篤疾ニ爲サント謀ル者ハ人ヲ傷スルト傷セサルトヲ問ハス罪亦同シ
- 一 故ラニ卒然ト人ヲ毆打スル者ハ折傷セスト雖モ輕罪ニ坐シ一年ニ止ル入獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加フ
- 若シ損害スル者ハ五年ノ徒罪或ハ二年ニ至ル入獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加フ或ハ民事裁判所ニ於テ償金ヲ附與セシム
- 若シ人ヲ毆撃スルト雖モ其情狀尤モ輕キ者ハ即日治安裁判所ニ於テ五封度ニ至ル贖金ヲ出サシメ或ハ二月ニ止ル入獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加フ
- 一 宮殿内ニ於テ人ト鬪毆シ折傷セシムル者ハ輕侮宮殿罪ニ坐シ罰金ヲ出サシメ且ツ帝國ノ意ニ満足スル所ノ年限ニ依テ入獄ス
- 一 若シ人ヲ侵撃シ因テ重罪ニ該ル罪ヲ犯サント欲シ或ハ捕吏ノ己レヲ捕獲セントスルヲ抵防セン爲メニ之ヲ侵撃シ或ハ諸工商人等ノ衆徒ヲ糾連シテ雇工賃錢若クハ物價ヲ上直ニセンコトヲ希圖シ餘人ノ同意セ

ナル者ヲ侵撃スル者ハ並ニ輕罪ニ坐シ二年ノ入獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加フ

- 一 凡二人以上共ニ同ク人ヲ毆テ或ハ徒黨ヲ企テント謀リ其一人因テ人ヲ殺ス者ハ謀殺ヲ以テ論シ餘人皆其罪ヲ同クス
- 一 凡兇藥ヲ以テ人ヲ速死セシメ因テ事ヲ行ハント謀ル者ハ其自ラ之ヲ與ヘ及ヒ人ヲシテ與ヘシメ或ハ已ニ與ヘ及ヒ未タ與ヘサルトヲ問ハス重罪ニ坐シ謀殺人罪狀明白者ヲ以テ論シ仍ホ判事ノ適意ニ依テ笞刑ヲ加フ

魯西亞刑法

第千九百三十五條 人ヲ殺サントスル目的ナシト雖モ故意ヲ以テ凡ソ死ニ至ル可キ毆打創傷ヲ爲セシ者ハ情狀ニ從ヒ第五十三條ニ記載セル權利ヲ剝奪シテ一年以上三年以下入懲治監或ハ六月以上一年以下禁獄ノ刑ニ處セラル可シ但シ犯人若シ耶蘇教ニ屬スル者ナルトキハ本刑ノ外寺門ノ懲戒ヲ受ク可シ

第千九百三十六條 數人相與ミシテ宿意無ク人ヲ毆打シ因テ死ニ致サシメタル時ハ凡ソ直接ニ此毆打ヲ爲セシ數人ハ皆第五十三條ニ掲グル權利ヲ剝奪シテ一年以上二年以下懲治監ノ刑ニ處セラレ其他該人耶蘇奉教人ナルトキハ寺門ノ懲戒ヲ受ク可シ

第千九百四十八條 豫謀ヲ以テ重ク他人ノ身體ヲ折傷シ或ハ其健康及ヒ能力ヲ著シク害スルカ或ハ視聽言語手足若クハ辨識力ヲ損失セシメ或ハ其面部ヲ長ク不具ナラシメタル者ハ其豫謀僞略殘刻方便ノ性質生命ノ安否及ヒ被害者糊口營業等ノ方途ヲ失ヒシ等尙ホ其他ノ情狀ニ從テ重刑ノ第二類第七等或ハ重刑ノ第三類第二等ニ處セラルヘシ但シ同上身體ノ折傷健全ノ損亡ヲ爲スニ當リ凌虐慘酷ヲ用ヒシ時ハ犯人重刑ノ第二類第六等刑ニ處セラル可シ

第千九百四十九條 豫メ謀テ人ニ輕傷ヲ負ハシメシ者ハ前條ニ掲ケシ情狀ニ從テ懲治刑ノ第一類第二等第三等第四等或ハ五等ニ處セラル可シ  
第千九百五十一條 豫圖無ク唯タ憤怒ノ餘決意シテ他人ニ折傷ヲ加ヘ或



ハ其面部ヲ長ク不具ナラシメシ者ハ折傷ノ性質憤怒ヲ生セシ事由及ヒ  
其他ノ情狀ニ從テ懲治刑ノ第一類第五等或ハ第五十三條ニ記載セル權  
利ヲ剝奪シテ一年以上二年以下懲治監或ハ六月以上一年以下禁獄ニ處  
セラル可シ

第千九百五十二條 豫謀ヲ以テ他人ニ重ク創傷ヲ負ハシメシ者ハ創傷性  
質及ヒ用ヒタル兇器ノ品類、創セラレシ體部ノ貴重苦惱ヲ受クル時間ノ  
長短及ヒ其營業ニ害有ルノ多少等ニ從テ重刑ノ第三類第二等或ハ懲治  
刑ノ第一類第三等或ハ第五等ニ處セラル可シ

第千九百七十三條 豫謀ヲ以テ他人ニ一個若クハ數個ノ創傷ヲ與ヘシ者  
ハ第千九百五十二條ニ掲クル情狀ニ從ヒ懲治刑ノ第一類第五等或ハ一  
年以上二年以下禁獄ノ刑ニ處セラル可シ

第千九百五十四條 豫謀無ク唯タ一時憤怒ノ餘然レトモ苦惱ヲ與ヘント  
スル心ヲ定メ以テ他人ヲ毀傷セル者其毀傷大ナル時ハ懲治刑ノ第一類  
第五等又其毀傷大ナラサル時ハ三月以上六月以下禁獄ノ刑ニ處セラル

可シ

第千九百五十五條 豫謀ヲ以テ他人ノ身體ヲ打傷シ因テ其死ヲ致ストキ  
ハ重刑ノ第二類第五等ニ處セラル可シ

然レトモ豫謀無ク唯タ憤怒ノ餘害傷セント欲スルノ意ヲ以テ打傷シ遂  
ニ死亡ヲ致ス時ハ犯人懲治刑ノ第一類第二等ニ處セラル可シ

第千九百五十六條 豫謀無ク二人以上共ニ人ヲ毆打創傷セル時ハ現ニ此  
所業ニ手ヲ下セシ者一年以上二年以下禁獄ノ刑ニ處セラル可シ

然レトモ其手ヲ下セシ者判然セサルトキハ首謀或ハ言語所業等ヲ以テ  
之ヲ毆チ或ハ之ヲ贊成セシ者情狀ニ從テ三月以上一年以下禁獄及ヒ其  
他ノ共犯者ハ七日以上三週以下禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第千九百五十七條 豫メ他人ノ健康ヲ害ス可キ目的ヲ以テ毒劑或ハ健康  
ニ害有ル物品ヲ其食物或ハ飲料中ニ混入シ其他或ル方法ヲ以テ施用シ  
以テ其身體健康ヲ害シ其疾病遂ニ治スヘカラサルニ至ラシメシ者ハ疾  
病ノ性質ニ從ヒ第千九百四十八條中豫謀ヲ以テ重ク身體打傷ヲ爲セシ

者ニ加フル刑ノ一ニ據テ處斷ス可シ又其疾病再ヒ全快スヘキ時ハ疾病ノ性質及ヒ其全快ノ難易等ニ從テ第千九百四十九條中少シク打傷ヲ爲ス者ニ科スル刑ノ一ニ處セラル可シ但シ右兩個ノ場合トモ其擬セラレシ刑ノ尤モ重キモノヲ受ク可シ

本罪ヲ犯ス者若シ醫師藥店或ハ產婆ニ係ルトキハ其刑ニ一等ヲ加フ

第千九百五十八條 毒藥劇劑ヲ用ヒス他ノ方法ニテ故ラニ他人ノ精神錯

亂ヲ生セシメシ者モ亦第千五百五十七條ノ刑ヲ受ク可シ

第千九百五十九條 第千九百五十七條及ヒ第千九百五十八條中ニ記載セ

ル重罪ノ一ヲ以テ人ヲ死ニ致ス者ハ第千九百五十五條ニ掲クル刑ノ尤

モ重キモノヲ以テ論セラルヘシ

塊太利刑法

第百九十三條 數人ノ間ニ生シタル爭鬪若クハ一人乃至數人ニ對セシ暴

行ヲ以テ一人ヲ死ニ致ス時ハ其死ニ至ルヘキ創傷ヲ爲セシ者故殺ノ罪

ヲ以テ論セラル可シ然レトモ其死ニ至ルヘキ打傷或ハ暴行若シ該黨一

般ノ手ニ係ルカ又ハ該犯者判明セサル時ハ凡ソ其所業ニ關係セシ者皆毆打創傷ノ罪(第百五十二條)トシ五年以下ノ重徒刑ニ處セラル可シ

第百五十五條 然レトモ左ノ各件ニ於テハ犯人一年以上五年以下ノ重徒

刑ニ處セラレ且ツ加嚴法第十九條ヲ用ラルヘシ

(ロ) 斯ノ毀傷ヲ以テ長ク被害者ノ健康ヲ害シ又ハ少クモ三十日間職業

ニ堪ヘ得サラシメシ時

(ハ) 被傷者ノ特ニ苦痛ヲ生スヘキ所業ヲ爲セシ時

第百五十六條 又其重犯左ノ如クナル時ハ犯人五年以上十年以下ノ重徒

刑ニ處セラル可シ

(イ) 被傷者ノ言語視聽ヲ能クセサルニ至ラシメ或ハ之ヲ衰ヘシメ又ハ

其陰具目腕手ヲ害シ爾他著シキ毀傷ヲ以テ不具ナラシメタル時

(ロ) 漸次衰弱累瘦ニ至リ又ハ治ス可ラサル痼疾恢復ス可カラサル精神

病トナル時

(ハ) 全ク其職業ニ堪ヘ得サラシムル時

米國刑法

第五千三百四十一條 第五千三百三十九條ニ記載シタル陸地又ハ水上ニ在テ惡意ナク非法人ヲ射彈毆打刺擊傷創シ因テ死ニ致ス者ハ鬪毆殺トス

第五千三百四十二條 第五千三百三十九條ニ記載シタル陸地又ハ水上ニ在テ謀殺若クハ鬪毆殺ヲ行テ成ラサル者ハ三年以下ノ入獄ニ處シ情ニ依テ苦役ヲ加ヘ且一千弗以下ノ贖金ヲ科ス

第五千三百四十三條 鬪毆殺ハ三年以下ノ入獄ニ處シ情ニ依テ苦役ヲ加ヘ且一千弗以下ノ贖金ヲ科ス但シ法律ニ別段ノ罰ヲ定ムルトキハ此限ニアラス

第五千三百四十八條 合衆國特轄内ノ陸地又ハ大洋ニ於テ合衆國又ハ合衆國人民ニ屬スル船舶ニ在テ惡意ヲ懷キ人ノ耳ヲ截チ目ヲ瞑シ舌ヲ切リ唇ヲ斷チ及ヒ四肢ヲ切斷シ又ハ不具ニスル者ハ七年以下ノ加苦役入獄ニ處シ且一千弗以下ノ贖金ヲ科ス

印度刑法

第三百十九條 人ヲ痛苦疾病衰弱ニ致ス之ヲ人ヲ損傷スト云フ  
第三百二十條 左ニ掲クル損傷ヲ名ケテ重損傷ト云フ

- 一 男勢ヲ去ル
- 二 永久一目ヲ瞑ス
- 三 永久一耳ヲ毀ル者
- 四 一肢ヲ破ル
- 五 永久肢力ヲ壞ル
- 六 永久頭形面容ヲ壞ル
- 七 骨或ハ齒ヲ折跌又ハ破碎ス
- 八 命ヲ危フシ或ハ二十日身體ヲ疾苦セシメ又ハ常識ヲ執ル能ハサラシムルノ損傷ヲ蒙ラス

第三百二十一條 損傷ヲ蒙ラスルノ意ヲ以テ或ハ損傷ヲ蒙ラスルニ至ルノ恐アルヲ知テ一所爲ヲ行ヒ因テ人ニ損傷ヲ蒙ラスル之ヲ故ラニ損傷

ヲ蒙ラスト云フ

九九〇

第三百二十二條 其蒙ラセント圖リ或ハ蒙ラスルニ至ルヲ恐ルル處ノ損傷重傷ニシテ其實ニ蒙ラスル所重損傷ナルトキハ之ヲ蒙ラセタル人ヲ稱シテ故ヲニ重損傷ヲ蒙ラスル者ト云フ

第三百二十三條 第三百三十四條ニ記載スル場合ノ外故ヲニ人ヲ損傷スル者ハ一年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ併科ス  
第三百二十四條 第三百三十四條ニ記載スル場合ノ外金刃射器又ハ其他死ヲナスニ足ル所ノ器或ハ火又ハ熱物或ハ毒物或ハ呼吸血運ヲ害スル物或ハ爆散物又ハ獸類ヲ以テ故ヲニ人ヲ損傷スル者ハ三年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ併科ス

第三百二十五條 第三百三十五條ニ記載スル場合ノ外故ヲニ人ヲ重損傷スル者ハ七年ニ止ル各種ノ入獄及ヒ贖金ニ處スヘシ  
第三百二十六條 第三百三十五條ニ記載スル場合ノ外金刃射器又ハ其他死ヲナスニ足ル所ノ器或ハ火又ハ熱物或ハ毒物或ハ呼吸血運ヲ害スル

者或ハ爆散物又ハ獸類ヲ以テ故ヲニ人ヲ重損傷スル者ハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且ツ贖金ヲ科スヘシ

第三百二十七條 被害者或ハ被害者ニ關係アル者ノ財物或ハ有價ノ保證ヲ奪ヒ若クハ被害者或ハ被害者ニ關係アル者ニ迫テ不法ノ事又ハ犯罪ヲ容易ナラシムルノ事ヲナサシムルカ爲メ故ヲニ損傷ヲ蒙ラスル者ハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科スヘシ

第三百二十九條 被害者或ハ被害者ニ關係アル者ノ財物又ハ有價ノ保證ヲ奪ヒ若クハ被害者又ハ被害者ニ關係アル者ニ迫テ不法ノ事又ハ犯罪ヲ容易ナラシムルノ事ヲナサシムルカ爲メ故ヲニ重損傷ヲ蒙ラスル者ハ終身流若クハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科スヘシ(一千八百七十年決議第二十七條第二十八條ヲ見ヨ)

第三百三十四條 忿怒ニ乘シ己レヲ怒ラスモノニ非サル人ヲ損傷スルノ意ナク又ハ之ヲ損傷スルノ意アルヲ知ラス故ヲニ損傷ヲ蒙ラスル者ハ一個月ニ止ル各種ノ入獄若クハ五百リユトビトニ過キサル贖金ニ處シ

刑法附則 第二編 加

九九一